

芦屋市第5期障害福祉計画策定に係る
意向調査報告書
(案)

平成29年3月

芦屋市

<目 次>

第一節 各種調査結果から見る概要	1
1 アンケート調査	1
(1) 調査の概要	1
2 調査結果	2
(1) 回答者の属性	2
(2) 生活について	8
(3) 日中の過ごし方, 仕事, 教育などについて	24
(4) 通院状況について	33
(5) 生活の不安, 相談などについて	35
(6) 障がい福祉サービスについて	40
(7) 災害への備えについて	52
(8) 障がいのある人に対する差別や虐待などについて	55
(9) 地域社会とのかかわりについて	62
(10) 消費生活について	66
(11) 芦屋市の取り組みについて	71
(12) 介護者の状況について	75
(13) 自由意見	78
第二節 調査結果の総括	80
(1) 回答者の属性	80
(2) 生活について	80
(3) 日中の過ごし方, 仕事, 教育などについて	81
(4) 通院の状況について	82
(5) 生活の不安, 相談などについて	82
(6) 障がい福祉サービスについて	82
(7) 災害への備えについて	83
(8) 障がいのある人に対する差別や虐待などについて	83
(9) 地域社会とのかかわりについて	83
(10) 消費生活について	84
(11) 芦屋市の取り組みについて	84
(12) 介護者の状況について	84
(13) 自由意見について	84
アンケート調査票	85

第一節 各種調査結果から見る概要

1 アンケート調査

(1) 調査の概要

■ 調査の目的

本調査は、芦屋市第5期障害福祉計画の策定に当たり、障がい福祉サービスの利用実態や障がい福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とすることを目的として実施しました。

■ 回収結果

調査対象者数 (配布数)	回収数	回収率
1,370	761 (うちメール回答5)	55.5% (前回 46.8%)

※ 芦屋市在住（居住地特例含む）で 65 歳未満の障がい者手帳（身体障害者手帳，療育手帳，精神障害者保健福祉手帳）所持者の中から無作為に抽出しています。

※ 平成 29 年 1 月に郵送による配布・回収方法で実施。回収については、郵送のほか本調査専用ホームページを構築し、調査票ファイル（Microsoft Word）をダウンロードして回答を入力・保存後、メールで事務局に送信する方法の2種類で実施。

■ 注意点

- ◆ 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0%とならない場合があります。
- ◆ 複数回答の質問は、回答比率の合計が 100.0%を超えます。
- ◆ 図表中、帯グラフでは、表示が煩雑になるため、3.0%未満の比率については数値表示を省略しています。
- ◆ 図表中、「N=」と表示されている数値は回答者数、それ以外の数値は回答比率の百分率（%）です。表示が煩雑になるため、%等の単位表示は省略しています。
- ◆ 図表中、表示が煩雑になることを避けるため、身体障害者手帳所持者は「身体」、療育手帳所持者は「知的」、精神障害者保健福祉手帳所持者は「精神」と表記しています。なお、重複手帳所持者がいるため、各手帳所持者数の合計は全体の回答者数を超えています。

2 調査結果

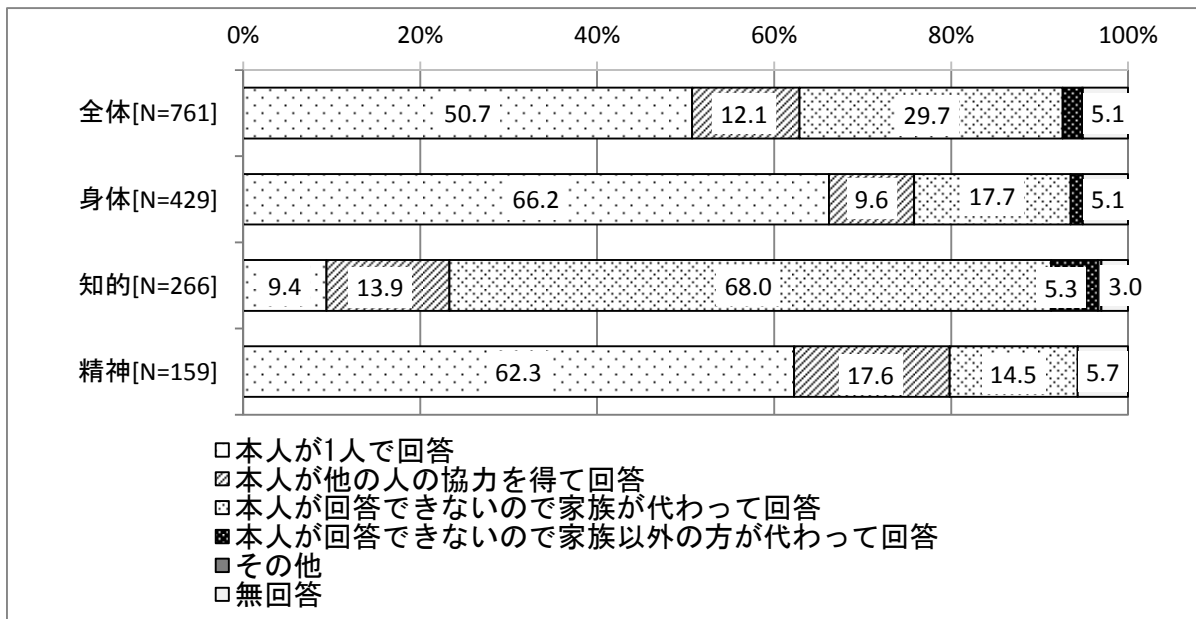
(1) 回答者の属性

① 回答者

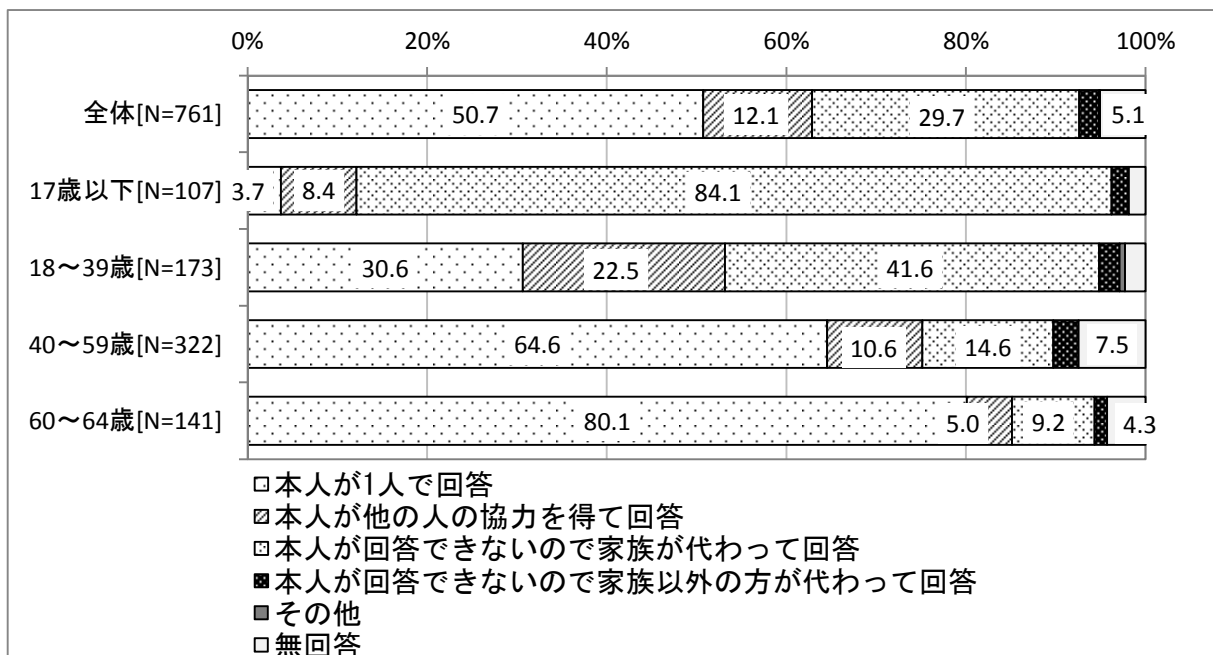
回答者については、「本人が1人で回答」が50.7%とほぼ半数を占め、「本人が回答できないので家族が代わって回答」が29.7%、「本人が他の人の協力を得て回答」が12.1%となっています。

知的障がいのある人では「本人が回答できないので家族が代わって回答」が68.0%と割合が高くなっています。年齢別でみると、17歳以下では、「本人が回答できないので家族が代わって回答」している割合が84.1%となっています。

図表 1 回答者[N=761]



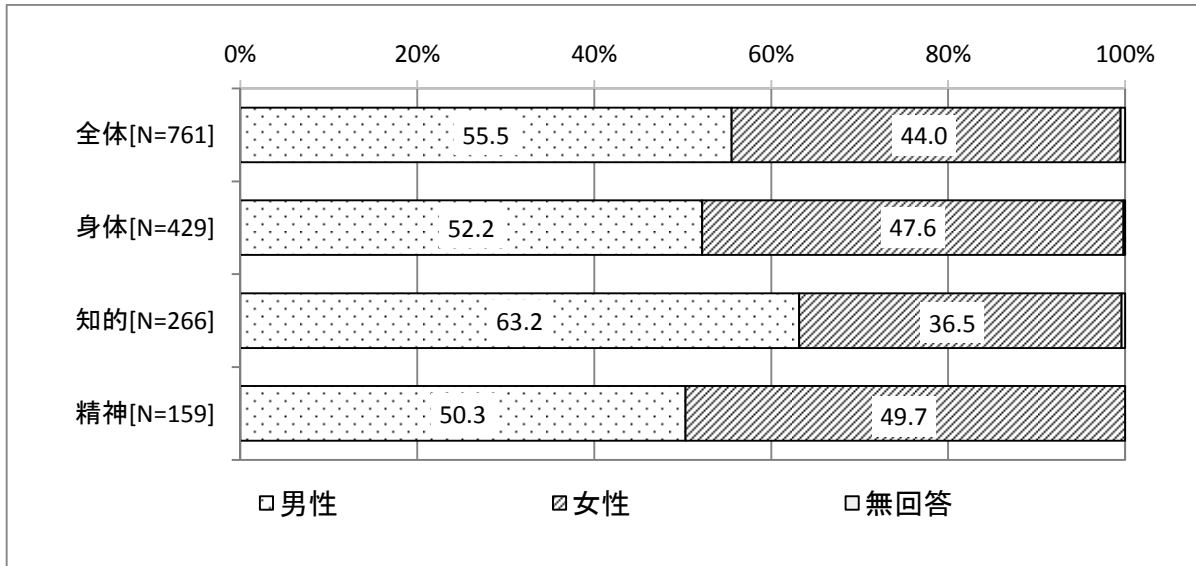
図表 2 回答者[N=761]



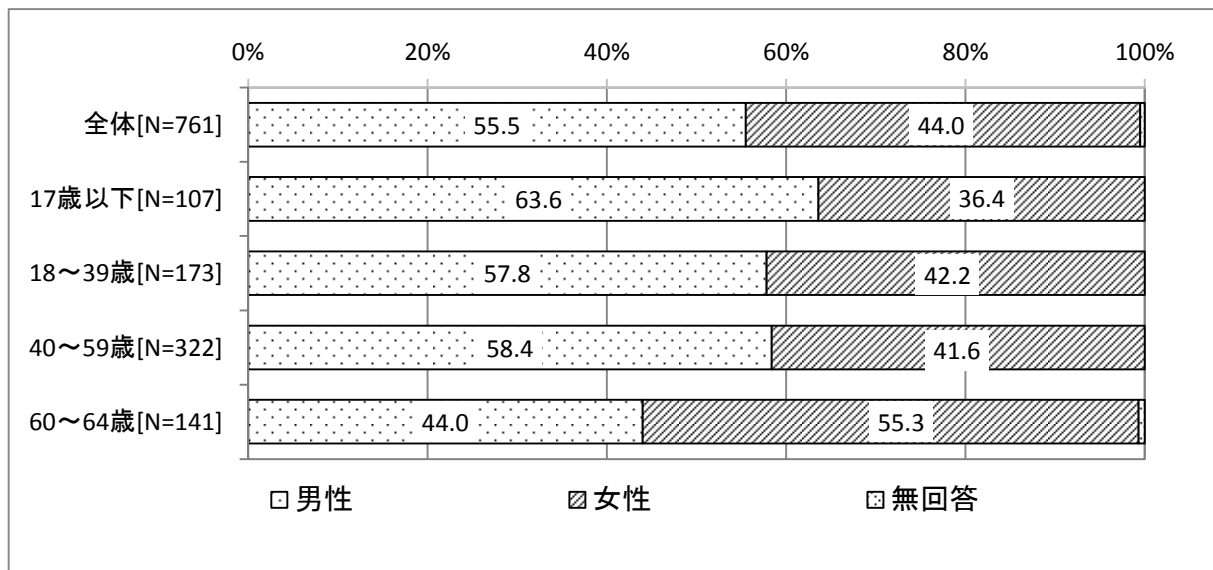
② 性別

性別については、「男性」が55.5%、「女性」が44.0%となっています。

図表 3 性別[N=761]



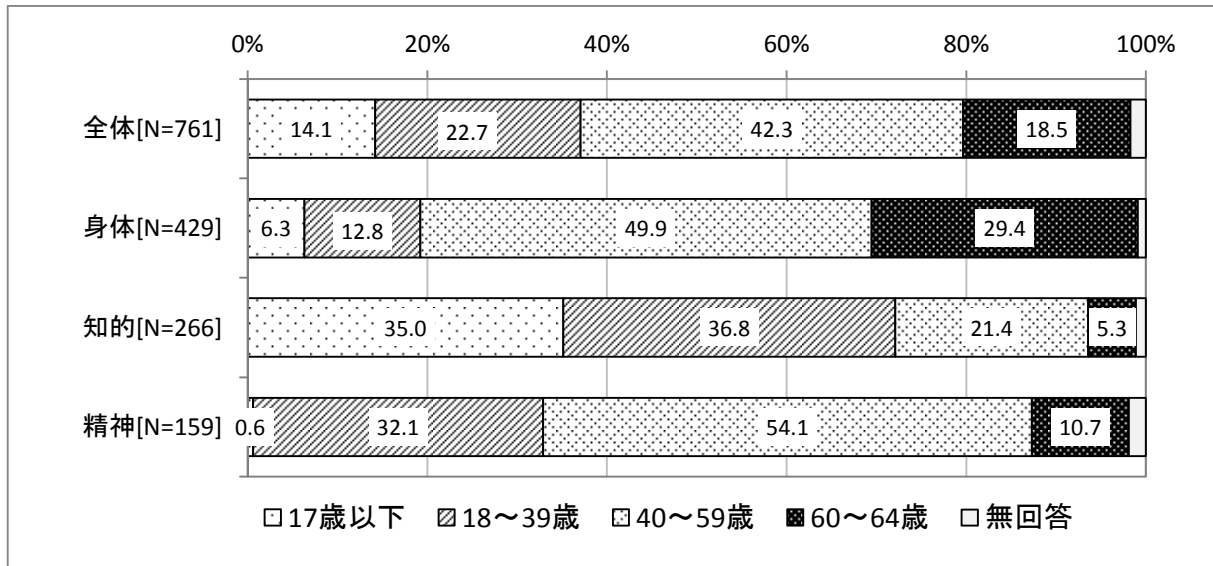
図表 4 性別[N=761]



③ 年齢

年齢は「17歳以下」が14.1%、「18～39歳」が22.7%、「40～59歳」が42.3%、「60～64歳」が18.5%となっています。知的障がいのある人では「17歳以下」「18～39歳」の割合が他の障がい種別に比べて高くなっています。

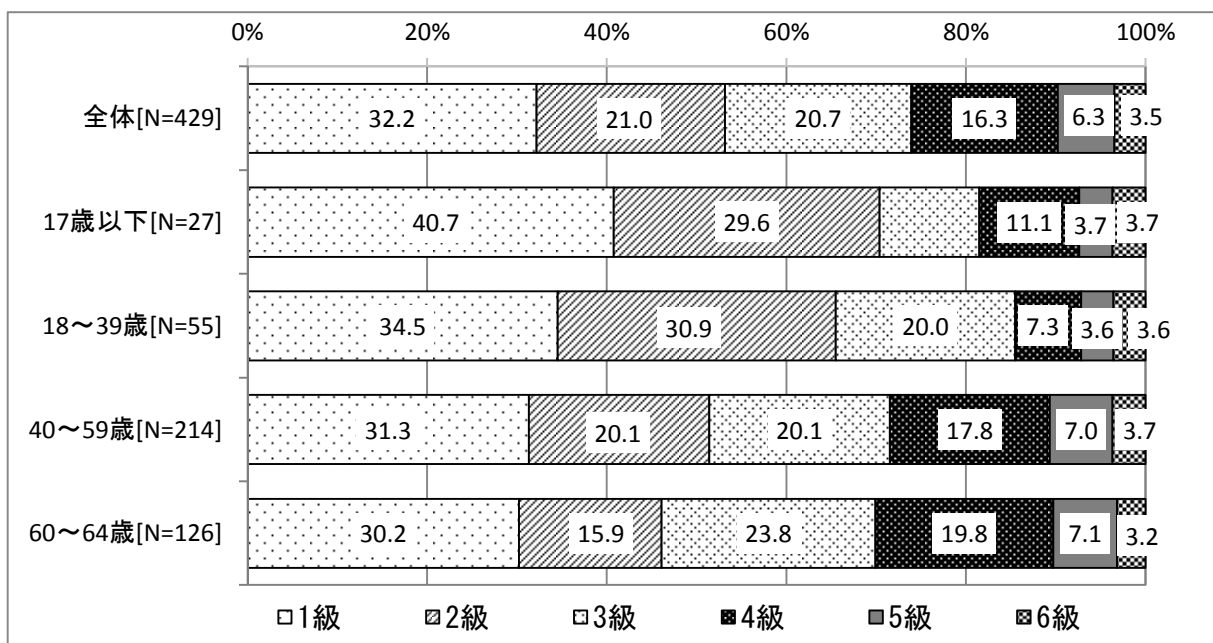
図表 5 年齢[N=761]



④ 身体障害者手帳等級

身体障害者手帳所持者の等級については、「1級」が32.2%、「2級」が21.0%、「3級」が20.7%が20.7%となっています。

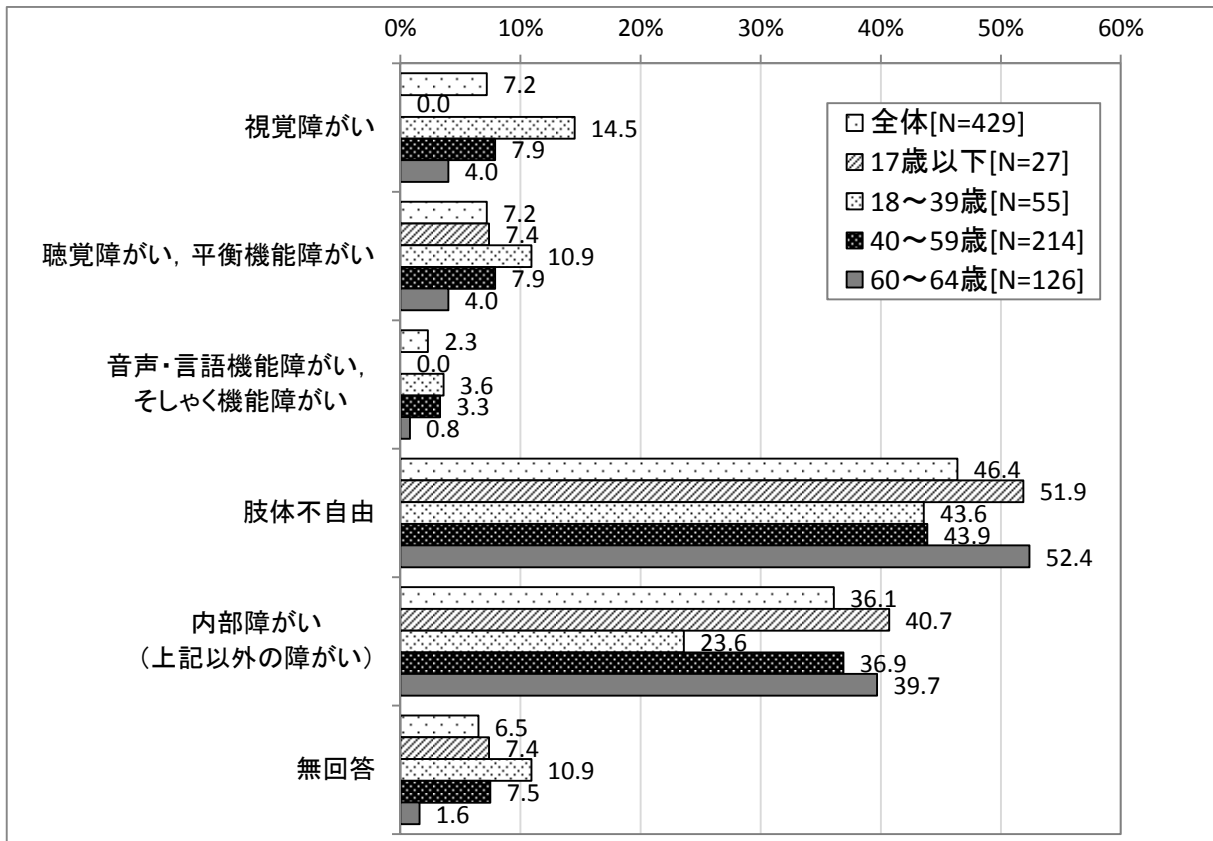
図表 6 身体障害者手帳等級[N=429]



⑤ 障がいの種類

身体障害者手帳を持っている人の主な障がいの種類は、「肢体不自由」が46.4%、「内部障がい」が36.1%、「聴覚障がい，平衡機能障がい」と「視覚障がい」がそれぞれ7.2%、「音声・言語機能障がい，そしゃく機能障がい」が2.3%等となっています。

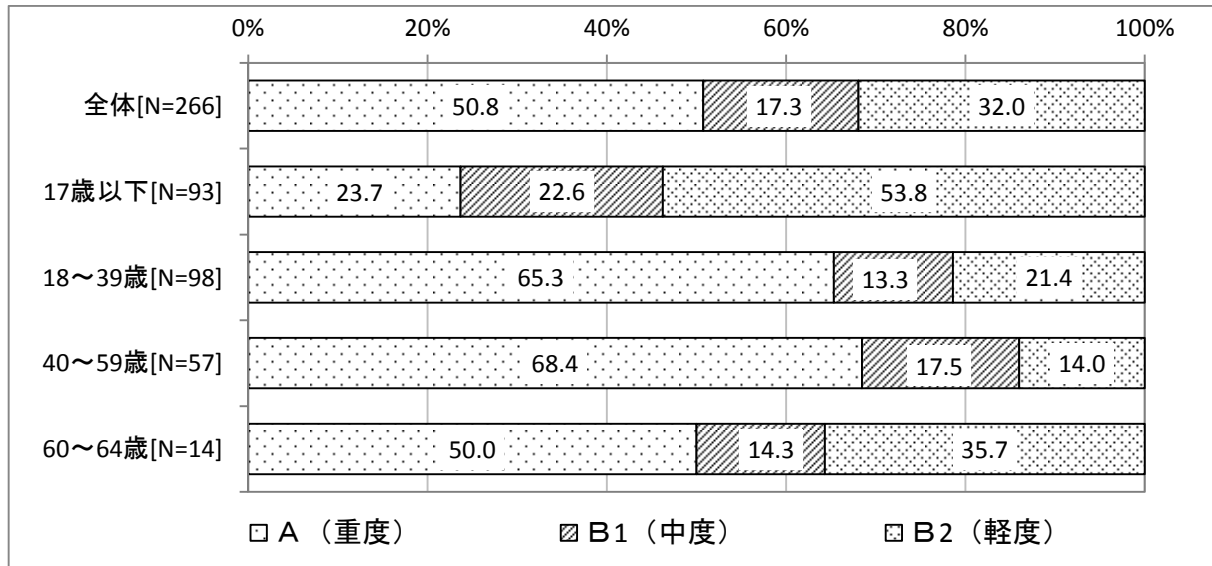
図表 7 障がいの種類[N=429]（複数回答）



⑥ 療育手帳の程度

療育手帳所持者の程度については、「A（重度）」が50.8%、「B2（軽度）」が32.0%、「B1（中度）」が17.3%となっています。17歳以下は「B2（軽度）」、「B1（中度）」が多く、「18～39歳」「40～59歳」では、「A（重度）」の割合が高くなっています。

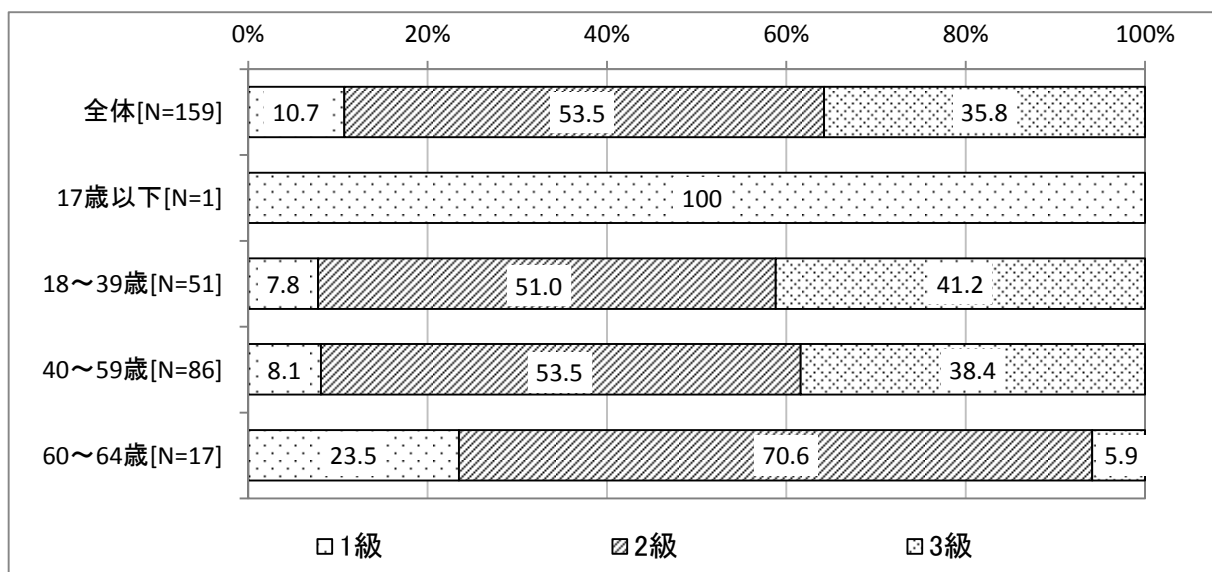
図表 8 療育手帳の程度[N=266]



⑦ 精神障害者保健福祉手帳等級

精神障害者保健福祉手帳所持者の等級については、「2級」が53.5%、「3級」が35.8%、「1級」が10.7%となっています。「60～64歳」では「1級」が23.5%となり、他の年代に比べて割合が高くなっています。

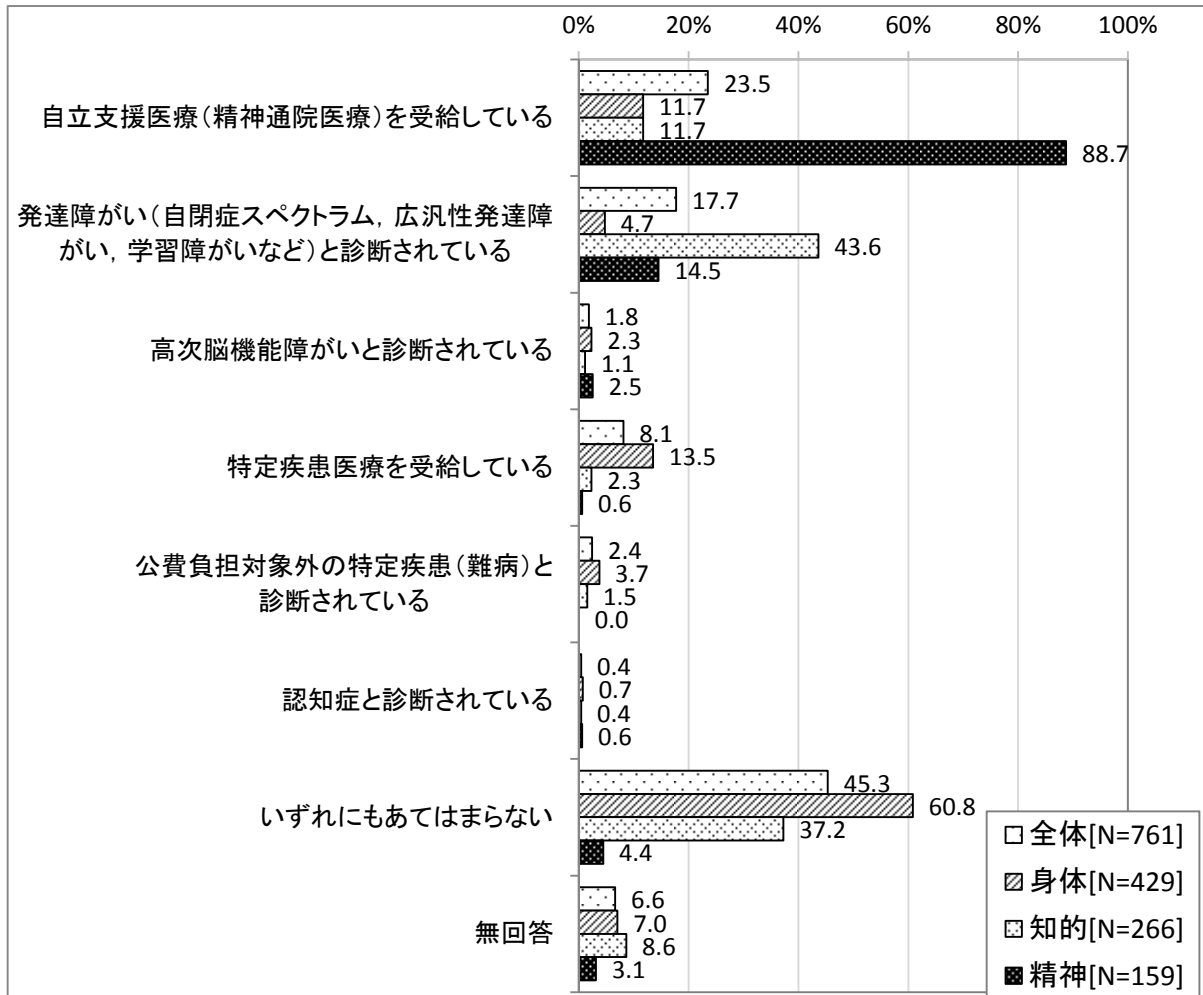
図表 9 精神障害者保健福祉手帳等級[N=159]



⑧ 障がいの診断

障がいの診断などについては、「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」が23.5%、「発達障がい（自閉症スペクトラム、広汎性発達障がい、学習障がいなど）と診断されている」が17.7%となっています。

図表 10 障がいの診断 [N=761] (複数回答)



前回調査（平成26年）と比較すると、発達障がいと診断された人が、すべての障がい種別で増えていますが、特に精神障がいのある人で割合が増えています。一方、高次脳機能障がいと診断された人の割合は低くなっています。

図表 11 障がいの診断（前回調査との比較）

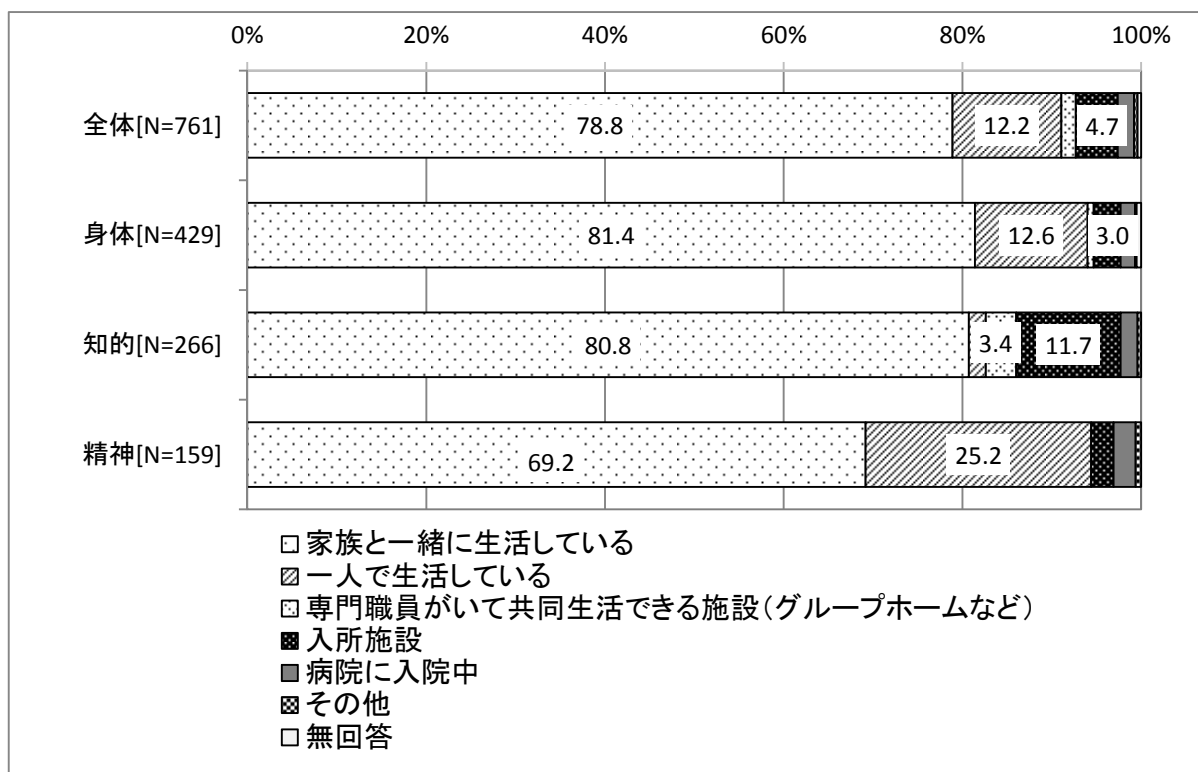
	身体		知的		精神	
	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度
N=	397	429	189	266	134	159
発達障がい(自閉症スペクトラム、広汎性発達障がい、学習障がいなど)と診断されている	3.0	4.7	34.4	43.6	6.7	14.5
高次脳機能障がいと診断されている	4.0	2.3	1.1	1.1	5.2	2.5

(2) 生活について

① 現在生活している場所

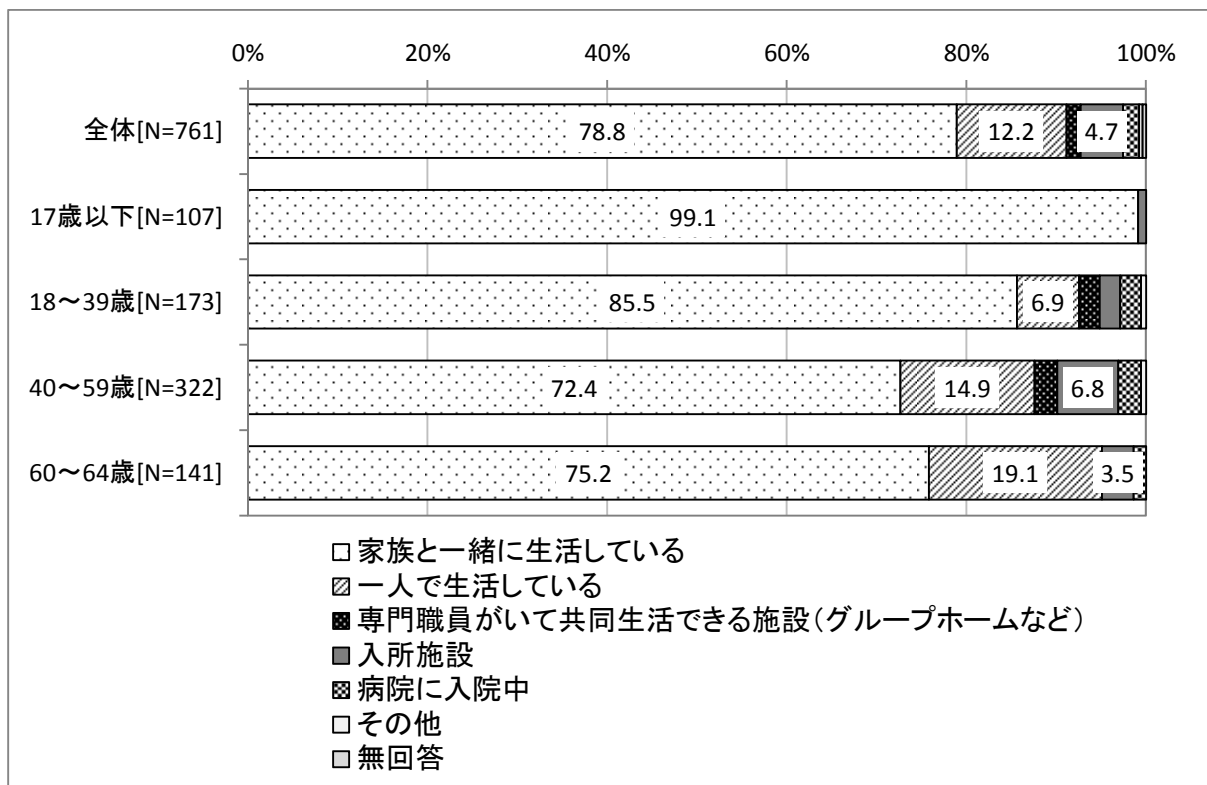
現在生活している場所については、「家族と一緒に生活している」が78.8%、「一人で生活している」が12.2%、「入所施設」が4.7%となっています。精神障がいのある人は他の障がい種別より「一人で生活している」人の割合が高く、また、知的障がいのある人は「入所施設」や「専門職員がいて共同生活ができる施設」で生活している人の割合が高くなっています。

図表 12 現在生活している場所 [N=761]



年齢別では、他の年齢に比べ40歳以上は「一人で生活している」人の割合が高くなっています。

図表 13 現在生活している場所 [N=761]



前回調査と比較すると、知的障がいのある人は「家族と一緒に生活している」と回答した割合が、また、精神障がいのある人は「一人で生活している」という回答割合が高くなっています。

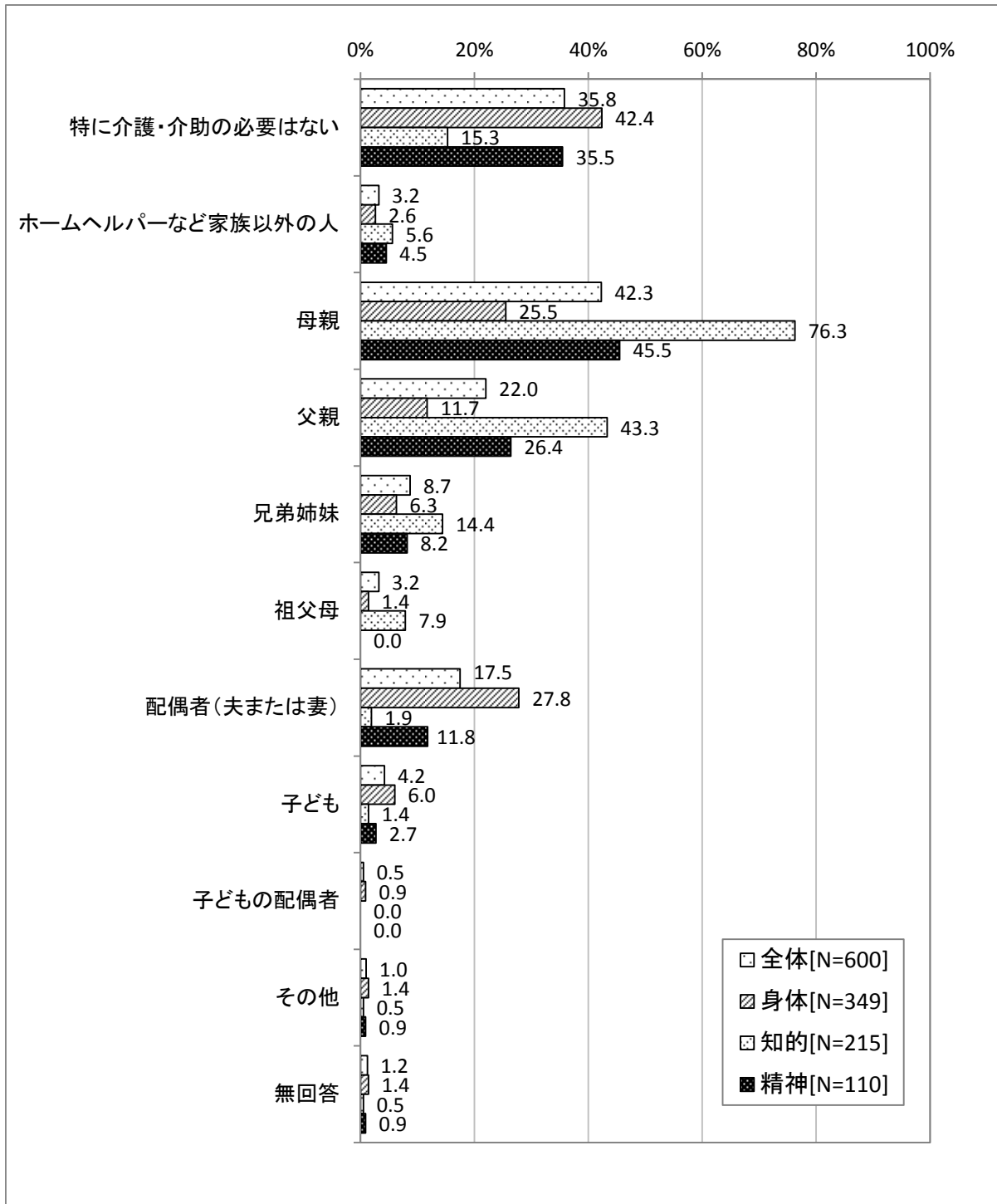
図表 14 現在生活している場所 (前回調査との比較)

	身体		知的		精神	
	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度
N=	397	429	189	266	134	159
家族と一緒に生活している	79.1	81.4	77.8	80.8	66.4	69.2
一人で生活している	12.6	12.6	3.7	1.9	20.1	25.2
専門職員がいて共同生活できる施設(グループホームなど)	0.5	0.7	3.2	3.4	3.0	0.0
入所施設	4.3	3.0	13.2	11.7	2.2	2.5
病院に入院中	2.0	1.6	1.6	1.9	3.7	2.5
その他	0.5	0.2	0.5	0.4	0.7	0.6
無回答	1.0	0.5	0.0	0.0	3.7	0.0

② 主な介護・介助者

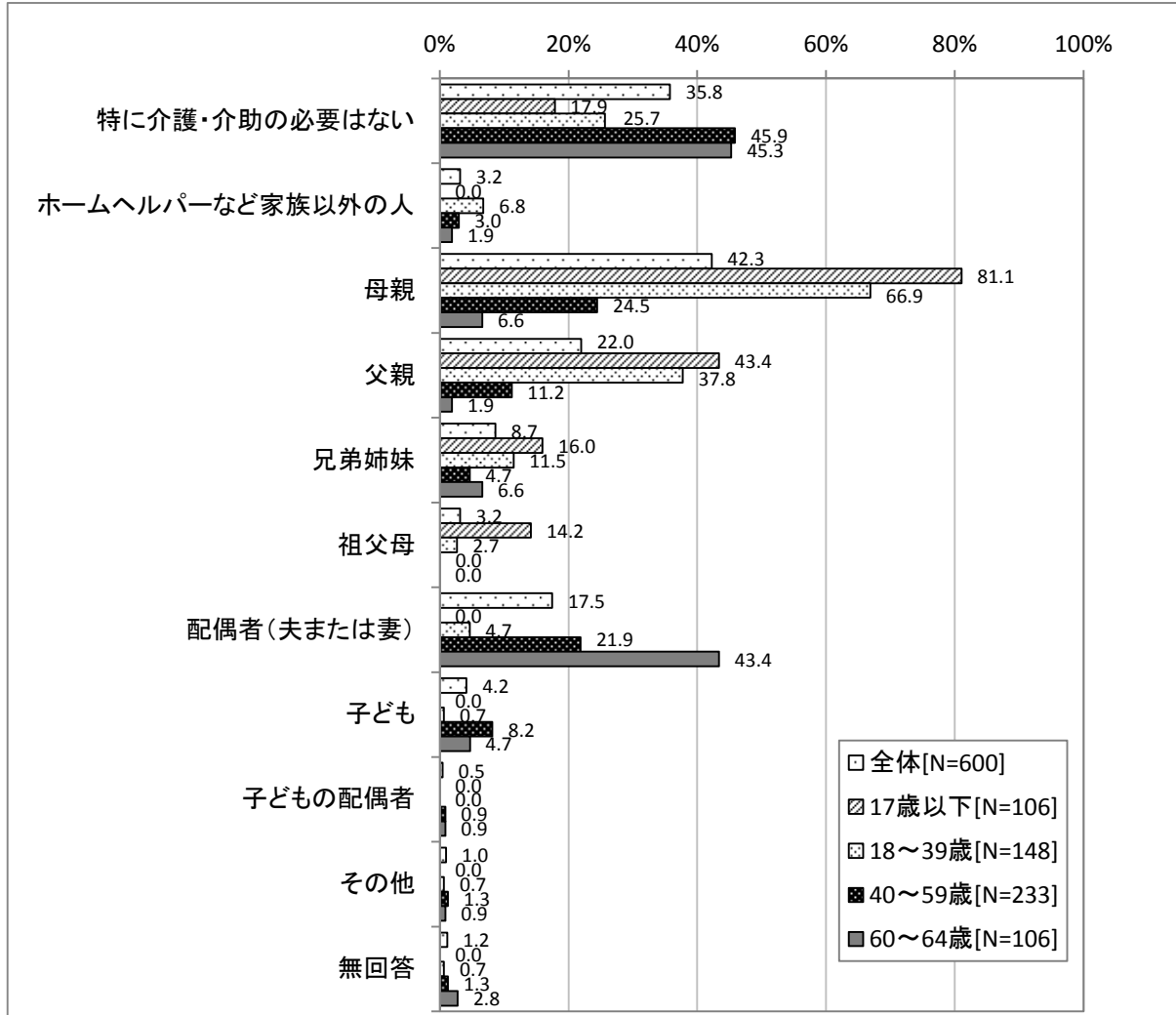
「家族と一緒に生活している」と回答した人の主な介護・介助をしている人は、「母親」が42.3%、「特に介護・介助の必要はない」が35.8%、「父親」が22.0%となっています。知的障がいのある人、精神障がいのある人については、「母親」「父親」の割合が高くなっています。

図表 15 主な介護・介助者[N=600]（複数回答）



年齢別では、40歳以上の人では「母親」「配偶者（夫または妻）」、60歳以上では「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。前回調査との比較では、「ホームヘルパーなど家族以外の人」の割合が下がり、「母親」「父親」「兄弟姉妹」の回答割合が高くなっています。

図表 16 主な介護・介助者[N=600]（複数回答）



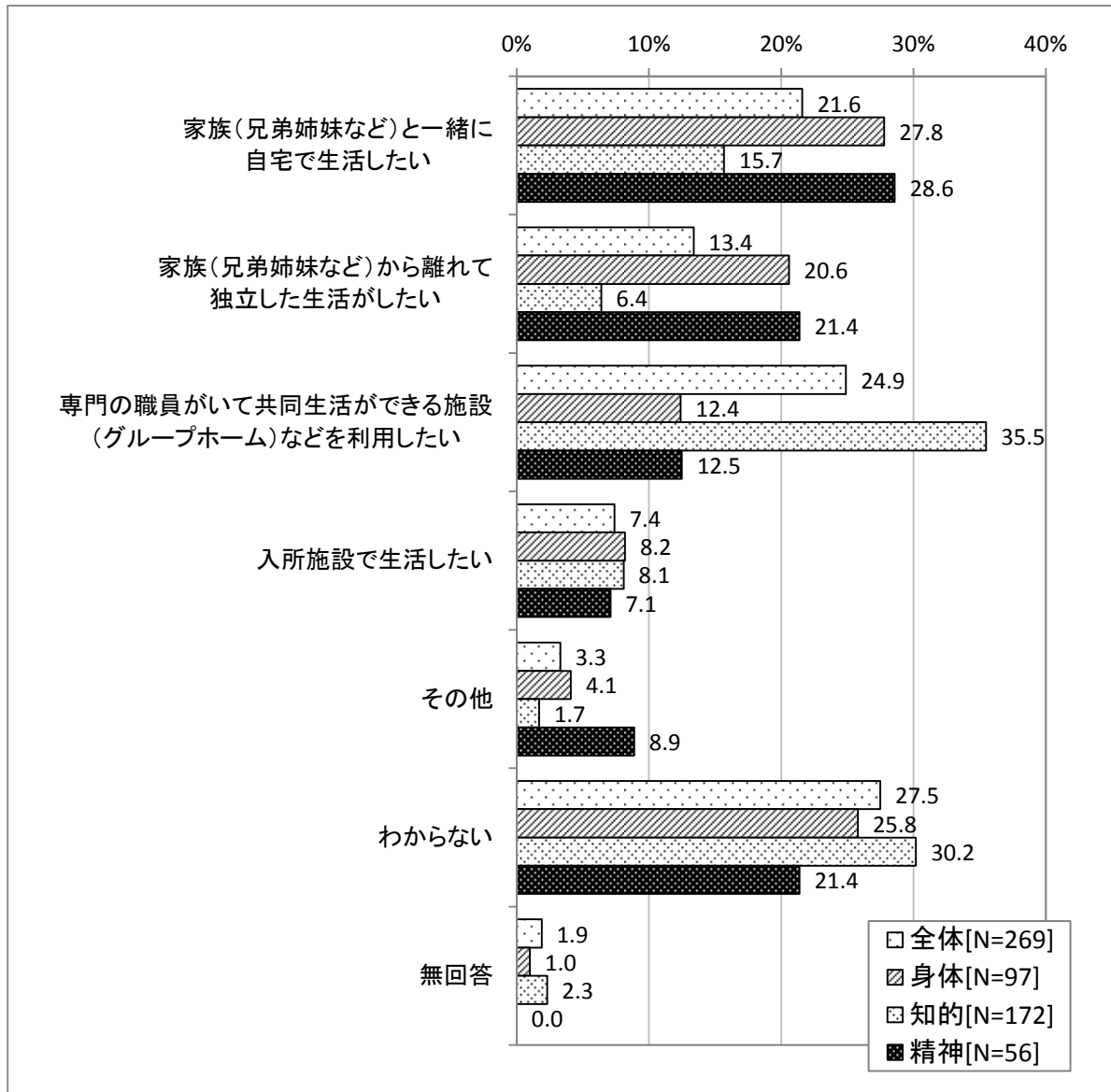
図表 17 主な介護・介助者（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度
N=	314	349	147	215	89	110
特に介護・介助の必要はない	42.4	42.4	15.0	15.3	28.1	35.5
ホームヘルパーなど家族以外の人	5.4	2.6	9.5	5.6	7.9	4.5
母親	22.0	25.5	71.4	76.3	37.1	45.5
父親	10.5	11.7	31.3	43.3	16.9	26.4
兄弟姉妹	2.2	6.3	8.2	14.4	1.1	8.2
祖父母	2.5	1.4	6.1	7.9	1.1	0.0
配偶者(夫または妻)	26.4	27.8	1.4	1.9	12.4	11.8
子ども	8.0	6.0	1.4	1.4	4.5	2.7
子どもの配偶者	0.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1.9	1.4	0.0	0.5	1.1	0.9
無回答	4.5	1.4	6.8	0.5	10.1	0.9

③ 親亡き後、生活してみたい場所

主に介護・介助している人が「母親」「父親」と回答した人に、親亡き後、どのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「わからない」が27.5%、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい」が24.9%、「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活したい」が21.6%となっています。知的障がいのある人は、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい」を選択する割合が、他の障がいに比べて高くなっています。

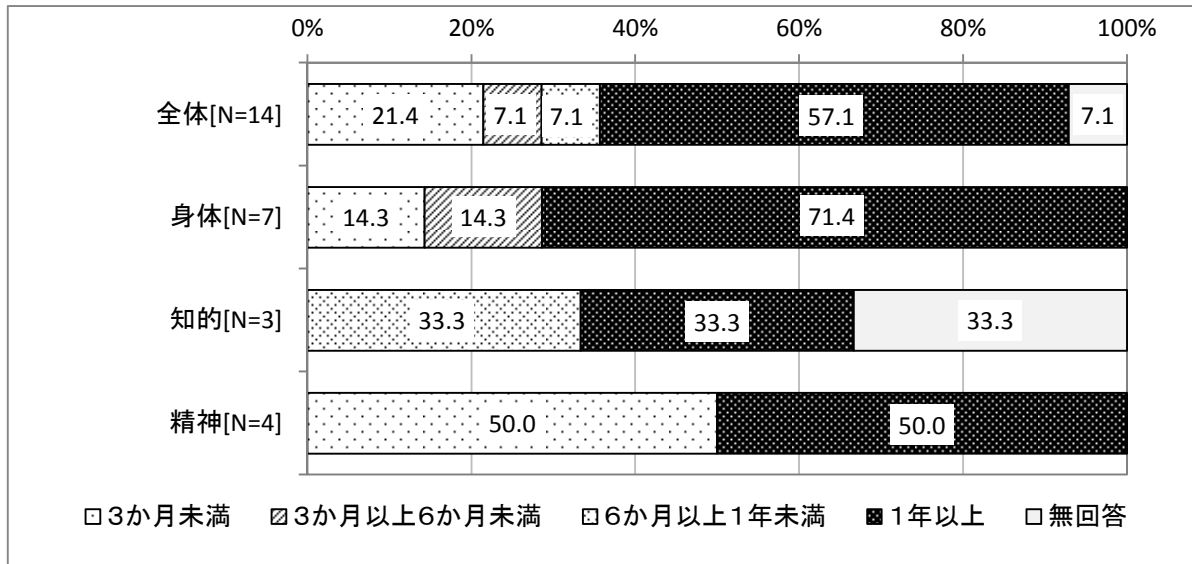
図表 18 親亡き後、生活してみたい場所[N=269]



④ 入院期間

「病院に入院中」と回答した人の入院期間は、「1年以上」が57.1%、「3か月未満」が21.4%、「3か月以上6か月未満」「6か月以上1年未満」がそれぞれ7.1%となっています。

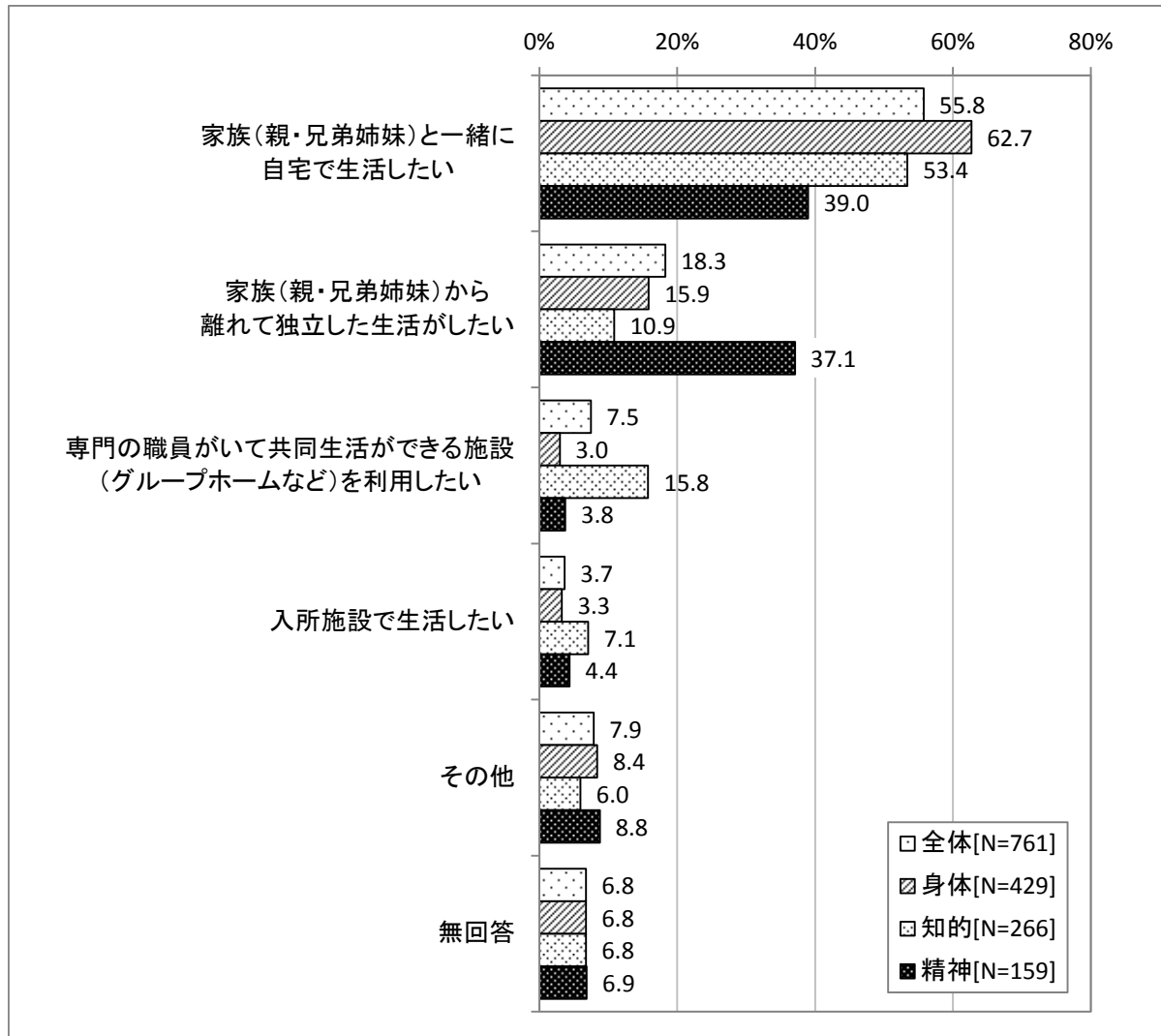
図表 19 入院期間 [N=14]



⑤ 生活してみたい場所

自分の希望がかなうとするなら、どのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」が55.8%、「家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい」が18.3%となっています。精神障がいのある人は、「家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい」を希望する割合が高くなっています。

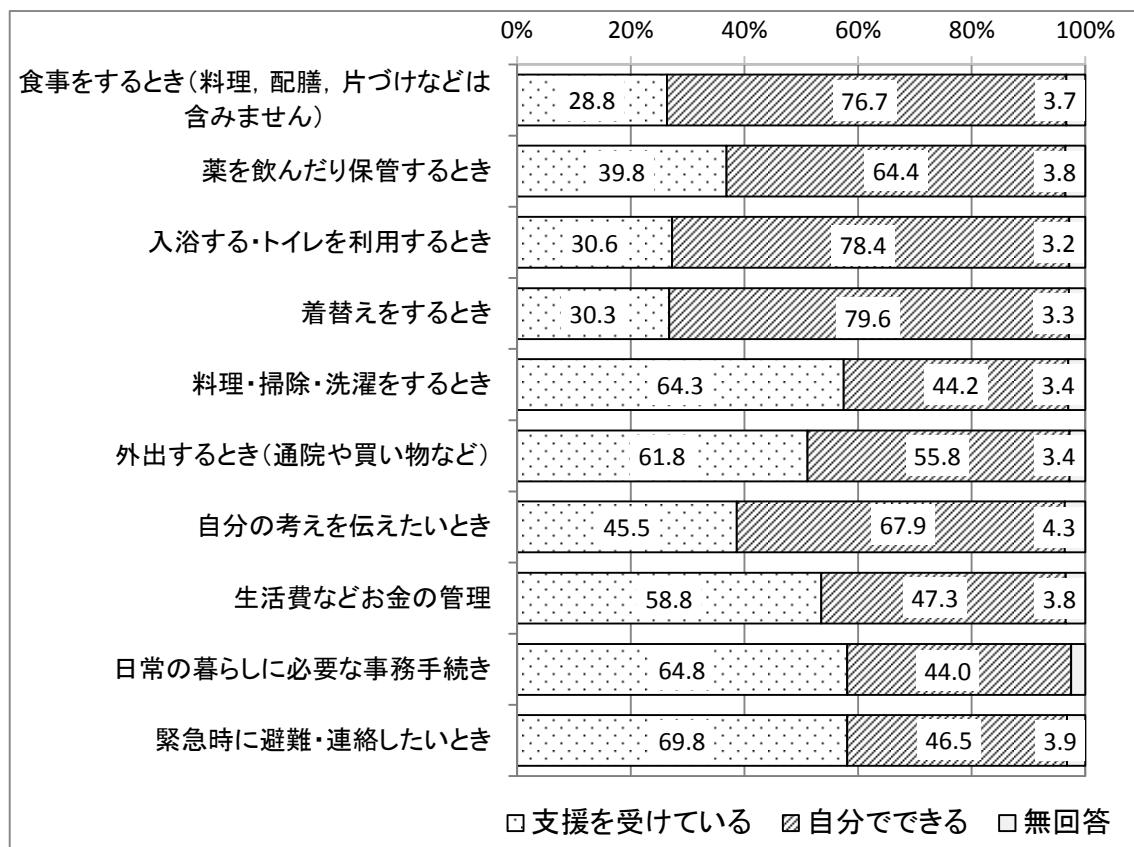
図表 20 生活してみたい場所[N=761]



⑥ 介護・介助の状況

生活の中での介護・介助の状況は、「緊急時に避難・連絡したいとき」「日常の暮らしに必要な事務手続き」「料理・掃除・洗濯をするとき」「外出するとき（通院や買物など）」「生活費などお金の管理」などで、支援を受けている人が比較的多くなっています。支援者としては、いずれも「家族や親戚」の割合が高くなっていますが、「施設の職員」も1割程度みられます。

図表 21 介護・介助の状況[N=761]（複数回答）



図表 22 介護・介助の状況 [N=761]（複数回答）

	施設の職員	ホームヘルパー	ボランティア	友だち・知り合い・近所の人	家族や親戚	自分でできる	無回答
食事をするとき(料理, 配膳, 片づけなどは含みません)	7.4	1.3	0.3	0.5	19.3	76.7	3.7
薬を飲んだり保管するとき	8.7	0.7	0.1	0.5	29.8	64.4	3.8
入浴する・トイレを利用するとき	8.1	2.4	0.3	0.5	19.3	78.4	3.2
着替えをするとき	7.8	2.1	0.1	0.5	19.8	79.6	3.3
料理・掃除・洗濯をするとき	8.8	4.2	0.4	1.1	49.8	44.2	3.4
外出するとき(通院や買い物など)	9.6	6.7	0.9	1.8	42.8	55.8	3.4
自分の考えを伝えたいとき	9.5	1.8	0.7	2.0	31.5	67.9	4.3
生活費などお金の管理	7.1	0.4	0.1	0.5	50.7	47.3	3.8
日常の暮らしに必要な事務手続き	9.1	0.8	0.3	1.2	53.4	44.0	2.8
緊急時に避難・連絡したいとき	12.5	1.7	1.1	3.3	51.2	46.5	3.9

身体障がいのある人は、「自分で出来る」という回答割合が全般的に高くなっています。

知的障がいのある人では介護・介助を受けている人が多くなっており、「家族や親戚」のほか、「施設の職員」も比較的高い割合です。

精神障がいのある人では、「生活費などお金の管理」「日常の暮らしに必要な事務手続き」「緊急時に避難・連絡したいとき」「料理・掃除・洗濯をするとき」などについて「家族や親戚」の介護・介助を受けている割合が高くなっています。

図表 23 介護・介助の状況[N=761]（複数回答）

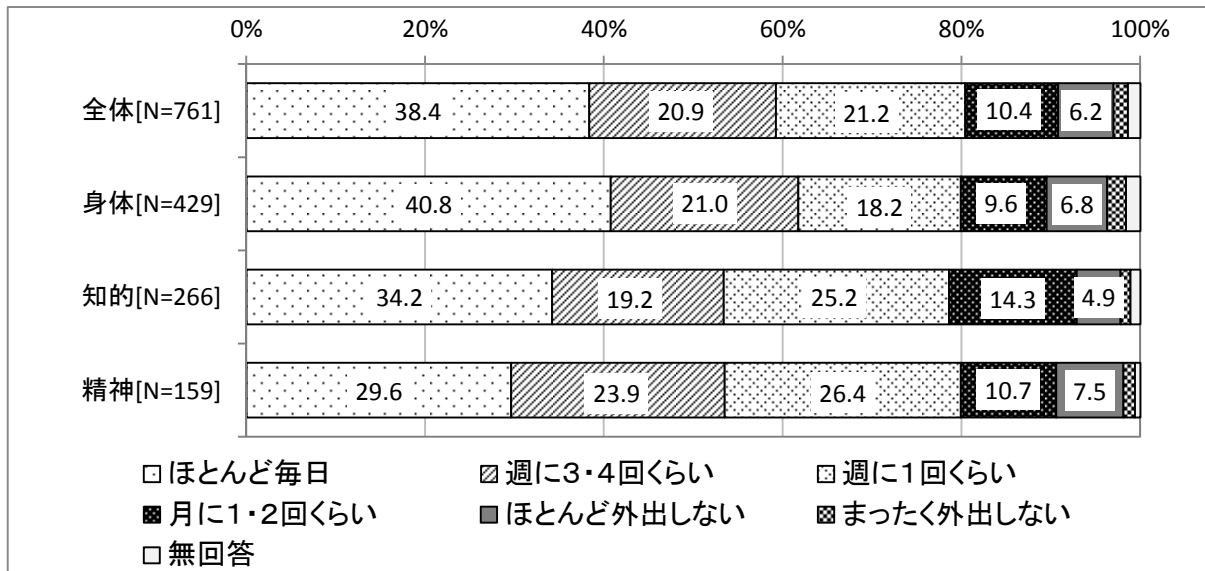
		N=	施設の職員	ホームヘルパー	ボランティア	友だち・知り合い・近所の人	家族や親戚	自分でできる	無回答
食事をするとき(料理, 配膳, 片づけなどは含みません)	全体	761	7.4	1.3	0.3	0.5	19.3	76.7	3.7
	身体	429	5.8	1.9	0.0	0.0	16.8	79.0	4.2
	知的	266	17.3	2.3	0.4	0.8	35.0	62.0	2.3
	精神	159	1.9	1.3	0.6	1.3	14.5	76.1	5.7
薬を飲んだり保管するとき	全体	761	8.7	0.7	0.1	0.5	29.8	64.4	3.8
	身体	429	5.6	0.7	0.0	0.0	16.3	77.6	4.7
	知的	266	21.4	0.4	0.4	0.8	65.8	26.7	1.9
	精神	159	3.1	1.3	0.0	1.3	17.6	74.8	5.7
入浴する・トイレを利用するとき	全体	761	8.1	2.4	0.3	0.5	19.3	78.4	3.2
	身体	429	7.0	3.3	0.2	0.0	13.5	82.5	4.0
	知的	266	19.5	3.8	0.8	0.8	42.5	59.0	0.8
	精神	159	1.3	0.0	0.6	1.3	8.8	86.8	4.4
着替えをするとき	全体	761	7.8	2.1	0.1	0.5	19.8	79.6	3.3
	身体	429	6.1	3.0	0.0	0.0	15.2	82.8	4.0
	知的	266	19.5	3.4	0.4	1.1	41.0	62.8	0.8
	精神	159	1.3	0.0	0.0	0.6	8.8	87.4	5.0
料理・掃除・洗濯をするとき	全体	761	8.8	4.2	0.4	1.1	49.8	44.2	3.4
	身体	429	5.1	4.0	0.2	0.2	38.9	57.1	4.2
	知的	266	21.8	3.4	0.4	0.8	78.2	10.5	2.3
	精神	159	2.5	8.8	0.6	3.8	42.1	48.4	4.4
外出するとき(通院や買い物など)	全体	761	9.6	6.7	0.9	1.8	42.8	55.8	3.4
	身体	429	6.3	5.4	0.5	0.9	33.6	64.8	4.0
	知的	266	23.3	13.2	2.3	1.9	74.8	24.4	0.8
	精神	159	2.5	5.0	0.6	2.5	27.7	64.8	5.7
自分の考えを伝えたいとき	全体	761	9.5	1.8	0.7	2.0	31.5	67.9	4.3
	身体	429	5.8	0.9	0.0	0.7	19.6	78.6	4.2
	知的	266	19.9	3.8	1.5	3.0	64.7	40.6	3.4
	精神	159	10.7	1.9	0.6	2.5	26.4	65.4	6.3
生活費などお金の管理	全体	761	7.1	0.4	0.1	0.5	50.7	47.3	3.8
	身体	429	4.0	0.2	0.0	0.0	37.5	63.9	3.5
	知的	266	16.5	0.8	0.4	0.4	85.0	9.8	2.3
	精神	159	5.0	0.0	0.0	1.9	47.2	46.5	6.3
日常の暮らしに必要な事務手続き	全体	761	9.1	0.8	0.3	1.2	53.4	44.0	2.8
	身体	429	5.8	0.7	0.2	0.7	40.6	59.2	3.3
	知的	266	17.3	1.1	0.4	0.8	88.3	5.3	1.1
	精神	159	10.1	1.3	0.0	2.5	45.3	49.7	4.4
緊急時に避難・連絡したいとき	全体	761	12.5	1.7	1.1	3.3	51.2	46.5	3.9
	身体	429	8.2	1.6	0.9	2.3	41.7	59.0	4.0
	知的	266	25.9	3.4	0.8	3.0	79.7	13.2	2.6
	精神	159	10.1	0.0	1.3	3.8	42.8	49.7	6.9

⑦ 外出の頻度

外出の頻度は、「ほとんど毎日」が38.4%、「週に1回くらい」が21.2%、「週に3・4回くらい」が20.9%となっています。一方、「ほとんど外出しない」が6.2%、「まったく外出しない」が1.6%となります。

前回調査との比較では、すべての障がい種別において「ほとんど毎日」の割合が高くなっています。

図表 24 外出の頻度[N=761]



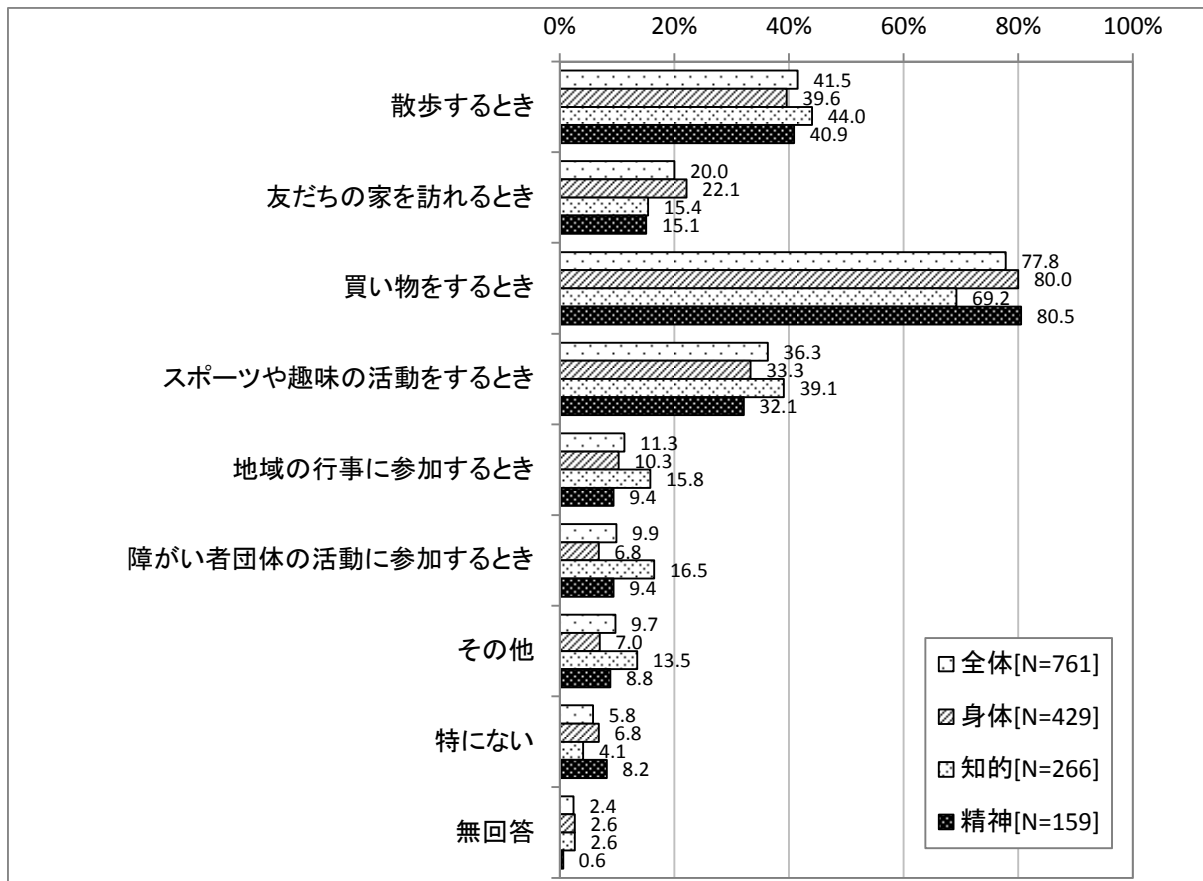
図表 25 外出の頻度（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度
N=	397	429	189	266	134	159
ほとんど毎日	37.5	40.8	29.1	34.2	24.6	29.6
週に3・4回くらい	23.4	21.0	19.0	19.2	23.9	23.9
週に1回くらい	20.2	18.2	30.7	25.2	24.6	26.4
月に1・2回くらい	7.8	9.6	11.6	14.3	12.7	10.7
ほとんど外出しない	5.5	6.8	5.3	4.9	7.5	7.5
まったく外出しない	2.0	2.1	2.1	1.1	3.0	1.3
無回答	3.5	1.6	2.1	1.1	3.7	0.6

⑧ 通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うとき

通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うときは，「買い物をするとき」が77.8%，「散歩するとき」が41.5%，「スポーツや趣味の活動をするとき」が36.3%となっています。

図表 26 通学，通勤，通所や通院以外で外出したいと思うとき[N=761]（複数回答）



⑨ 外出するときに、困ったり、心配になったりすること

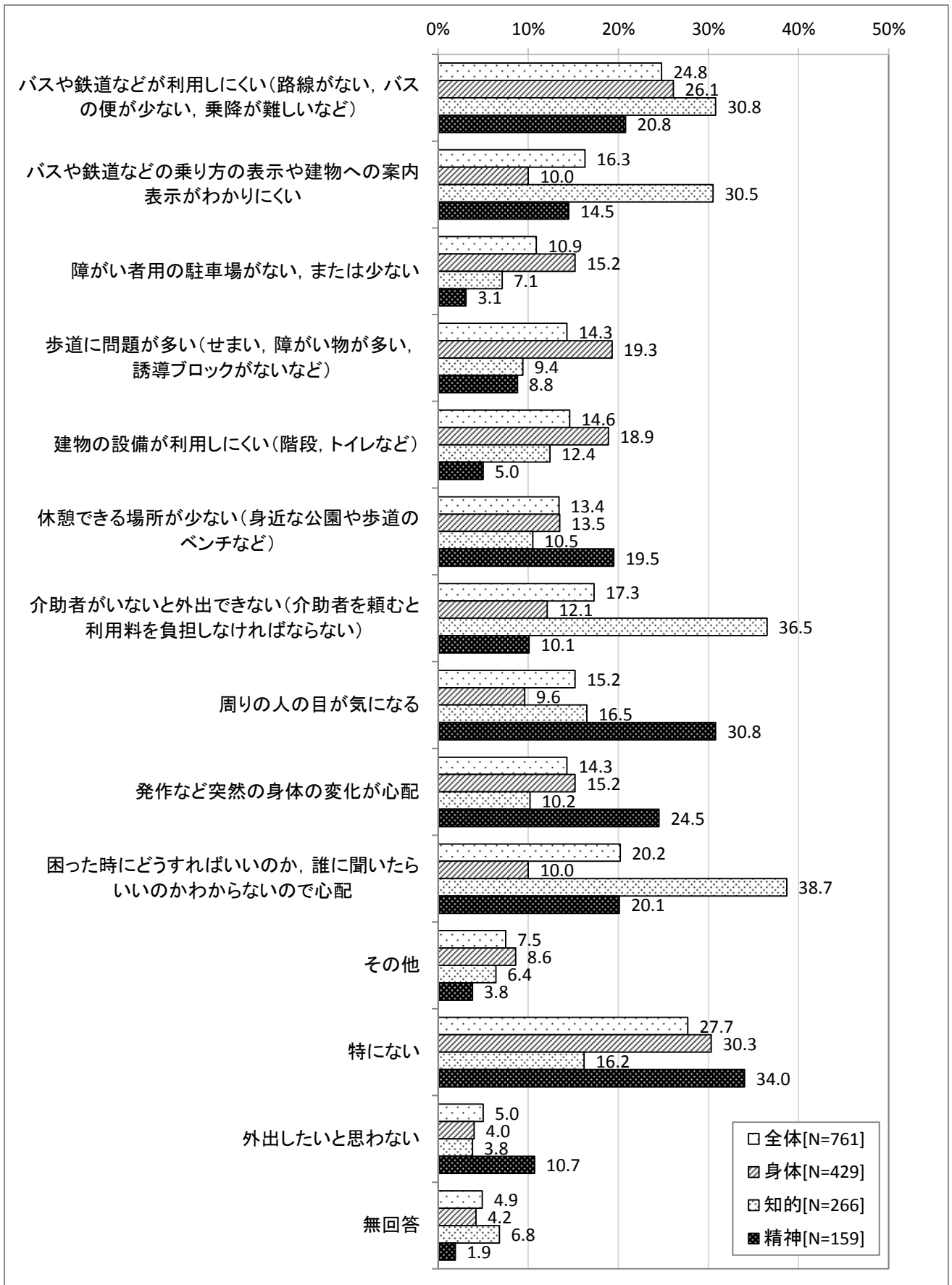
外出するときに、困ったり、心配になったりすることについては、「バスや鉄道などが利用しにくい（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」が 24.8%、「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」が 20.2%となっています。一方、「特にない」が 27.7%となっています。

身体障がいのある人では「バスや鉄道などが利用しにくい（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」が 26.1%、「歩道に問題が多い（せまい、障害物が多い、誘導ブロックがないなど）」が 19.3%、「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレなど）」が 13.9%となっています。

知的障がいのある人では「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」「介助者がいないと外出できない（介助者を頼むと利用料を負担しなければならない）」「バスや鉄道などが利用しにくい（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」「バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい」の割合が高く、他の障がい種別と比べて外出時に困ったり、心配になったりする人が多くなっています。

精神障がいのある人は「周りの人の目が気になる」が 30.8%、他の障がい種別と比べて「発作など突然の身体の変化が心配」「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」の回答割合が高くなっています。

図表 27 外出するときに、困ったり、心配になったりすること [N=761] (複数回答)



前回調査との比較では、設備・基盤に関わる内容は全体に減少しており、「特にない」の回答割合も高くなっています。一方、精神障がいのある人では「周りの人の目が気になる」や、知的障がいのある人では「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」といった回答が前回より高くなっています。

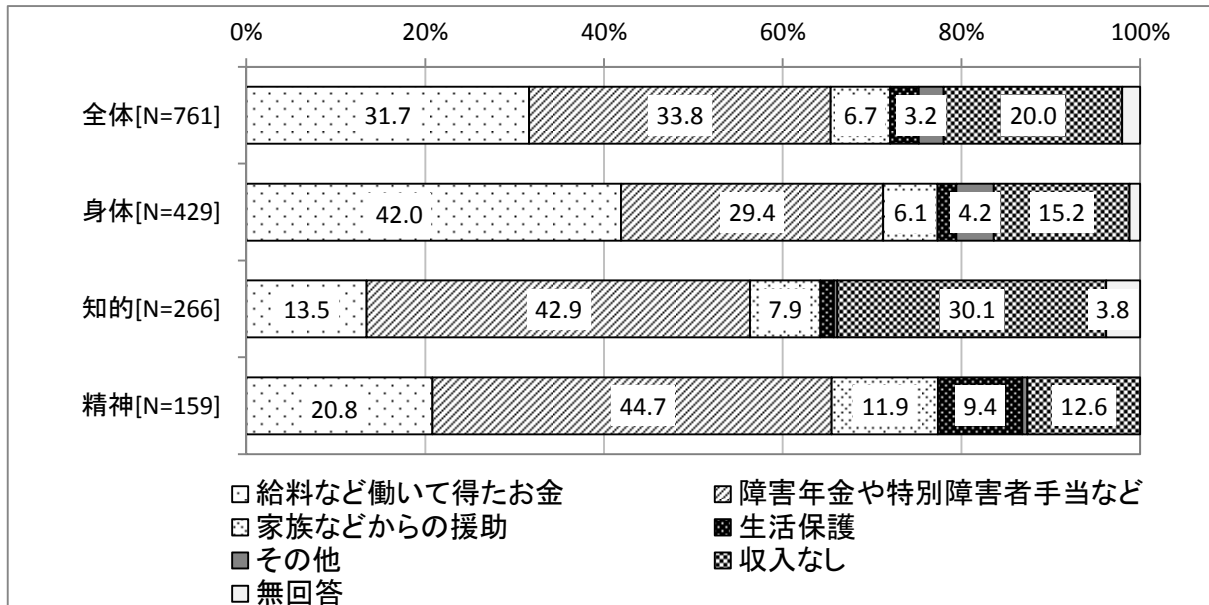
図表 28 外出するときに、困ったり、心配になったりすること（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
バスや鉄道などが利用しにくい(路線がない, バスの便が少ない, 乗降が難しいなど)	24.7	26.1	23.8	30.8	15.7	20.8
バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい	10.8	10.0	30.7	30.5	10.4	14.5
障がい者用の駐車場がない, または少ない	21.2	15.2	7.4	7.1	5.2	3.1
歩道に問題が多い(せまい, 障がい物が多い, 誘導ブロックがないなど)	21.9	19.3	11.1	9.4	6.0	8.8
建物の設備が利用しにくい(階段, トイレなど)	27.0	18.9	14.8	12.4	7.5	5.0
休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)	17.9	13.5	10.1	10.5	17.9	19.5
介助者がいないと外出できない(介助者を頼むと利用料を負担しなければならない)	17.4	12.1	39.7	36.5	14.9	10.1
周りの人の目が気になる	12.6	9.6	18.5	16.5	26.9	30.8
発作など突然の身体の変化が心配	15.6	15.2	13.8	10.2	29.1	24.5
困った時にどうすればいいのか, 誰に聞いたらいいのかわからないので心配	11.3	10.0	33.9	38.7	20.9	20.1
その他	7.8	8.6	9.0	6.4	10.4	3.8
特にない	21.9	30.3	14.3	16.2	23.9	34.0
外出したいと思わない	3.3	4.0	2.6	3.8	11.2	10.7
無回答	5.3	4.2	5.8	6.8	4.5	1.9

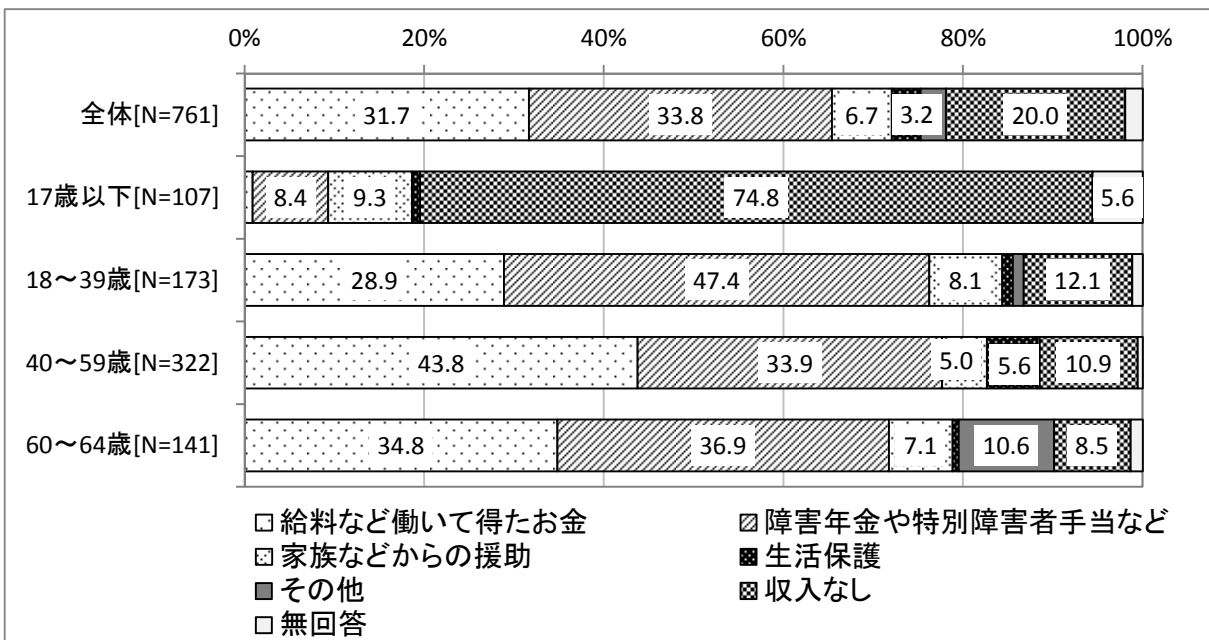
⑩ 収入の中で最も多いもの

自らの収入の中で最も多いものは、「障害年金や特別障害者手当など」が33.8%、「給料など働いて得たお金」が31.7%、「収入なし」が20.0%となっています。年齢別の主な収入源は、「18～39歳」では「障害年金や特別障害者手当など」、「40～59歳」では「給料など働いて得たお金」となっています。

図表 29 収入の中で最も多いもの [N=761]



図表 30 収入の中で最も多いもの [N=761]



前回調査との比較では、身体障がいのある人、精神障がいのある人ともに「給料など働いて得たお金」の割合が高くなっています。

図表 31 収入の中で最も多いもの（前回調査との比較）

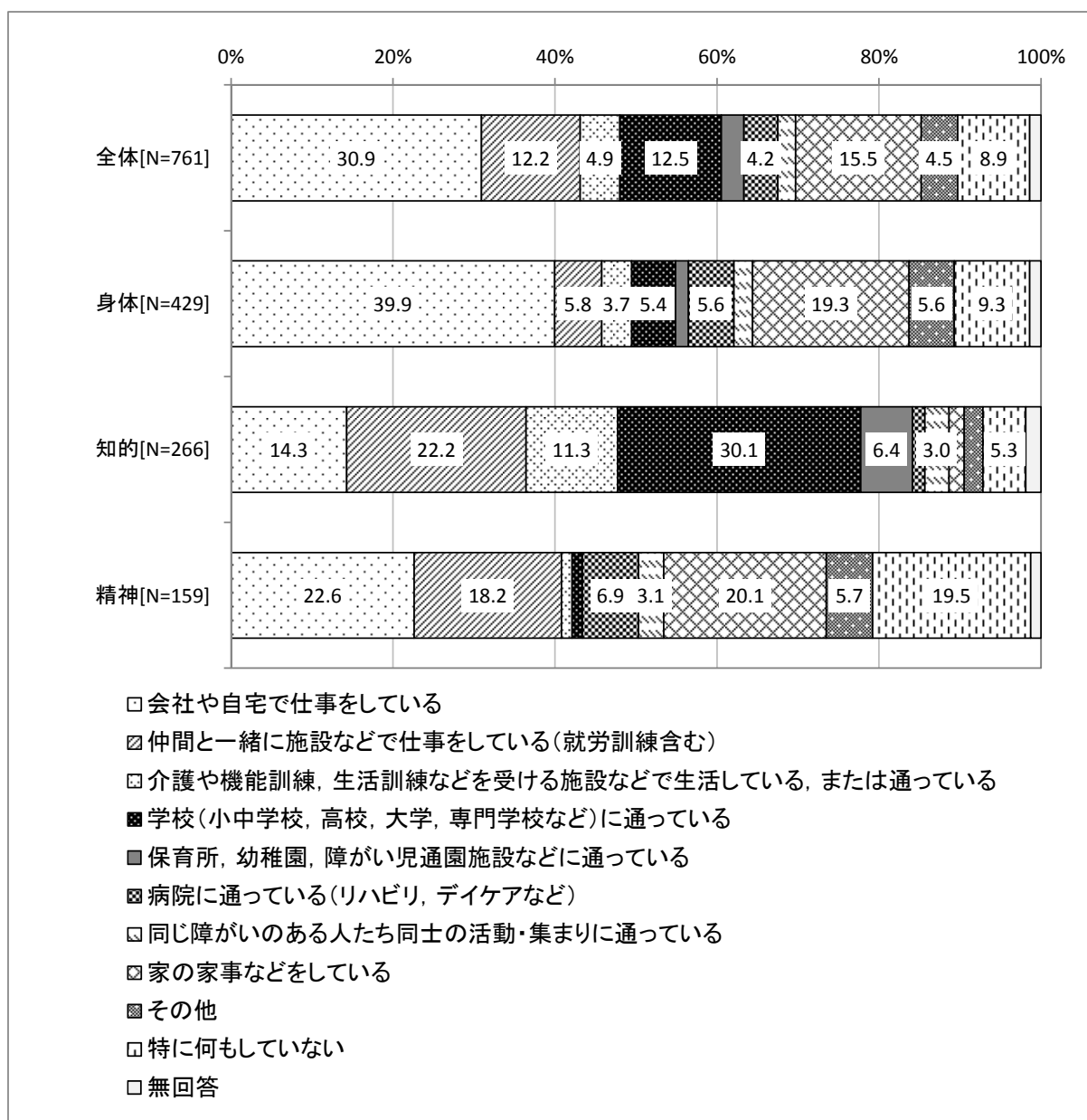
	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
給料など働いて得たお金	35.0	42.0	17.5	13.5	14.9	20.8
障害年金や特別障害者手当など	34.3	29.4	40.7	42.9	56.0	44.7
家族などからの援助	2.8	6.1	6.3	7.9	8.2	11.9
生活保護	2.3	2.1	1.6	1.5	10.4	9.4
その他	9.1	4.2	1.1	0.4	1.5	0.6
収入なし	13.6	15.2	28.6	30.1	3.7	12.6
無回答	3.0	1.2	4.2	3.8	5.2	0.0

(3) 日中の過ごし方, 仕事, 教育などについて

① 平日の日中の主な過ごし方

平日、日中の主な過ごし方は、「会社や自宅で仕事をしている」が30.9%、「家の家事などをしている」が15.5%、「学校（小中学校、高校、大学、専門学校など）に通っている」が12.5%となっています。身体障がいのある人は、「会社や自宅で仕事をしている」が39.9%、「家の家事などをしている」が19.3%、知的障がいのある人は「学校（小中学校、高校、大学、専門学校など）に通っている」が30.1%、「仲間と一緒に施設などで仕事をしている（就労訓練含む）」が22.2%、精神障がいのある人では、「会社や自宅で仕事をしている」が22.6%、「家の家事などをしている」が20.1%となっています。また、「特に何もしていない」の割合が精神障がいのある人では他の障がい種別に比べ高くなっています。

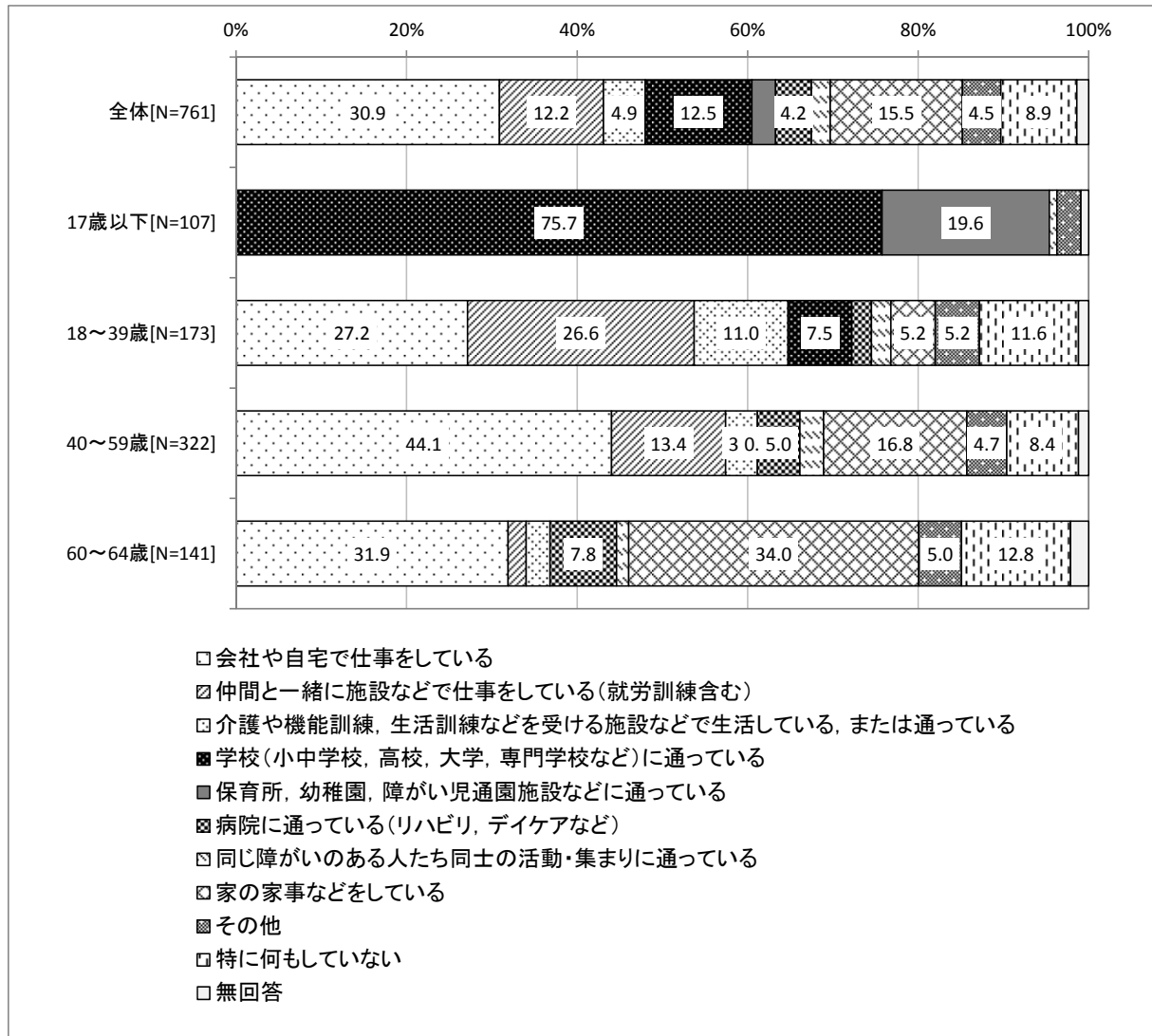
図表 32 平日の日中の主な過ごし方[N=761]



年齢別でみると、「18～39歳」では「会社や自宅で仕事をしている」が27.2%、「仲間と一緒に施設などで仕事をしている」が26.6%となっています。「40～59歳」では「会社や自宅で仕事をしている」が44.1%、「60～64歳」では「家の家事などをしている」が34.0%となっています。

「特に何もしていない」という回答は、18歳以上の年代で1割程度みられます。

図表 33 平日の日中の主な過ごし方[N=761]



就労状況等について、前回調査と比較すると、身体障がいのある人や精神障がいのある人のなかで「会社や自宅で仕事をしている」「仲間と一緒に施設などで仕事をしている」という人が増えています。

図表 34 就労状況等（前回調査との比較）

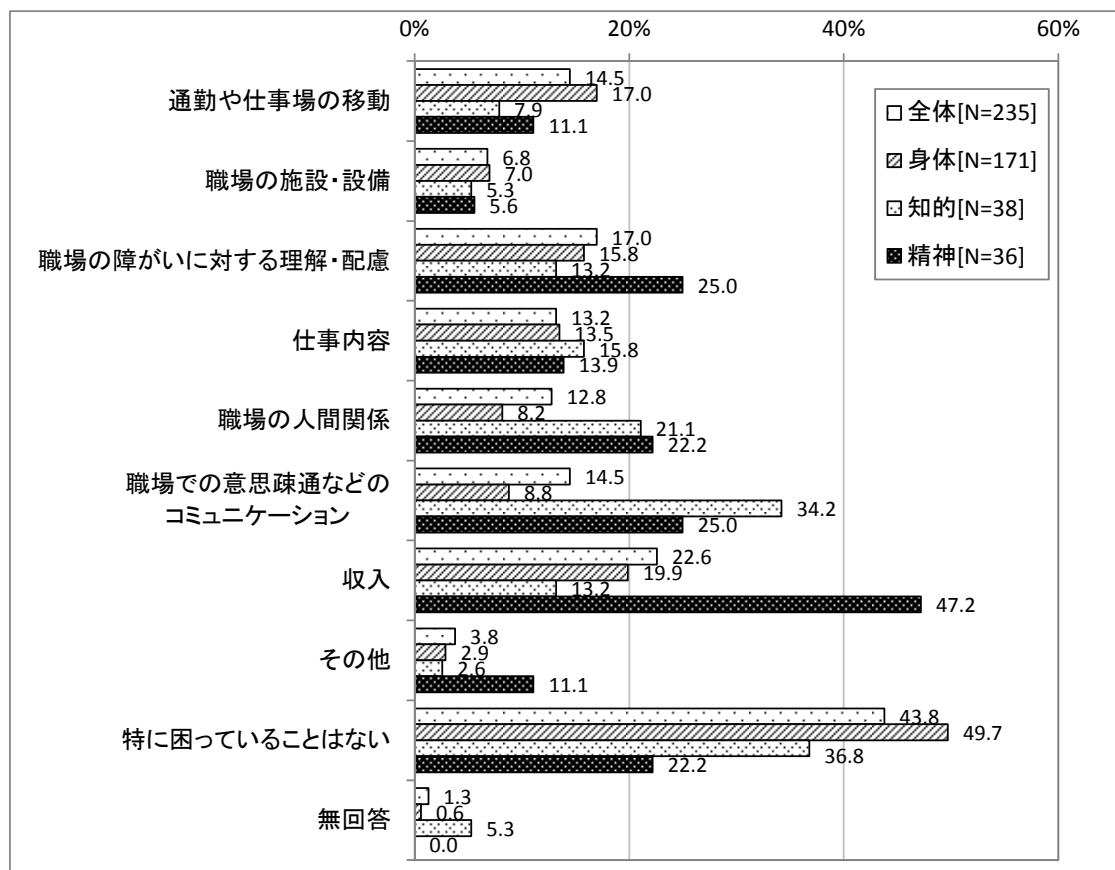
	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
会社や自宅で仕事をしている	36.0	39.9	14.8	14.3	17.2	22.6
仲間と一緒に施設などで仕事をしている (就労訓練含む)	5.3	5.8	25.9	22.2	14.9	18.2
介護や機能訓練、生活訓練などを受ける施設などで 生活している、または通っている	5.8	3.7	12.2	11.3	1.5	1.3

② 仕事で特に困っていること

「会社や自宅で仕事をしている」と回答した人に、現在の仕事で特に困っていることを聞いたところ、「特に困っていることはない」が43.8%、「収入」が22.6%、「職場の障がいに対する理解・配慮」が17.0%となっています。

身体障がいのある人では、「収入」や「通勤や仕事場の移動」「職場の障がいに対する理解・配慮」を、精神障がいのある人では、「収入」や「職場の障がいに対する理解・配慮」「職場での意思疎通などのコミュニケーション」を、知的障がいのある人では、「職場での意思疎通などのコミュニケーション」「職場の人間関係」をあげる人が多くなっています。

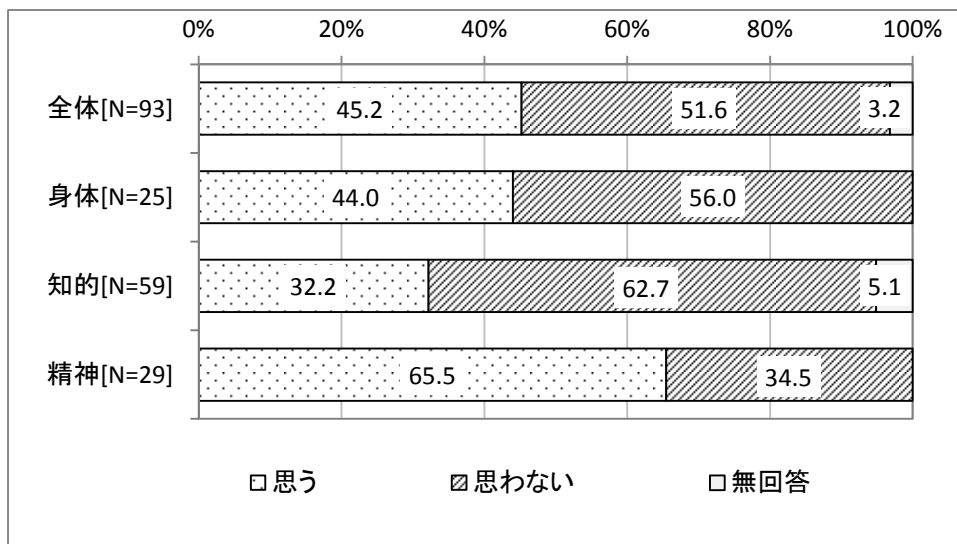
図表 35 仕事で特に困っていること[N=235]（複数回答）



③ 一般就労（一般企業などで働く）の希望

「仲間と一緒に施設などで仕事をしている（就労訓練含む）」と回答した人に、一般就労の希望を聞いたところ、「思わない」が 51.6%、「思う」が 45.2%となっています。知的障がいのある人では「思わない」が 62.7%、精神障がいのある人では「思う」が 65.5%となっています。

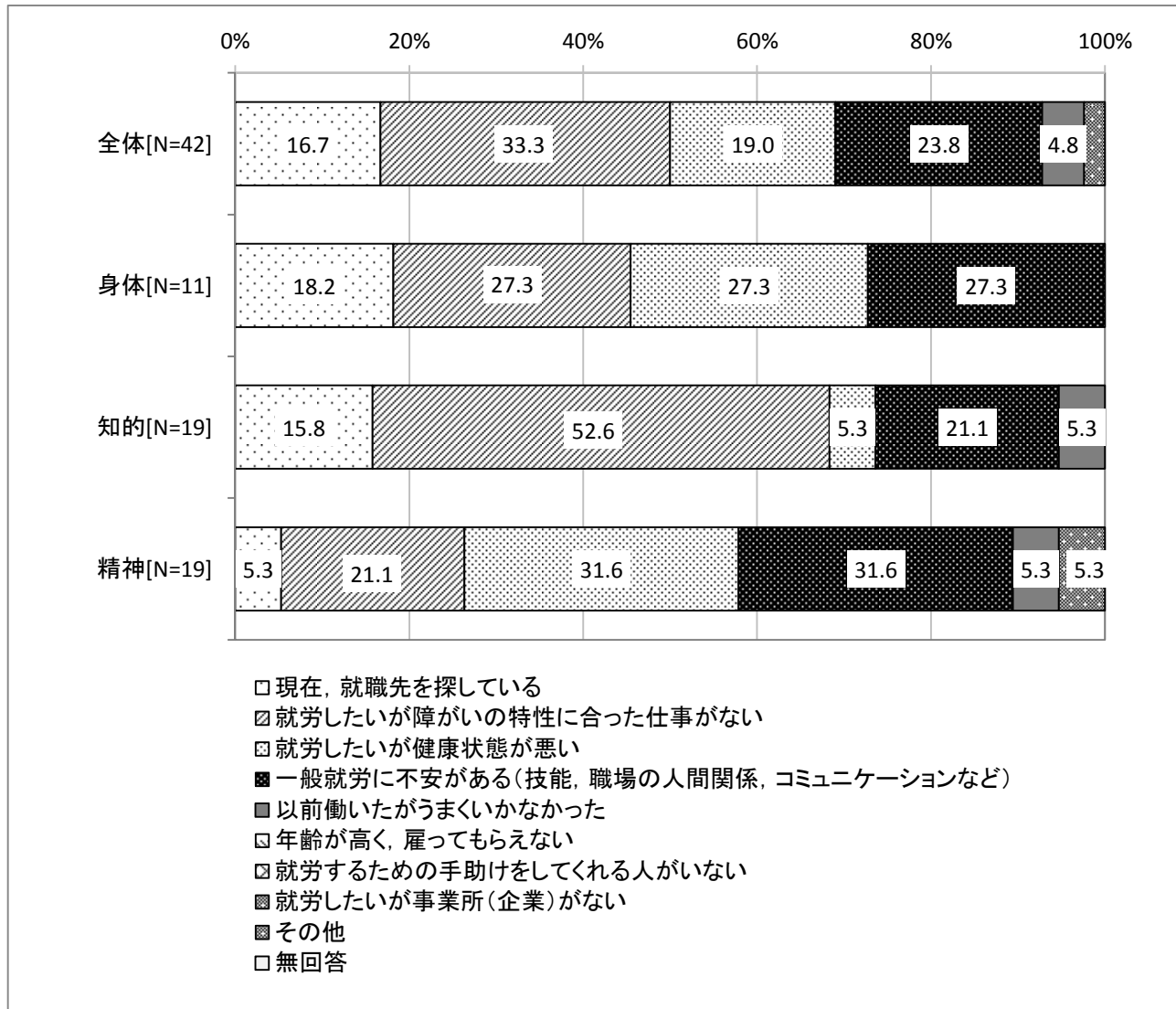
図表 36 一般就労（一般企業などで働く）の希望[N=93]



④ 一般就労をしていない理由

一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思うと回答した人の一般就労していない理由は、「就労したいが障がいの特性に合った仕事がない」が 33.3%、「一般就労に不安がある（技能、職場の人間関係、コミュニケーションなど）」が 23.8%、「就労したいが健康状態が悪い」が 19.0%となっています。

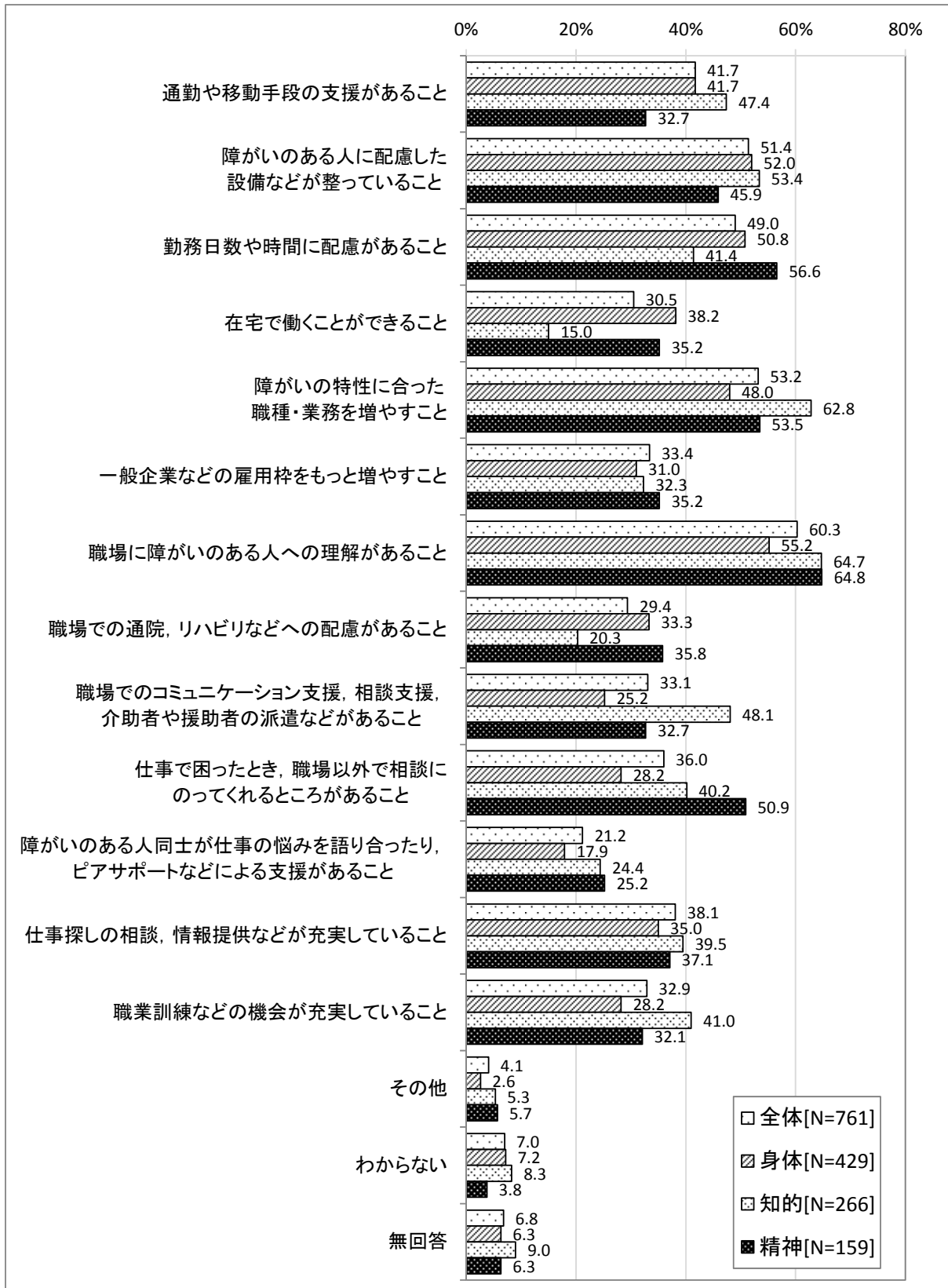
図表 37 現在、一般就労をしていない理由はなにか[N=42]



⑤ 障がいのある人の就労を進めるために必要なこと

障がいのある人の就労を進めるために必要なことは、「職場に障がいのある人への理解があること」が60.3%、「障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと」が53.2%、「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」が51.4%となります。

図表 38 障がいのある人の就労を進めるために必要なこと[N=761]（複数回答）



前回調査と比べると、知的障がいのある人と精神障がいのある人では、「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」「障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと」の割合が高くなっています。また精神障がいのある人では、「勤務日数や時間に配慮があること」や「仕事で困ったとき、職場以外で相談にのってくれるところがあること」などを回答した人が増えています。

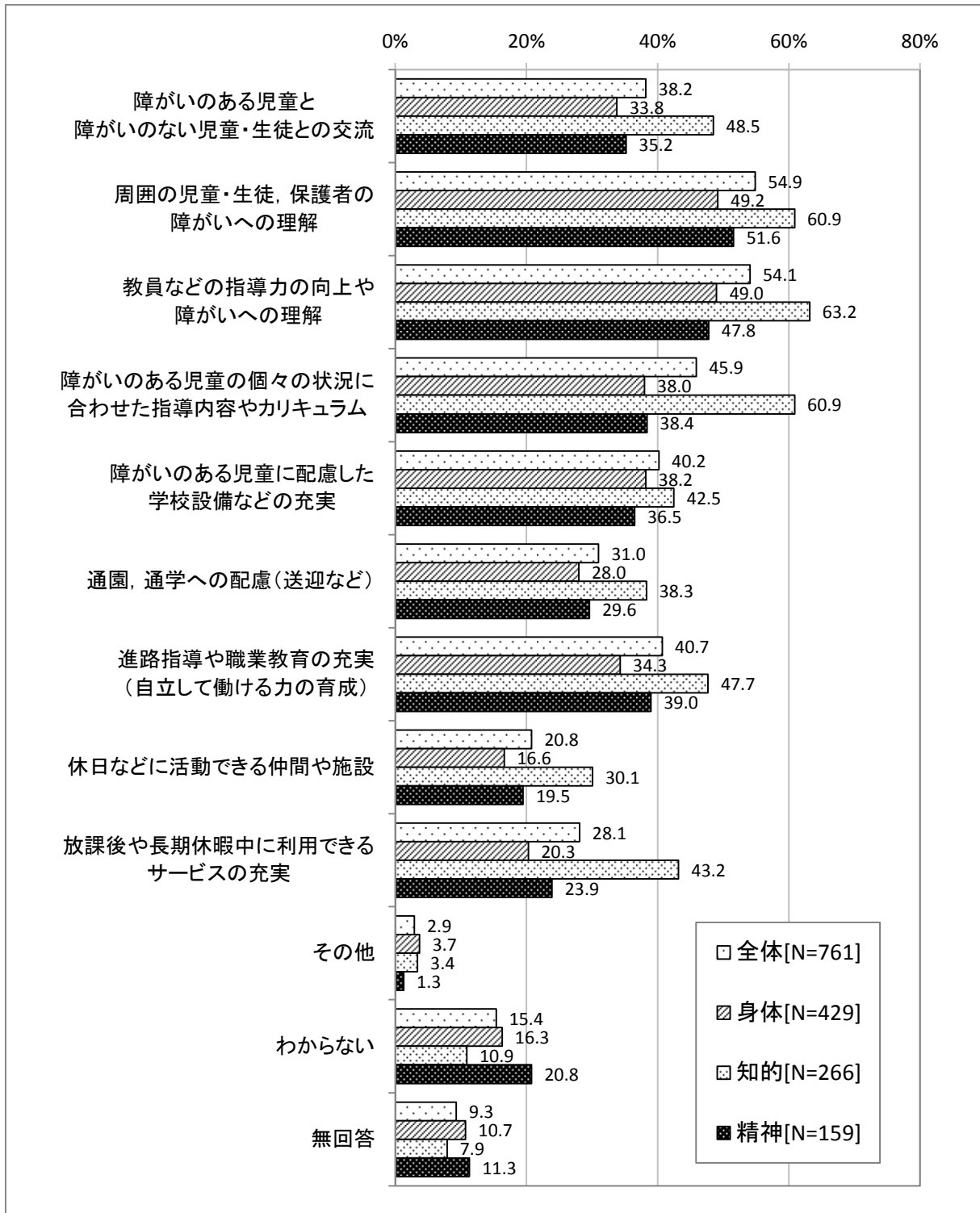
図表 39 障がいのある人の就労を進めるために必要なこと（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
通勤や移動手段の支援があること	40.3	41.7	41.3	47.4	25.4	32.7
障がいのある人に配慮した設備などが整っていること	48.6	52.0	40.7	53.4	29.9	45.9
勤務日数や時間に配慮があること	45.3	50.8	37.0	41.4	42.5	56.6
在宅で働くことができること	32.7	38.2	13.2	15.0	26.9	35.2
障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと	45.1	48.0	55.0	62.8	44.8	53.5
一般企業などの雇用枠をもっと増やすこと	29.5	31.0	31.7	32.3	33.6	35.2
職場に障がいのある人への理解があること	53.1	55.2	61.4	64.7	53.7	64.8
職場での通院、リハビリなどへの配慮があること	28.5	33.3	18.0	20.3	30.6	35.8
職場でのコミュニケーション支援、相談支援、介助者や 援助者の派遣などがあること	22.9	25.2	43.9	48.1	32.1	32.7
仕事で困ったとき、職場以外で相談にのってくれる ところがあること	27.2	28.2	43.9	40.2	37.3	50.9
障がいのある人同士が仕事の悩みを語り合ったり、 ピアサポートなどによる支援があること		17.9		24.4		25.2
仕事探しの相談、情報提供などが充実していること	38.3	35.0	39.7	39.5	35.8	37.1
職業訓練などの機会が充実していること	25.9	28.2	33.3	41.0	31.3	32.1
その他	2.8	2.6	1.6	5.3	7.5	5.7
わからない	8.8	7.2	10.1	8.3	12.7	3.8
無回答	10.8	6.3	14.8	9.0	11.2	6.3

⑥ 保育や教育について今後特に必要と思うもの

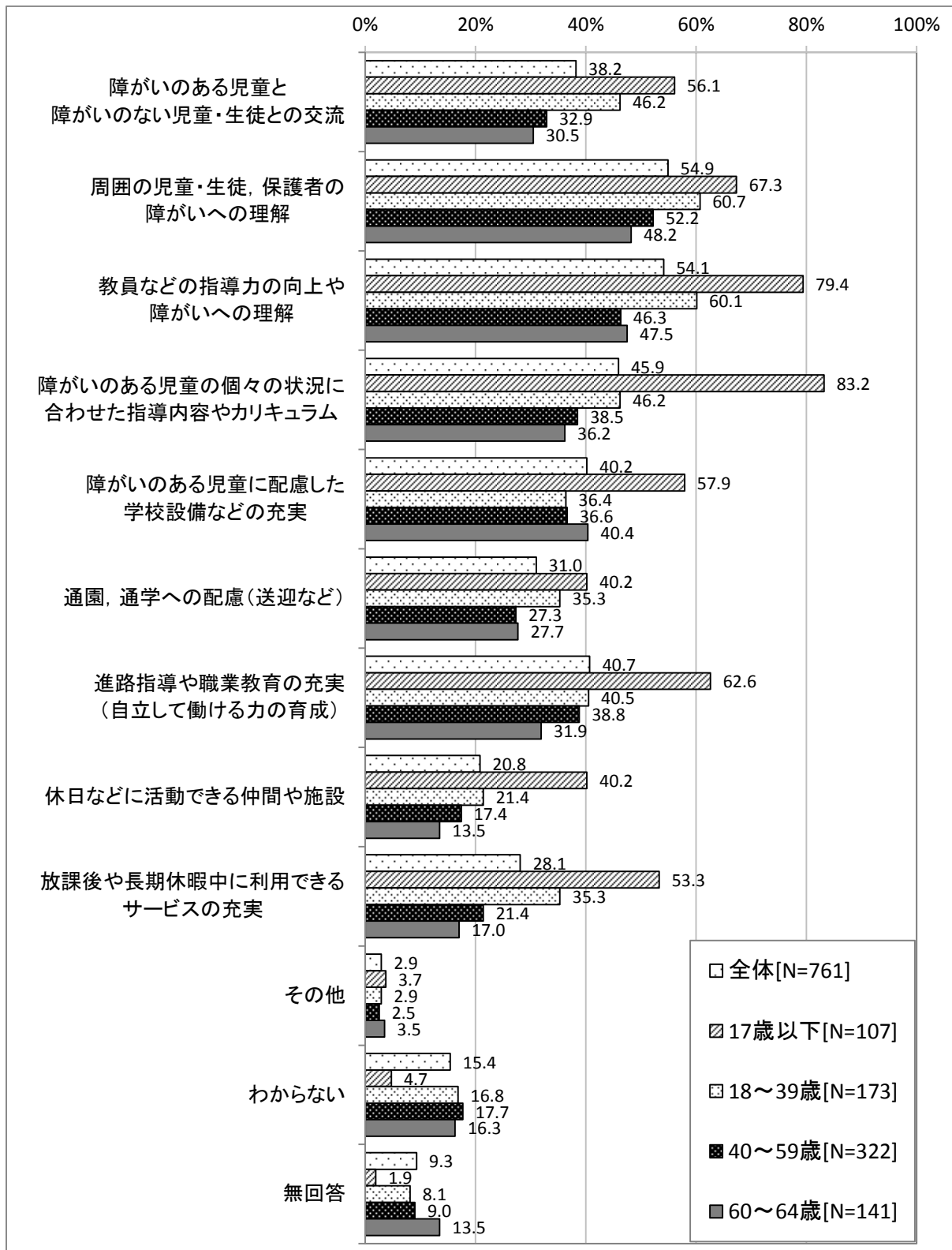
保育や教育について今後特に必要と思うものは、「周囲の児童・生徒，保護者の障がいへの理解」が 54.9%，「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」が 54.1%，「障がいのある児童の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」が 45.9%となっています。

図表 40 保育や教育について今後特に必要と思うもの[N=761]（複数回答）



年齢別では17歳以下の回答割合が高くなっています。特に、「障がいのある児童の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」「周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解」「進路指導や職業教育の充実（自立して働ける力の育成）」などについては高い割合となっています。

図表 41 保育や教育について今後特に必要と思うもの[N=761]（複数回答）



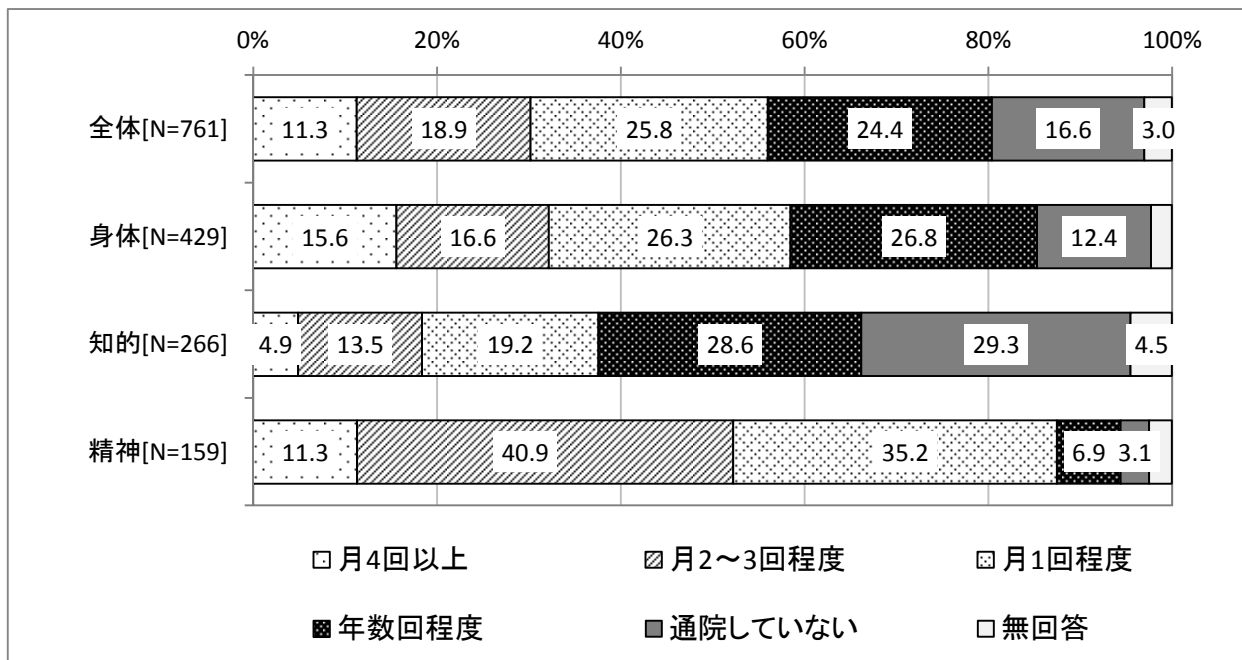
(4) 通院状況について

① 通院頻度

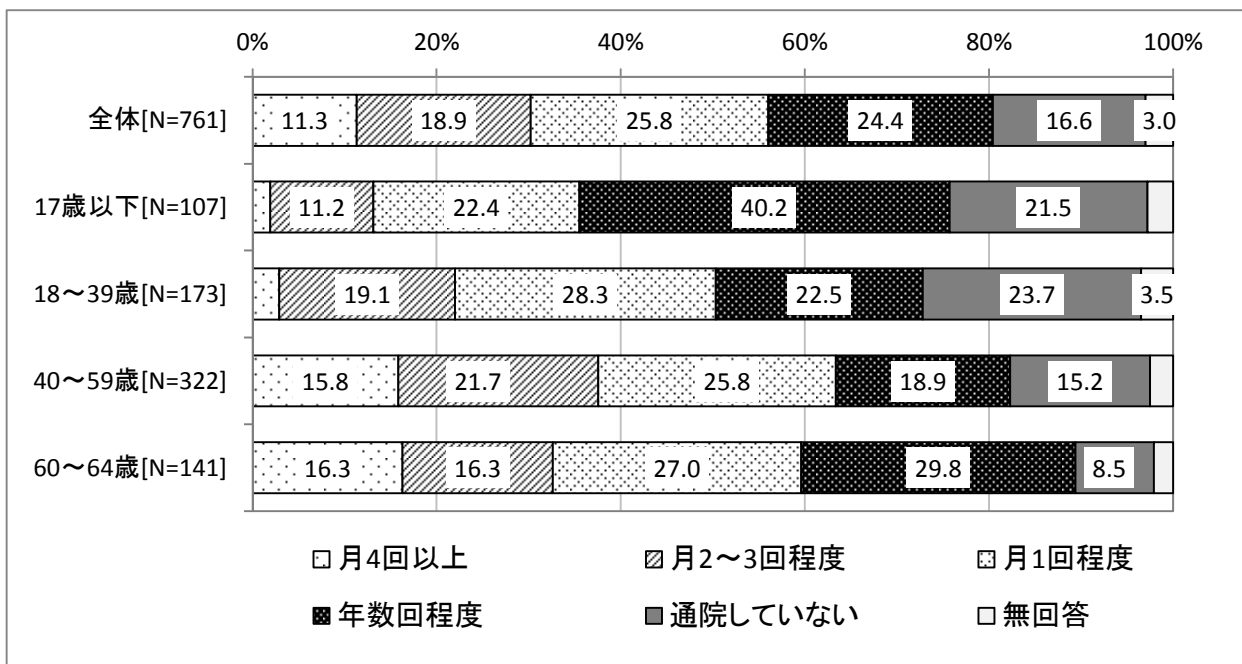
通院頻度は、「年数回程度」が24.4%、「月1回程度」が25.8%、「月2～3回程度」が18.9%、「月4回以上」が11.3%となっています。

「通院していない」は全体では16.6%ですが、精神障がいのある人では3.1%、60～64歳では8.5%となっています。

図表 42 1か月の通院頻度[N=761]



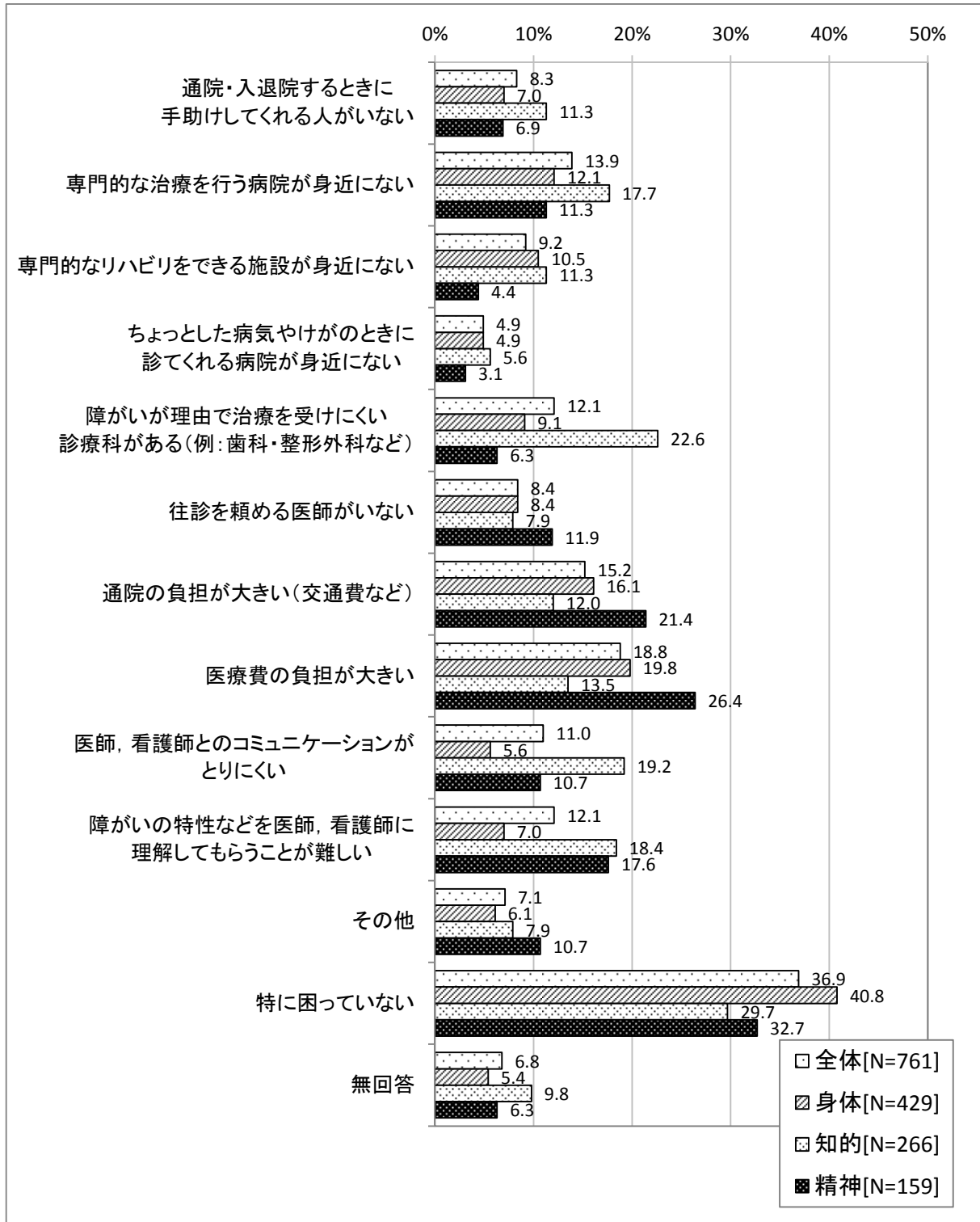
図表 43 1か月の通院頻度[N=428] (頻度)



② 医療に関係することで困っていること

医療に関係することで困っていることは、「特に困っていない」が36.9%、「医療費の負担が大きい」が18.8%、「通院の負担が大きい(交通費など)」が15.2%となっています。知的に障がいのある人では、「障がいが理由で治療を受けにくい診療科がある(例：歯科・整形外科など)」の割合が高くなっています。

図表 44 医療に関係することで困っていること [N=761] (複数回答)



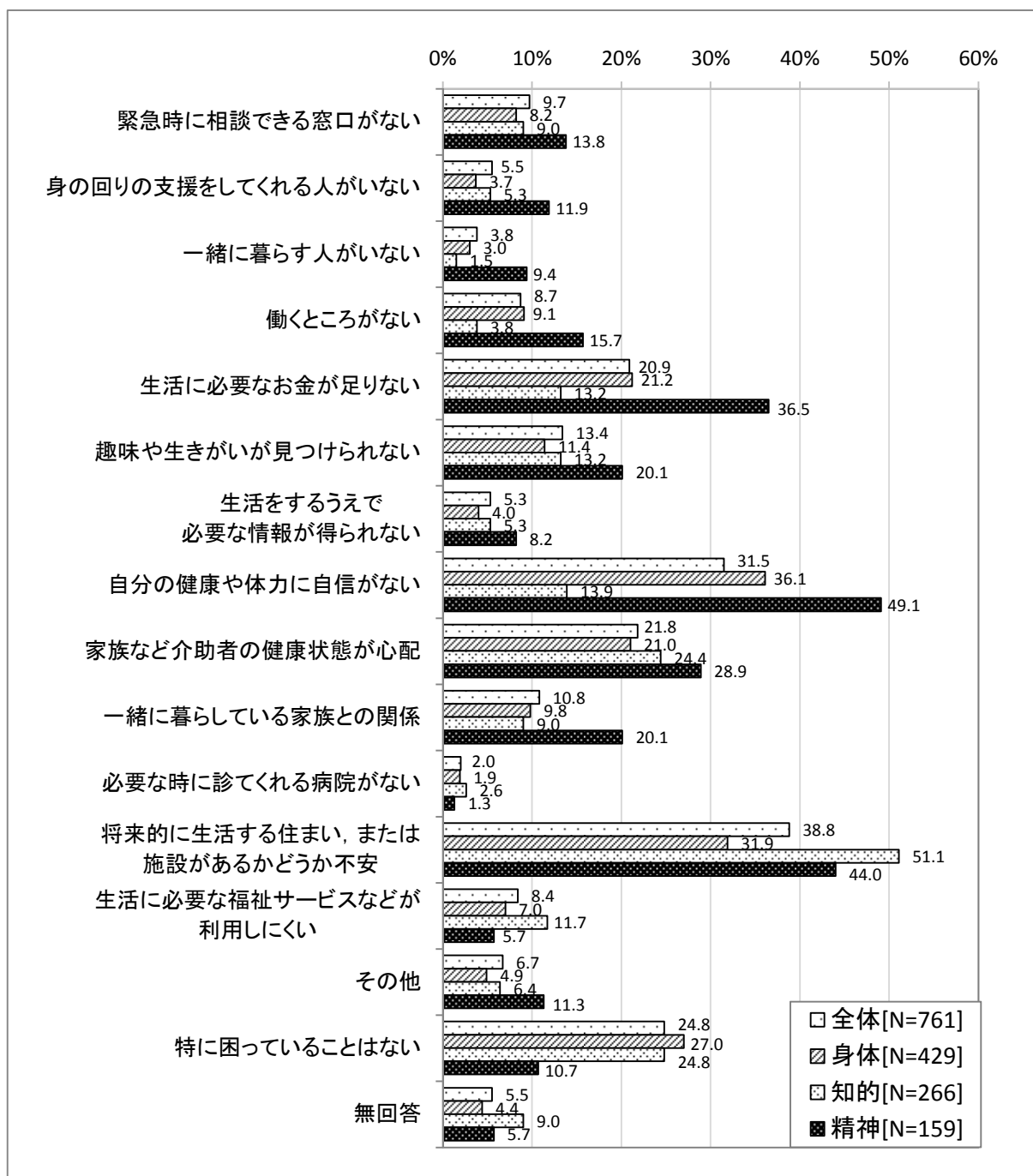
(5) 生活の不安, 相談などについて

① 生活で困っていること・不安なこと

生活で困っていること・不安なことについては、「将来的に生活する住まい, または施設があるかどうか不安」が38.8%, 「自分の健康や体力に自信がない」が31.5%, 「家族など介助者の健康状態が心配」が21.8%となっています。

身体障がいのある人では健康の不安, 知的障がいのある人では住まいの不安, 精神障がいのある人では健康, 住まい, お金の不安をあげている人が多くなっています。

図表 45 生活で困っていること・不安なこと[N=761] (複数回答)

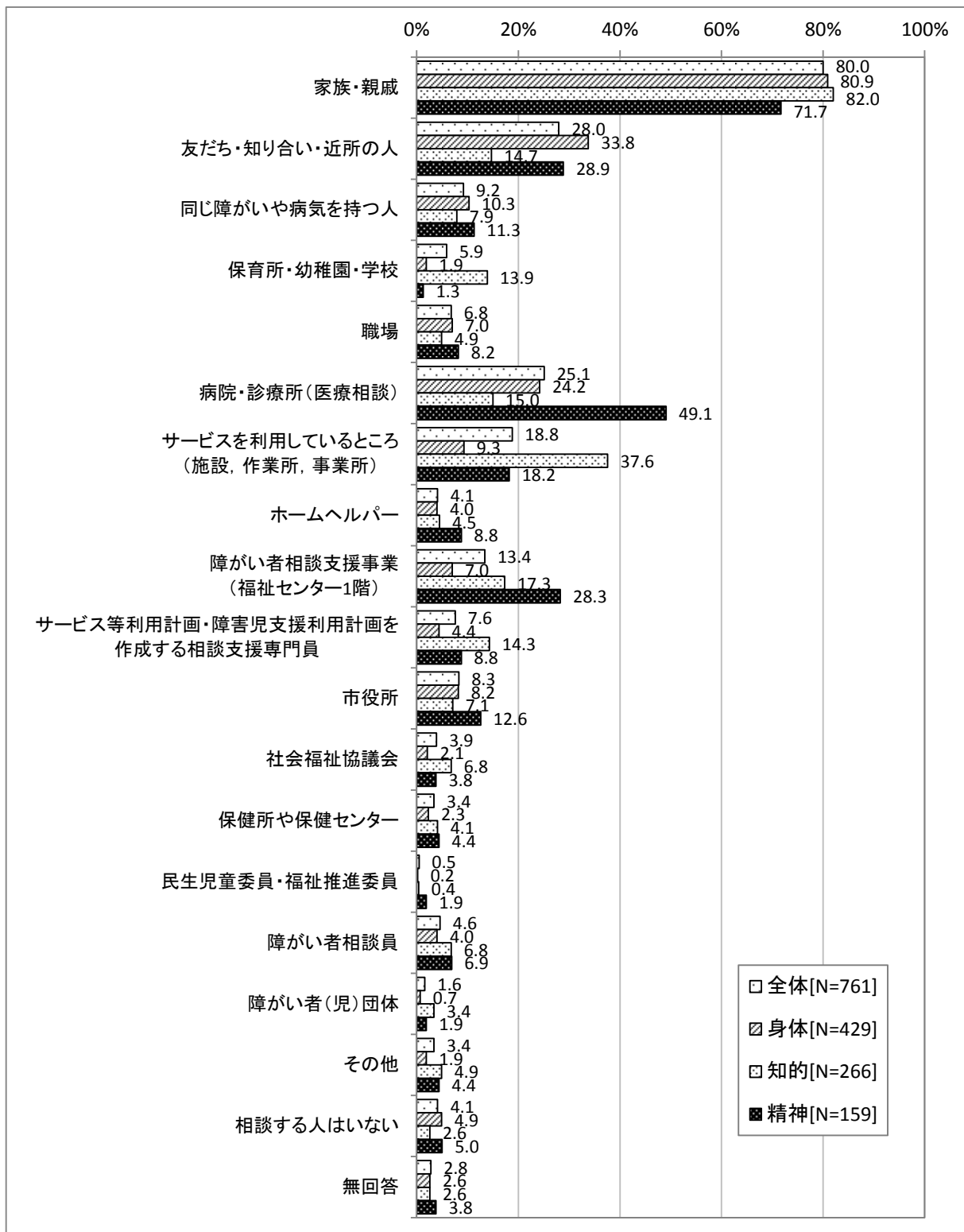


② 相談相手

相談相手については、「家族・親戚」が80.0%、「友だち・知り合い・近所の人」が28.0%、「病院・診療所（医療相談）」が25.1%となっています。

身体障がいのある人では「友だち・知り合い・近所の人」，知的障がいのある人では「サービスを利用しているところ（施設，作業所，事業所）」，精神障がいのある人では「病院・診療所（医療相談）」が高くなっています。

図表 46 相談相手[N=761]（複数回答）



前回調査と比較すると、身体障がいのある人では「職場」、知的障がいのある人では「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」、精神障がいのある人では「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」を相談先としている人の割合が増加しています。

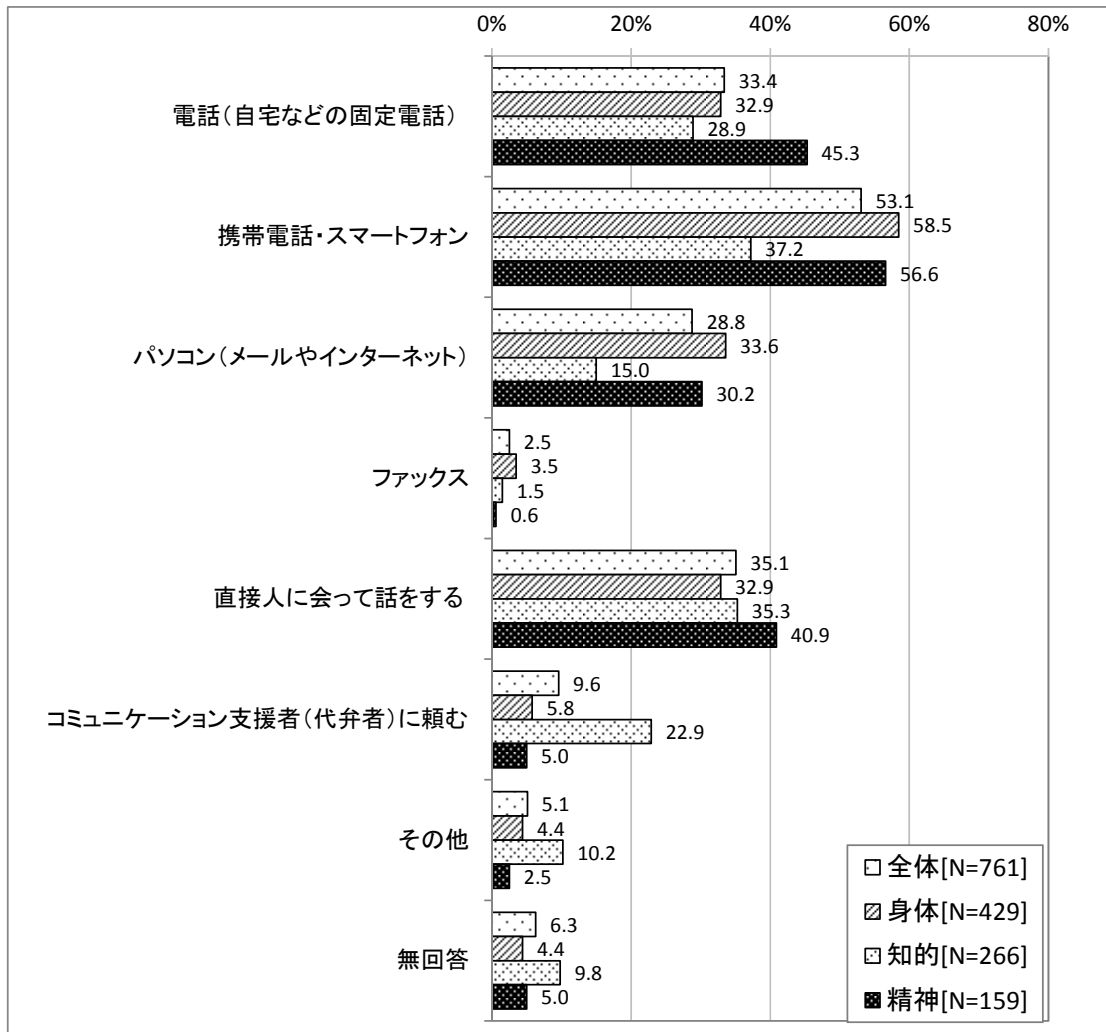
図表 47 相談相手（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
家族・親戚	80.1	80.9	76.2	82.0	75.4	71.7
友だち・知り合い・近所の人	39.3	33.8	14.3	14.7	26.1	28.9
同じ障がいや病気を持つ人	10.1	10.3	8.5	7.9	11.2	11.3
保育所・幼稚園・学校	2.0	1.9	16.4	13.9	1.5	1.3
職場	3.3	7.0	4.2	4.9	4.5	8.2
病院・診療所（医療相談）	24.2	24.2	17.5	15.0	44.0	49.1
サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）	9.8	9.3	30.2	37.6	23.1	18.2
ホームヘルパー	4.0	4.0	4.2	4.5	9.7	8.8
障がい者相談支援事業（福祉センター1階）	7.8	7.0	14.8	17.3	17.2	28.3
サービス等利用計画・障害児支援利用計画を作成する 相談支援専門員（25年度は項目なし）		4.4		14.3		8.8
市役所（25年度は「市役所の職員」）	6.3	8.2	5.3	7.1	14.9	12.6
社会福祉協議会	3.3	2.1	2.6	6.8	7.5	3.8
保健所や保健センター	0.8	2.3	3.7	4.1	6.7	4.4
民生児童委員・福祉推進委員	1.0	0.2	1.1	0.4	3.7	1.9
障がい者相談員	2.5	4.0	7.4	6.8	7.5	6.9
障がい者（児）団体	1.5	0.7	2.6	3.4	0.0	1.9
その他	2.0	1.9	4.2	4.9	9.0	4.4
相談する人はいない	2.5	4.9	1.1	2.6	3.0	5.0
無回答	4.3	2.6	8.5	2.6	3.0	3.8

③ 連絡や相談、情報を得る方法

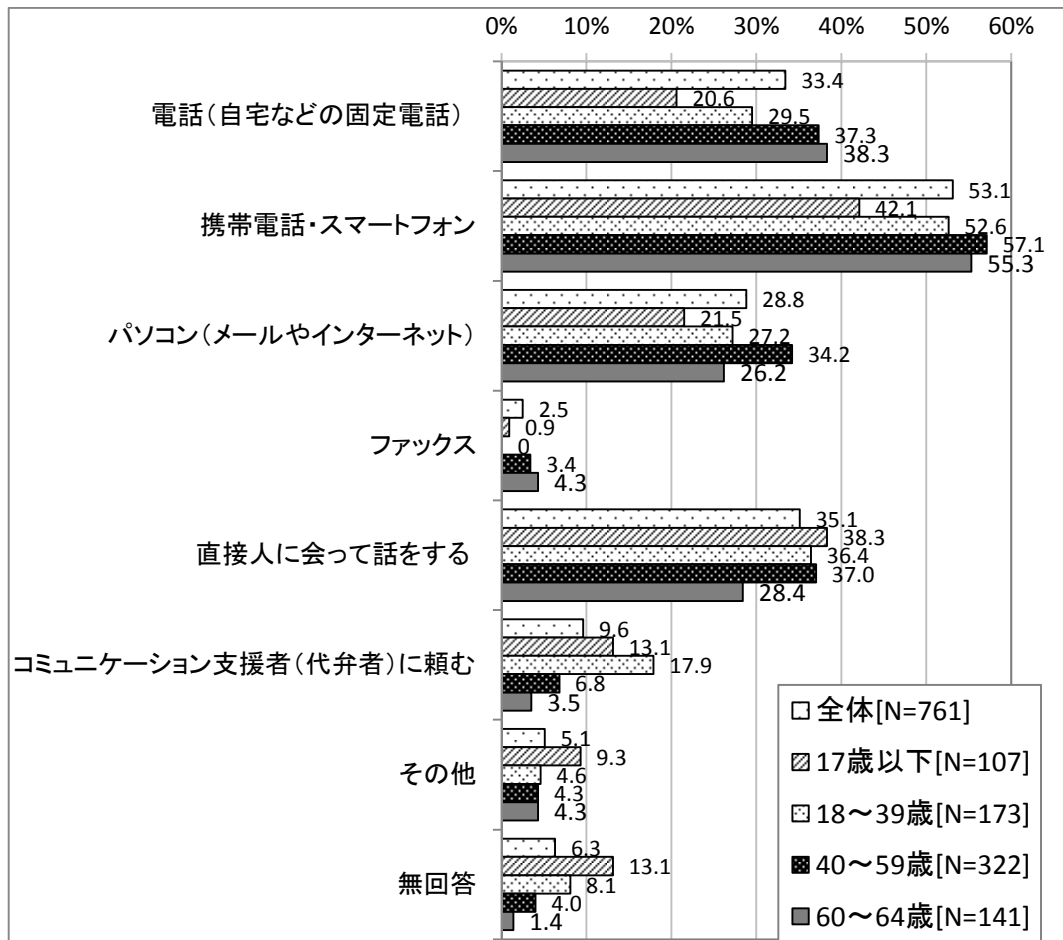
連絡や相談、情報を得る方法は、「携帯電話・スマートフォン」が53.1%、「直接人に会って話をする」が35.1%、「電話（自宅などの固定電話）」が33.4%となっています。知的障がいのある人では「コミュニケーション支援者に頼む」の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

図表 48 連絡や相談、情報を得る方法[N=761]（複数回答）



年齢別では、どの年代も「携帯電話・スマートフォン」の割合が高くなっています。

図表 49 連絡や相談、情報を得る方法[N=761]（複数回答）

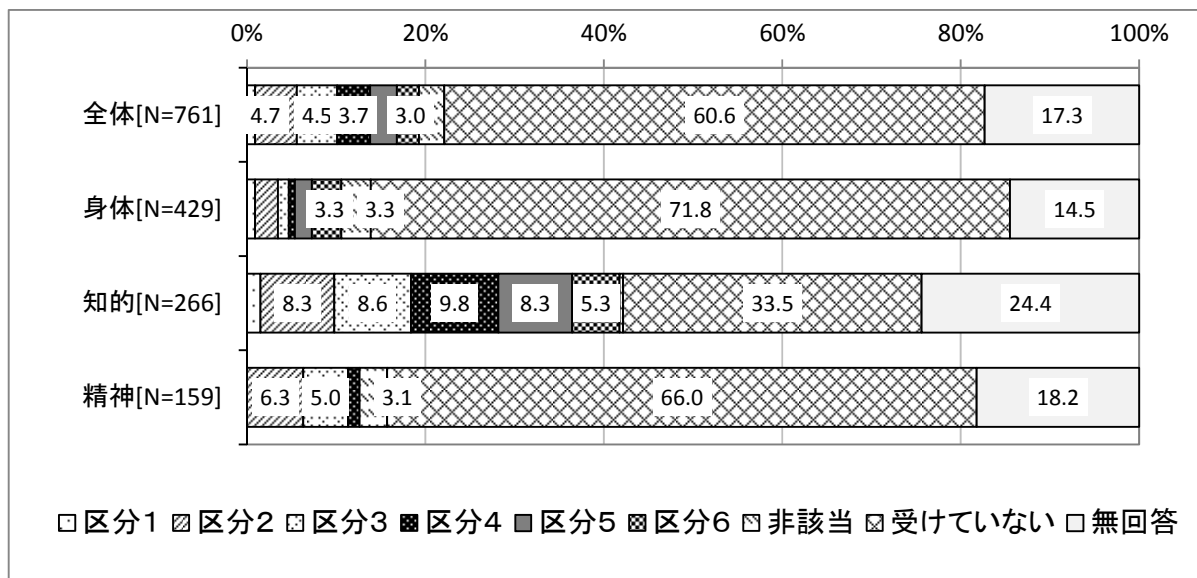


(6) 障がい福祉サービスについて

① 障がい支援区分

障がい支援区分は、区分を「受けていない」人が60.6%となっています。区分を受けている人では、「区分2」が4.7%、「区分3」が4.5%となっています。

図表 50 障がい支援区分 [N=761]



② 現在利用しているサービス

現在利用しているサービスは、障がい支援区分を受けている人では、「計画相談支援」が37.2%、「移動支援事業」が35.7%、「短期入所（ショートステイ）」26.4%、「生活介護」が25.6%となっています。17歳以下では、「放課後等デイサービス」が45.8%、「日中一時支援事業」と「児童発達支援事業」がそれぞれ16.8%となっています。

図表 51 現在利用しているサービス[N=761]（複数回答）

	全体	17歳以下	18歳以上で区分認定を受けている人			
			認定者 全体	18～39歳	40～59歳	60～64歳
N=	761	107	129	65	53	11
居宅介護(ホームヘルプ)	6.3	0.9	22.5	16.9	22.6	54.5
重度訪問介護	0.5		1.6	1.5	1.9	0.0
同行援護	1.7	0.0	4.7	6.2	3.8	0.0
行動援護	1.6	0.0	5.4	6.2	5.7	0.0
重度障害者等包括支援	0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	9.1
短期入所(ショートステイ)	6.2	4.7	26.4	38.5	13.2	18.2
療養介護	0.7		1.6	1.5	1.9	0.0
生活介護	5.9		25.6	30.8	20.8	18.2
施設入所支援	4.5		13.2	4.6	24.5	9.1
自立訓練(機能訓練・生活訓練)	2.5		7.8	7.7	9.4	0.0
就労移行支援	1.3		2.3	3.1	1.9	0.0
就労継続支援 [A型:雇用型]	3.8		3.1	3.1	1.9	9.1
就労継続支援 [B型:非雇用型]	6.3		18.6	18.5	22.6	0.0
共同生活援助(グループホーム)	1.8		7.8	6.2	11.3	0.0
児童発達支援	2.5	16.8				
放課後等デイサービス	6.6	45.8				
保育所等訪問支援	0.0	0.0				
地域移行・地域定着支援	0.1		0.8	1.5	0.0	0.0
計画相談支援	12.0	14.9	37.2	41.5	32.1	36.4
意思疎通支援	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0
移動支援事業	8.5	7.5	35.7	56.9	13.2	18.2
地域活動支援センター	2.8		5.4	9.2	1.9	0.0
日中一時支援事業	5.0	16.8	14.0	27.7	0.0	0.0
無回答	59.0	34.6	6.2	4.6	5.7	18.2

身体障がいのある人では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「計画相談支援」「短期入所（ショートステイ）」、知的障がいのある人では、「移動支援事業」「計画相談支援」「短期入所（ショートステイ）」、精神障がいのある人では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「就労継続支援 [B 型：非雇用型]」「計画相談支援」などの利用が多くなっています。

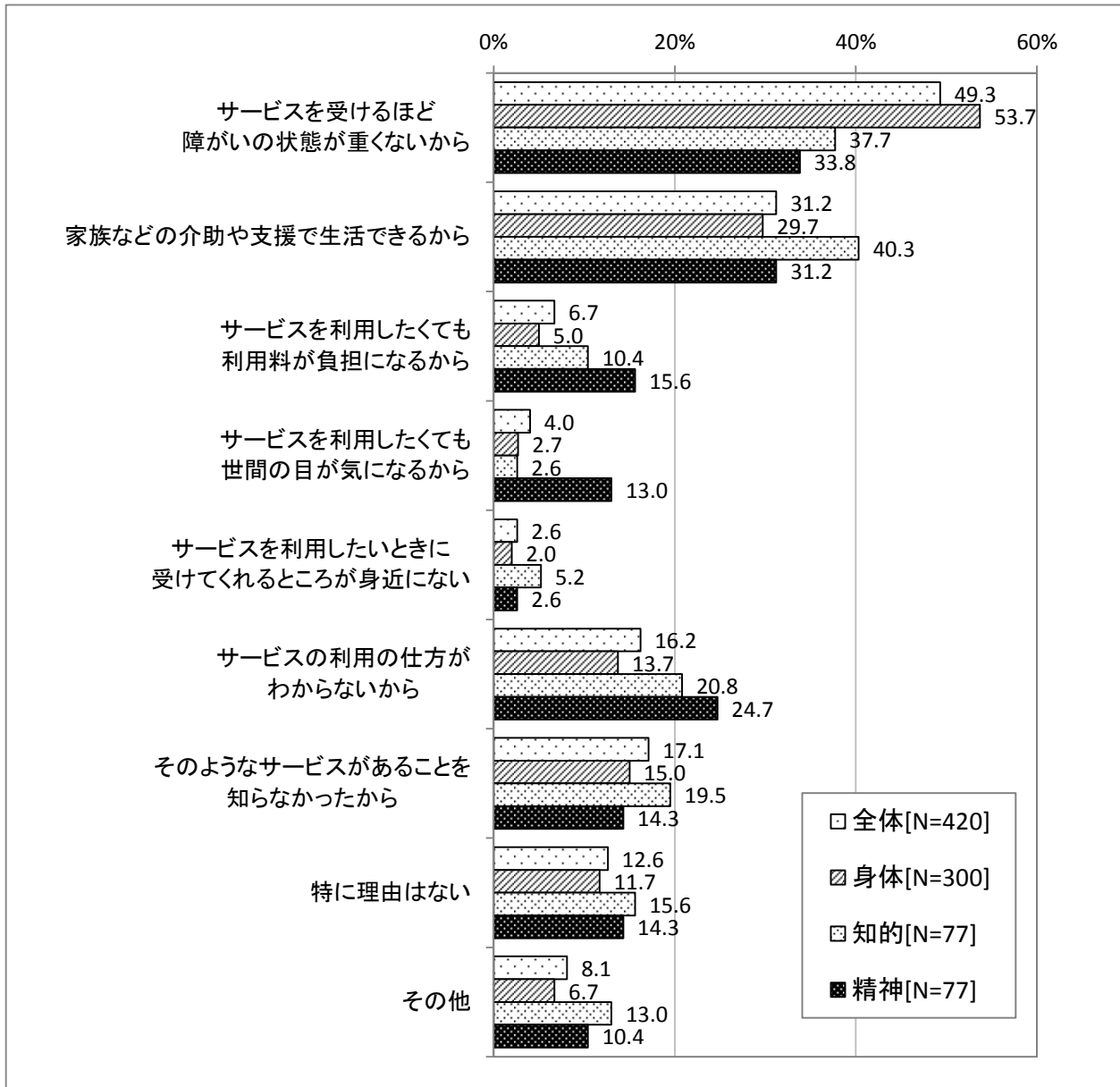
図表 52 現在利用しているサービス[N=761]（複数回答）

	全体	区分認定を受けている人			
		認定者全体	身体	知的	精神
N=	761	129	44	94	20
居宅介護(ホームヘルプ)	6.3	22.5	34.1	13.8	50.0
重度訪問介護	0.5	1.6	4.5	2.1	0.0
同行援護	1.7	4.7	9.1	6.4	0.0
行動援護	1.6	5.4	2.3	5.3	10.0
重度障害者等包括支援	0.7	0.8	2.3	0.0	0.0
短期入所(ショートステイ)	6.2	26.4	27.3	33.0	5.0
療養介護	0.7	1.6	2.3	2.1	0.0
生活介護	5.9	25.6	20.5	30.9	5.0
施設入所支援	4.5	13.2	11.4	14.9	5.0
自立訓練(機能訓練・生活訓練)	2.5	7.8	9.1	7.4	15.0
就労移行支援	1.3	2.3	4.5	3.2	0.0
就労継続支援 [A型:雇用型]	3.8	3.1	4.5	2.1	5.0
就労継続支援 [B型:非雇用型]	6.3	18.6	13.6	17.0	40.0
共同生活援助(グループホーム)	1.8	7.8	4.5	10.6	0.0
児童発達支援	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0
保育所等訪問支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計画相談支援	10.8	37.2	29.5	39.4	35.0
地域移行・地域定着支援	0.1	0.8	0.0	1.1	0.0
障害児相談支援	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
意思疎通支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
移動支援事業	8.5	35.7	25.0	45.7	5.0
地域活動支援センター	2.8	5.4	9.1	6.4	0.0
日中一時支援事業	5.0	14.0	4.5	19.1	0.0
無回答	59.0	6.2	11.4	4.3	0.0

③ 障がい福祉サービス等を利用していない理由

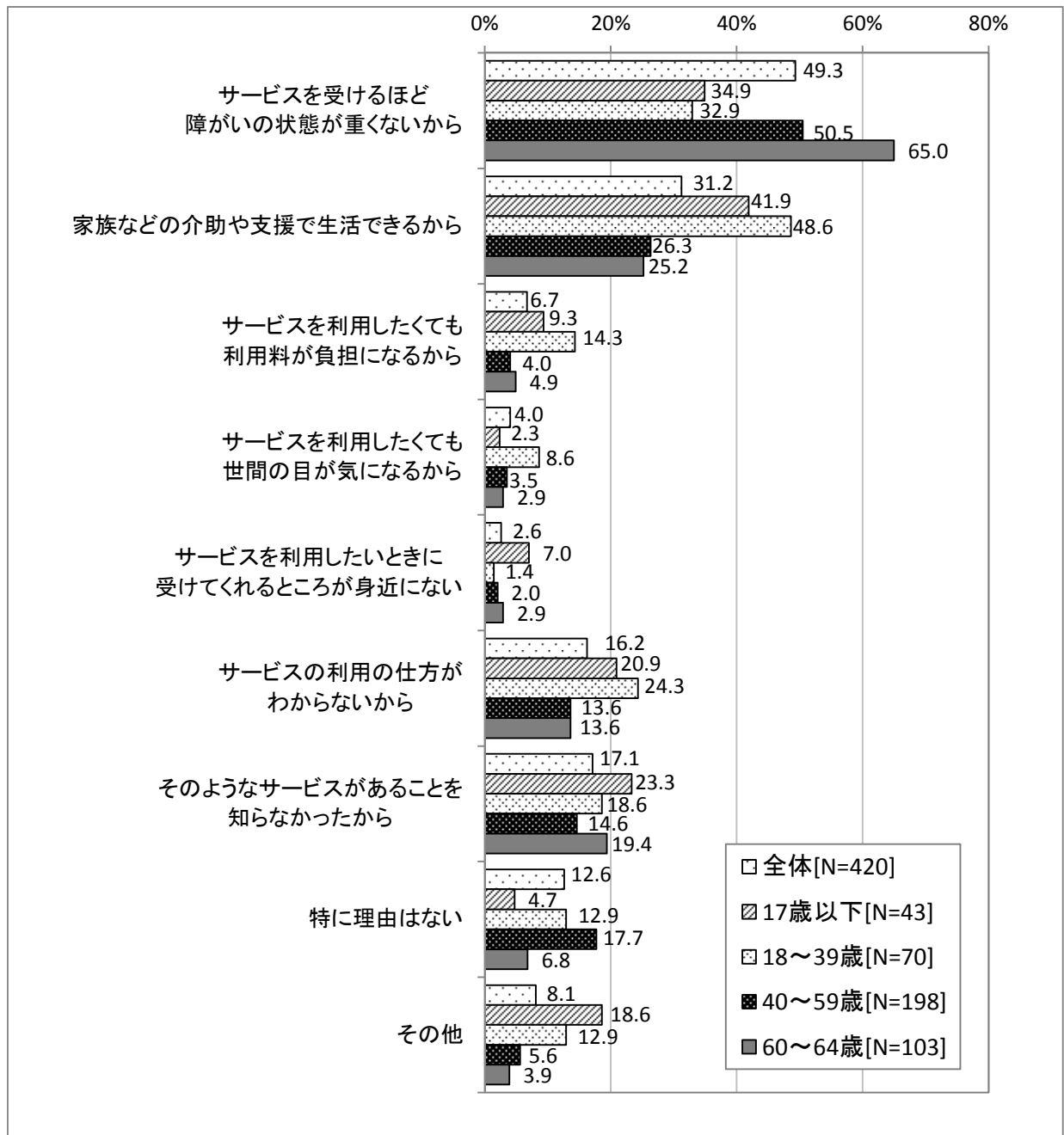
障がい福祉サービス等を利用していない理由は、「サービスを受けるほど障がいの状態が重くないから」が49.3%、「家族などの介助や支援で生活できるから」が31.2%、「そのようなサービスがあることを知らなかったから」が17.1%となっています。

図表 53 障がい福祉サービス等を利用していない理由[N=420]（複数回答）



年齢別では、17歳以下では「そのようなサービスがあることを知らなかったから」、18～39歳の人では「サービスの利用の仕方がわからないから」という人の割合が比較的高くなっています。

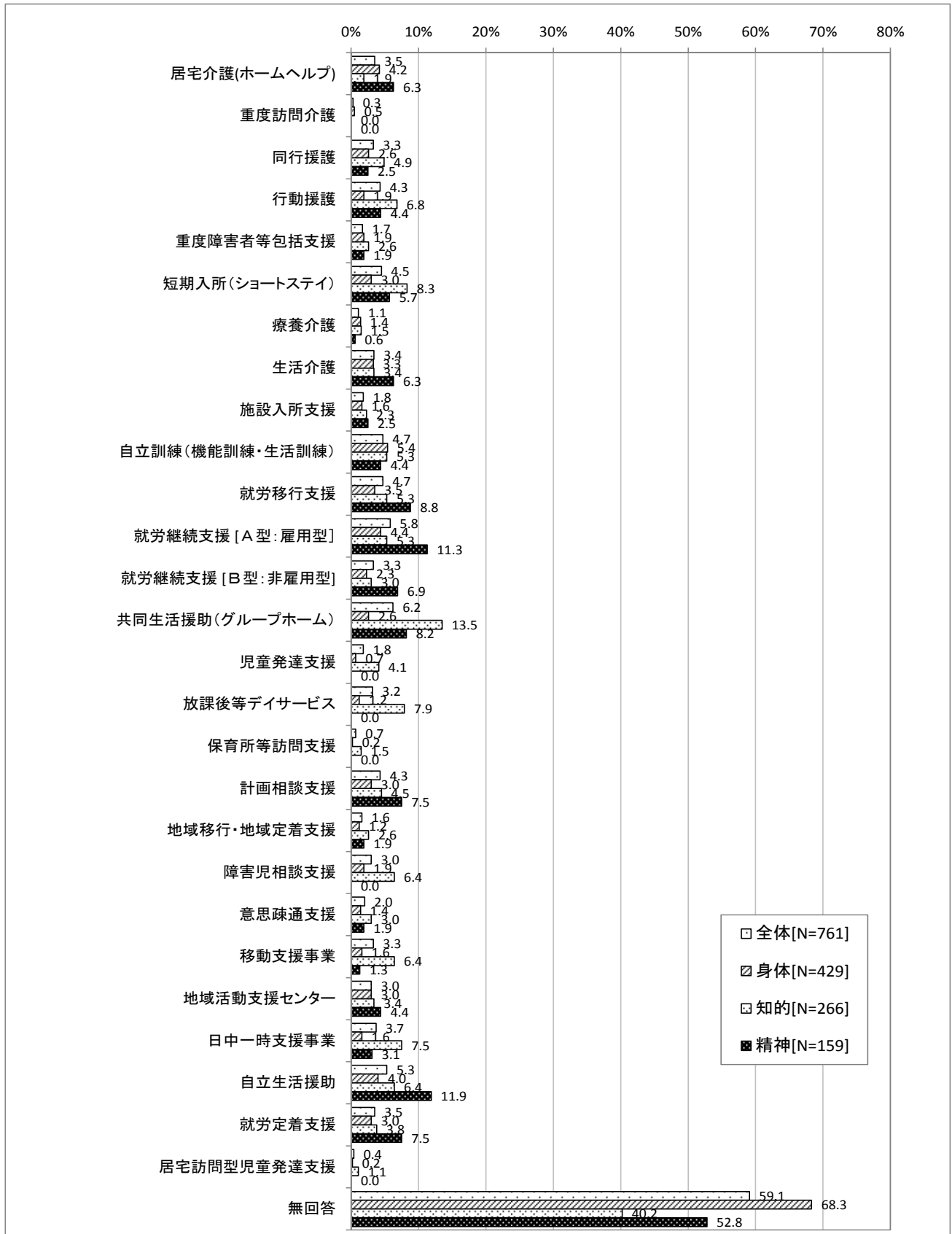
図表 54 障がい福祉サービス等を利用していない理由[N=420]（複数回答）



④ 今後3年以内に利用したいサービス

今後3年以内に利用したいサービスは、「共同生活援助（グループホーム）」が6.2%、「就労継続支援〔A型：雇用型〕」が5.8%、「自立生活援助」が5.3%となっています。

図表 55 今後3年以内に利用したいサービス[N=761]（複数回答）



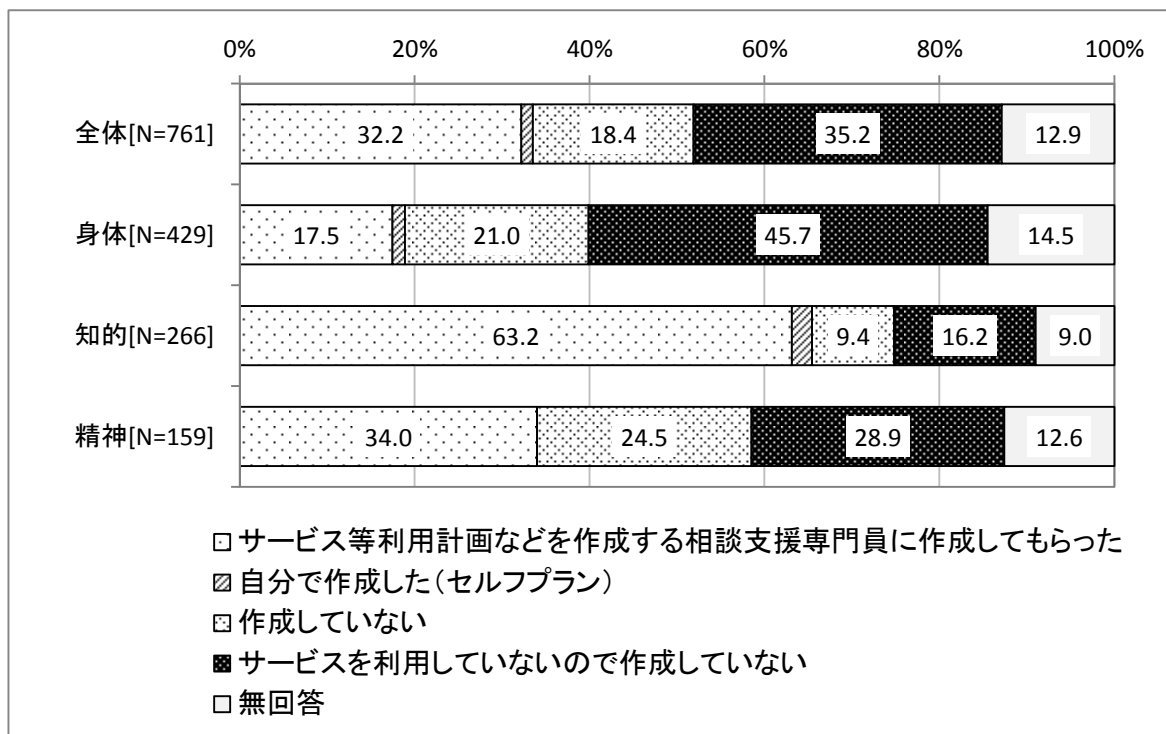
⑤ サービス等利用計画 ※1 などの作成

サービス等利用計画などを作成しているかについては、「サービスを利用していないので作成していない」が35.2%、「サービス等利用計画などを作成する相談支援専門員に作成してもらった」が32.2%、「作成していない」が18.4%となっています。

身体障がいのある人は「サービスを利用していないので作成していない」が45.7%、知的障がいのある人では「サービス等利用計画などを作成する相談支援専門員に作成してもらった」が63.2%となり、他の障がい種別に比べて高い割合となっています。

※1 障がいのある人や児童が希望する生活を実現するために、相談支援専門員が障がい福祉サービス等の提案・調整を行い作成する計画のこと

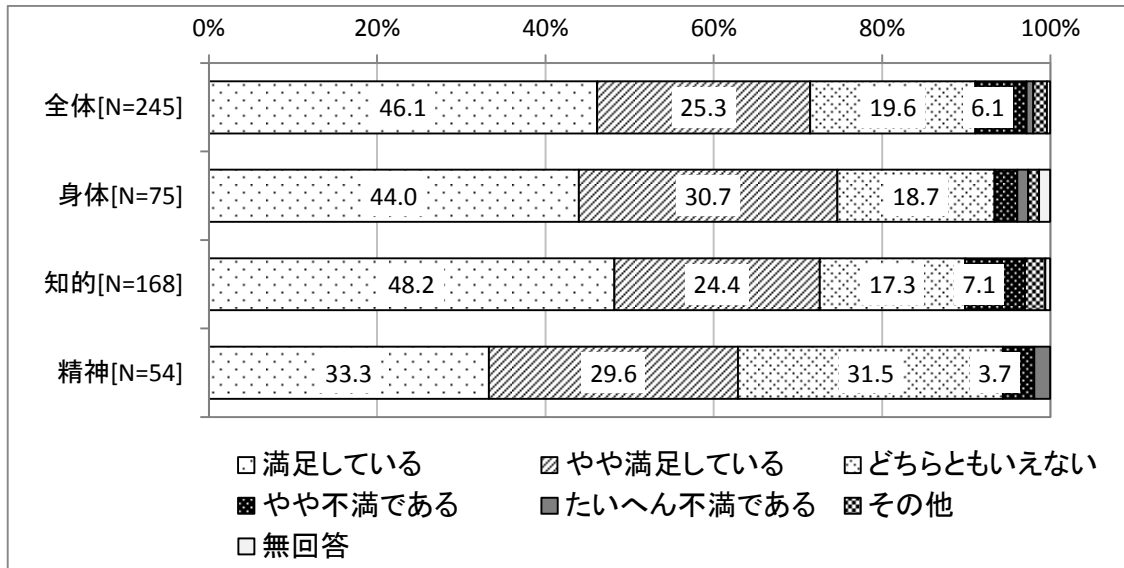
図表 56 サービス等利用計画などの作成[N=761]



⑥ サービス等利用計画などの作成によるサービス利用などの満足度

サービス等利用計画などの作成によるサービス利用や生活状況などの満足度は、「満足している」が46.1%、「やや満足している」が25.3%、「どちらともいえない」が19.6%となっています。

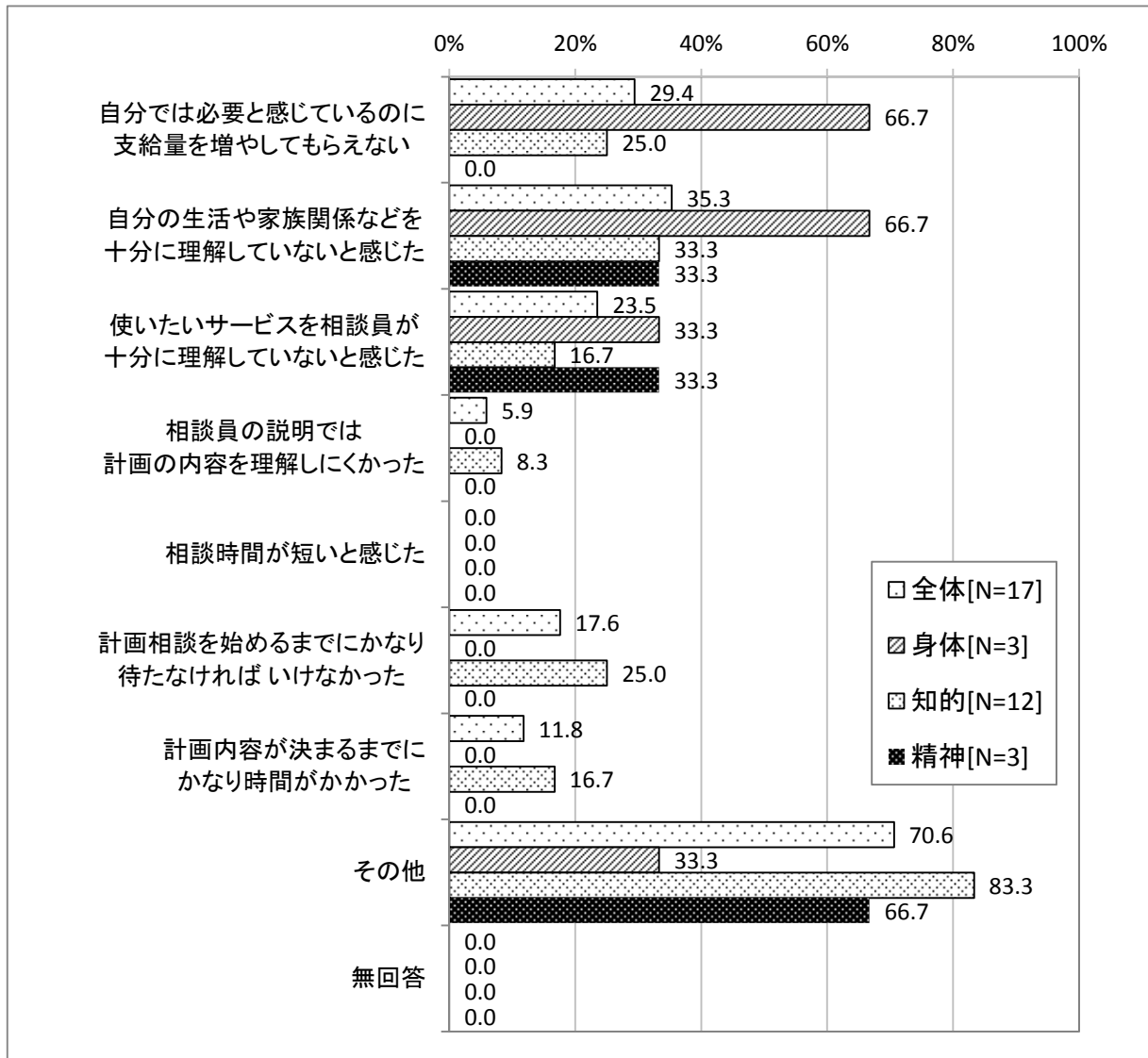
図表 57 サービス等利用計画などの作成によるサービス利用などの満足度[N=245]



⑦ サービス等利用計画などの作成によるサービス利用などを不満に思われている理由

サービス等利用計画などの作成によるサービス利用などを不満に思われている理由は、「自分の生活や家族関係などを十分に理解していないと感じた」が35.3%、「自分では必要と感じているのに支給量を増やしてもらえない」が29.4%となっています。

図表 58 サービス等利用計画などの作成によるサービス利用などを不満に思われている理由[N=17]（複数回答）

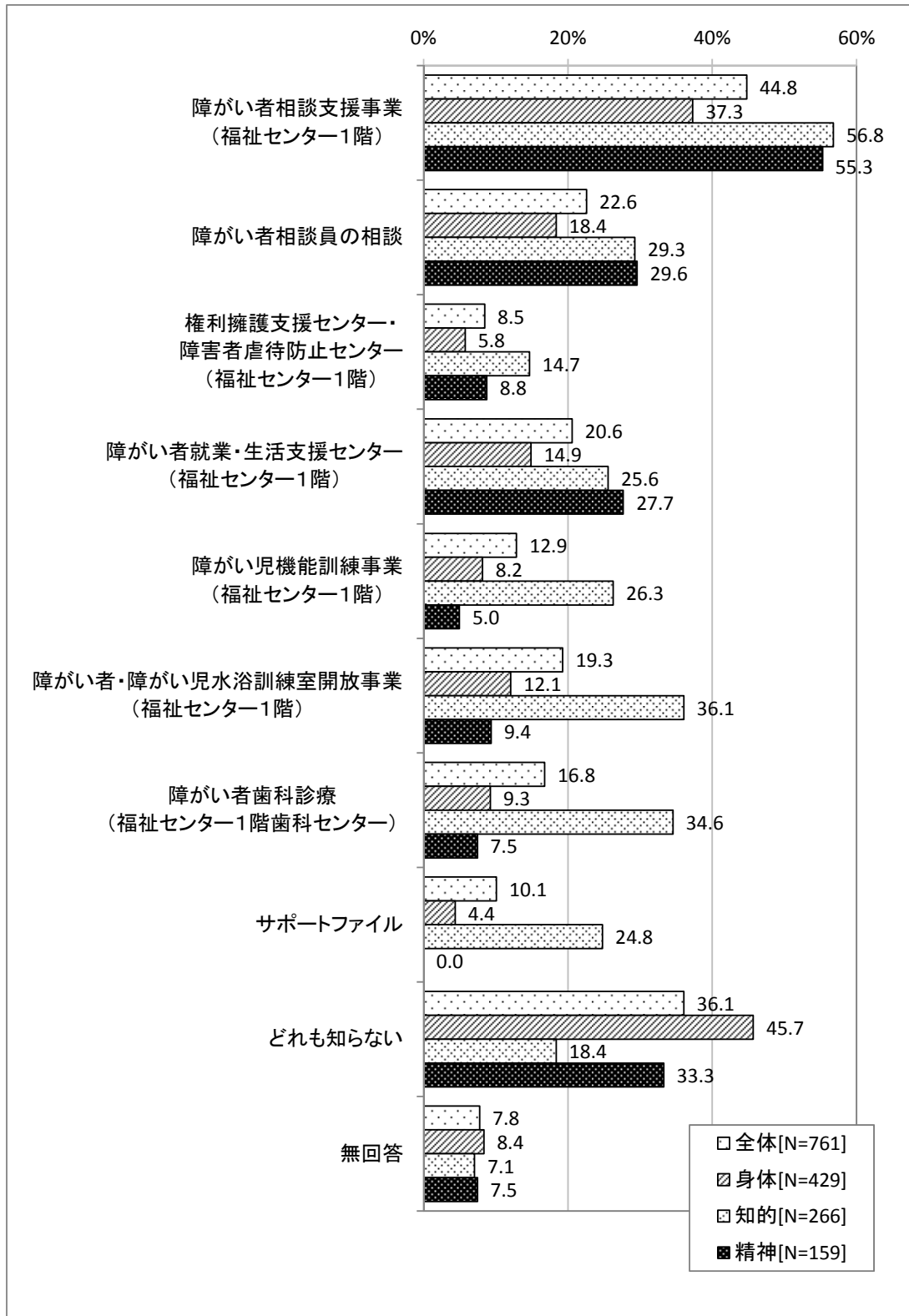


⑧ 市の窓口・機関・事業等の認知

市の窓口・機関・事業等の認知状況は、「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」が44.8%、「どれも知らない」が36.1%、「障がい者相談員^{※2}の相談」が22.6%となっています。

※2 障がいのある人やその家庭における問題について、地域での相談・助言・指導などを行っている相談員のこと

図表 59 市の窓口・機関・事業等の認知[N=761]（複数回答）



前回調査と比較すると、知的障がいのある人及び精神障がいのある人では、「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」の認知割合が増えています。

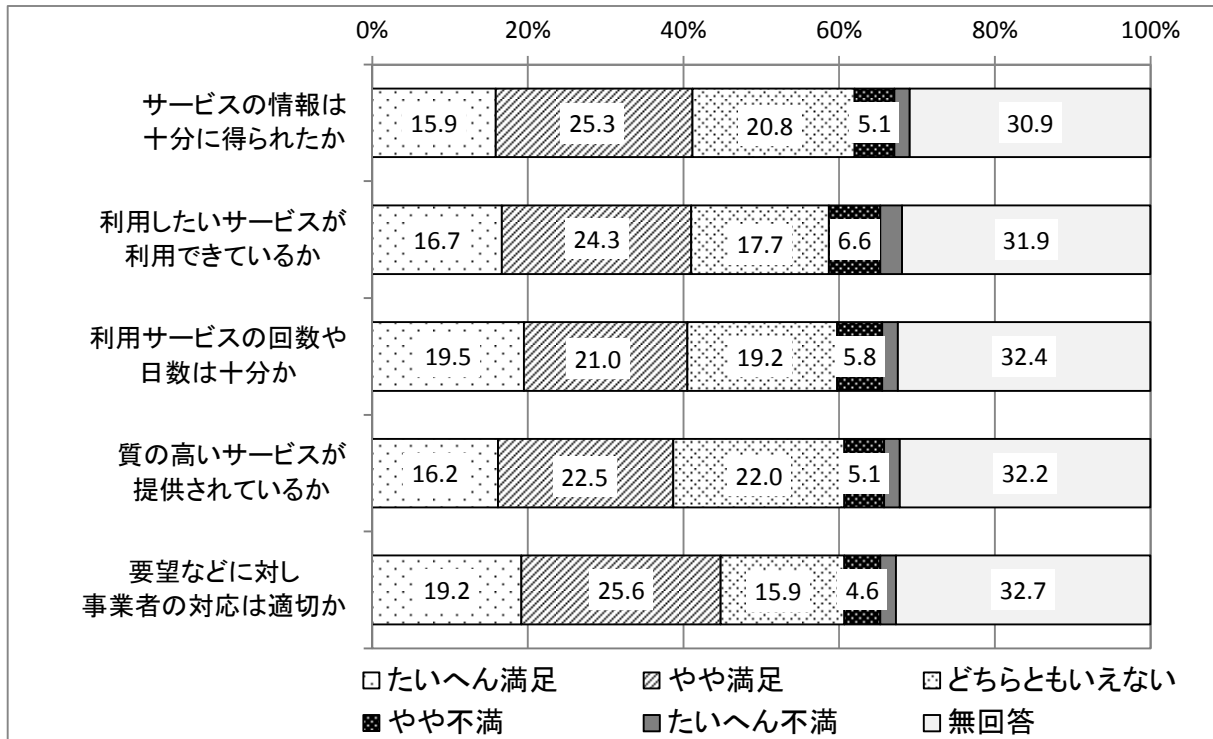
図表 60 市の窓口・機関・事業等の認知（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
障がい者相談支援事業 （福祉センター1階）	36.3	37.3	46.0	56.8	44.0	55.3
障がい者相談員の相談	19.9	18.4	27.0	29.3	29.1	29.6
権利擁護支援センター・障害者虐待防止センター （福祉センター1階）	7.3	5.8	14.8	14.7	6.7	8.8
障がい者就業・生活支援センター （福祉センター1階）	13.9	14.9	25.4	25.6	20.9	27.7
障がい児機能訓練事業 （福祉センター1階）	6.8	8.2	19.6	26.3	2.2	5.0
障がい者・障がい児水浴訓練室開故事業 （福祉センター1階）	13.1	12.1	34.4	36.1	10.4	9.4
障がい者歯科診療 （福祉センター1階歯科センター）	10.6	9.3	34.9	34.6	12.7	7.5
サポートファイル		4.4		24.8		0.0
どれも知らない	43.6	45.7	18.5	18.4	31.3	33.3
無回答	10.8	8.4	12.7	7.1	16.4	7.5

⑨ サービスの内容や事業者の対応などの満足度

サービスの内容や事業者の対応などの満足度については、いずれの評価項目についても「やや満足」の割合が高くなっています。

図表 61 サービスの内容や事業者の対応などの満足度[N=395]



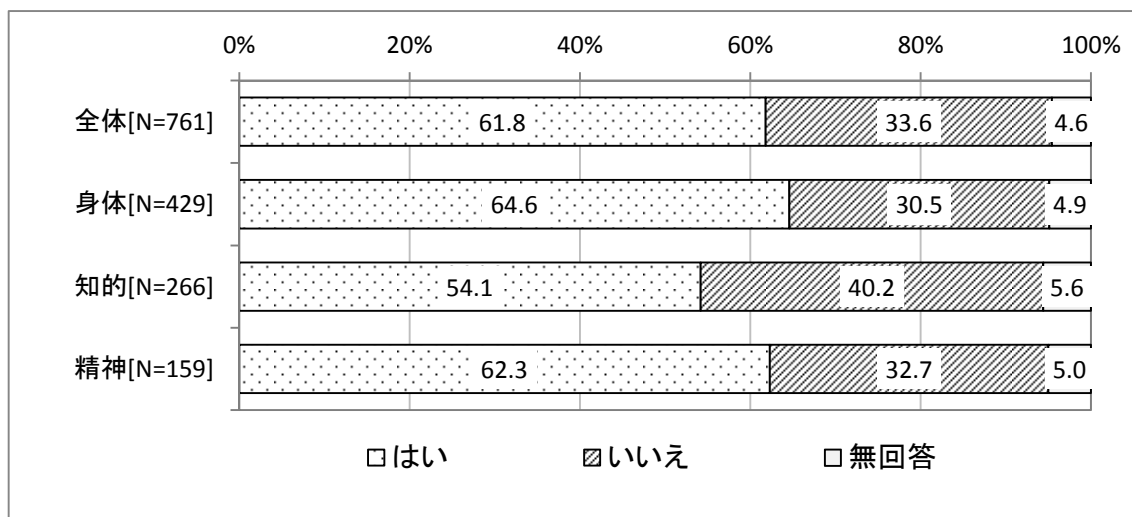
(7) 災害への備えについて

① 災害発生時の避難場所の認知

災害発生時の避難場所の認知については、知っている人（「はい」）が61.8%、知らない人（「いいえ」）が33.6%となっています。

前回調査との比較では、すべての障がい種別で、知っている人（「はい」）の割合が高くなっています。

図表 62 災害発生時の避難場所の認知[N=761]



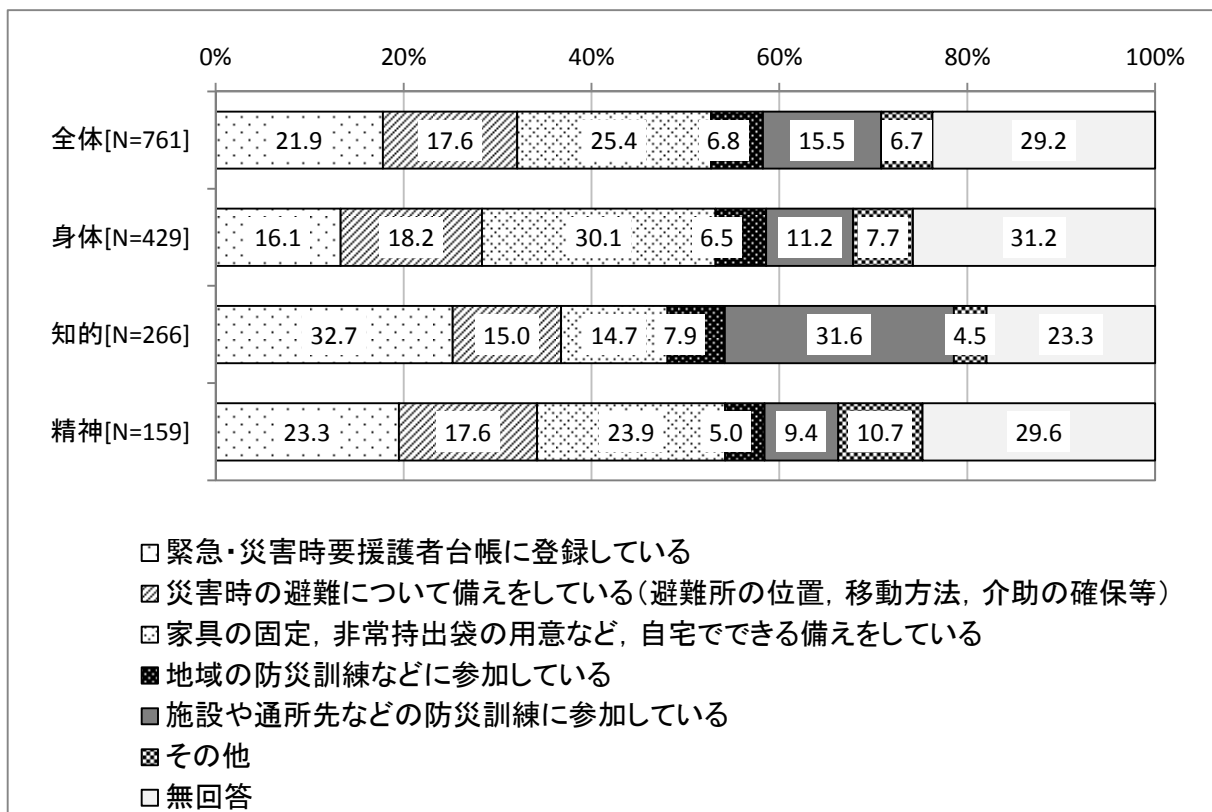
図表 63 災害発生時の避難場所の認知[N=761]（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度
N=	397	429	189	266	134	159
はい	62.5	64.6	48.7	54.1	53.0	62.3
いいえ	33.0	30.5	42.3	40.2	39.6	32.7
無回答	4.5	4.9	9.0	5.6	7.5	5.0

② 災害などへの備え

災害などへの備えについては、「家具の固定、非常持出袋の用意など、自宅のできる備えをしている」が25.4%、「緊急・災害時要援護者台帳に登録している」が21.9%、「災害時の避難について備えをしている（避難所の位置、移動方法、介助の確保等）」が17.6%となっています。他の障がい者に比べ知的障がいのある人では、「施設や通所先などの防災訓練に参加している」の割合が高くなっています。

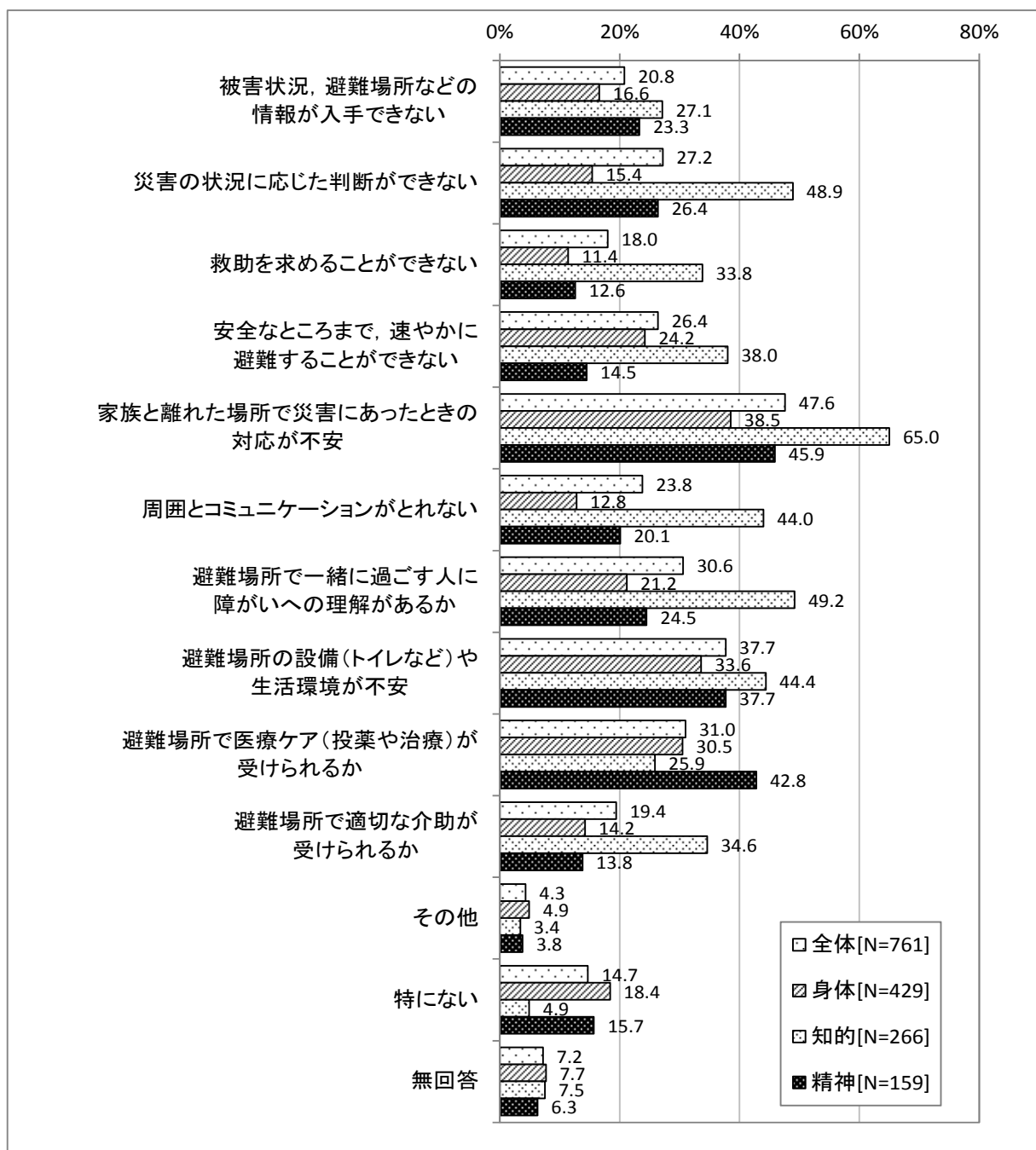
図表 64 災害などへの備え[N=761]（複数回答）



③ 災害時に不安なこと

災害時に不安なことは、「家族と離れた場所で災害にあったときの対応が不安」が47.6%、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が37.7%、「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」が31.0%となっています。身体障がいのある人では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」などの不安が高く、知的障がいのある人では「家族と離れた場所で災害にあったときの対応が不安」が特に高く、「避難場所で一緒に過ごす人に障がいへの理解があるか」「災害の状況に応じた判断ができない」「周囲とのコミュニケーションがとれない」などが高くなっています。精神障がいのある人では「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」などが高くなっています。

図表 65 災害時に不安なこと[N=761]（複数回答）



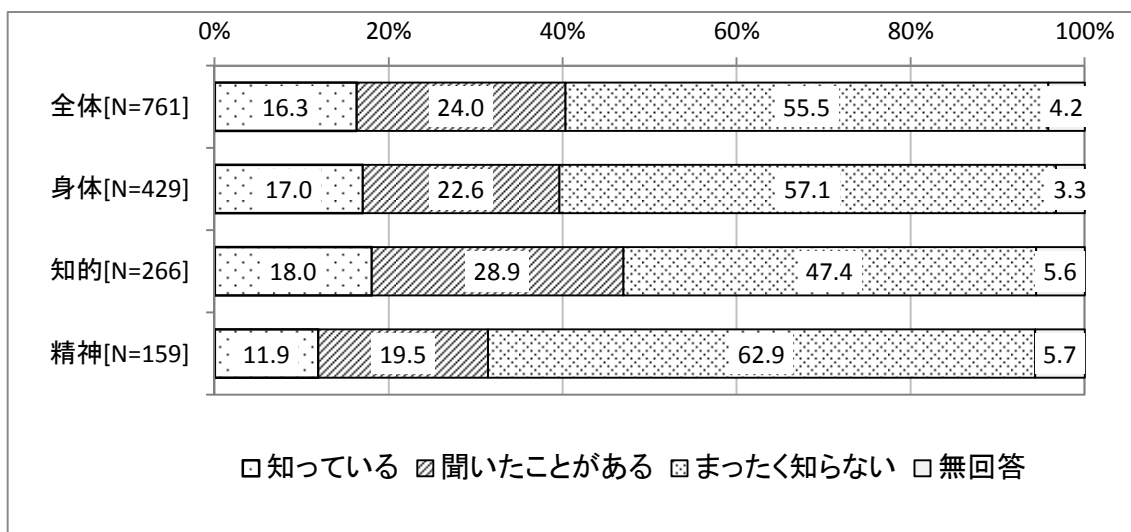
(8) 障がいのある人に対する差別や虐待などについて

① 「障害者差別解消法」※³の認知

「障害者差別解消法」の認知については、「まったく知らない」が55.5%、「聞いたことがある」が24.0%、「知っている」が16.3%となっています。障がい種別では、精神障がいのある人に「まったく知らない」という回答割合が他の障がい種別に比べて高くなっています。

※3 役所や事業者が、障がいのある人に対して、正当な理由なく障がいを理由として差別することを禁止し、必要な配慮を求められた場合、できる限り配慮することを定めた法律です

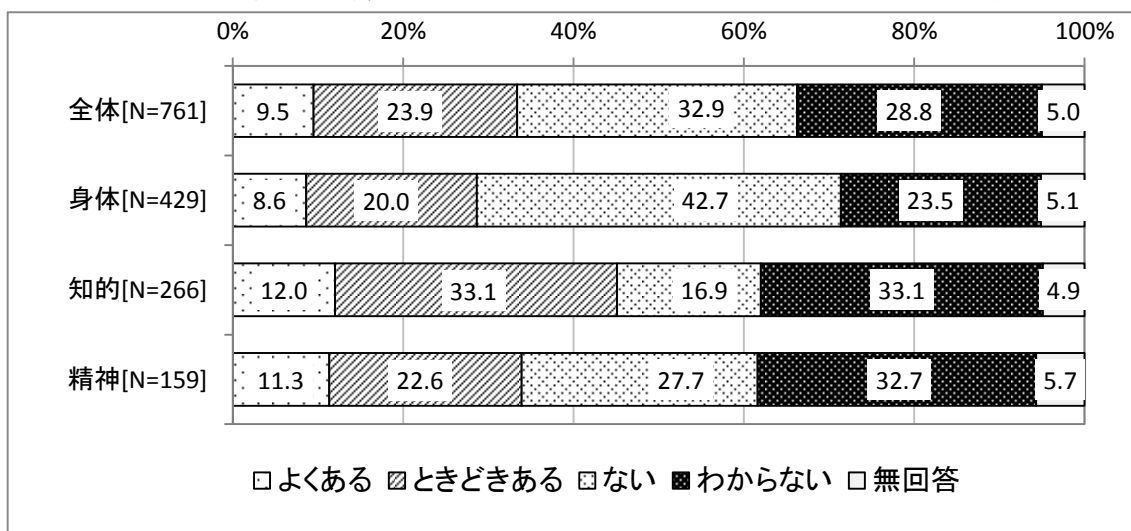
図表 66 「障害者差別解消法」の認知[N=761]



② 障がいがあることで差別・偏見を受けた経験

障がいがあることで差別・偏見を受けた経験は、「ない」が32.9%、「わからない」が28.8%、「ときどきある」が23.9%となっています。知的障がいのある人では、「よくある」が12.0%、「ときどきある」が33.1%となっており、他の障がい種別と比べて割合が高くなっています。

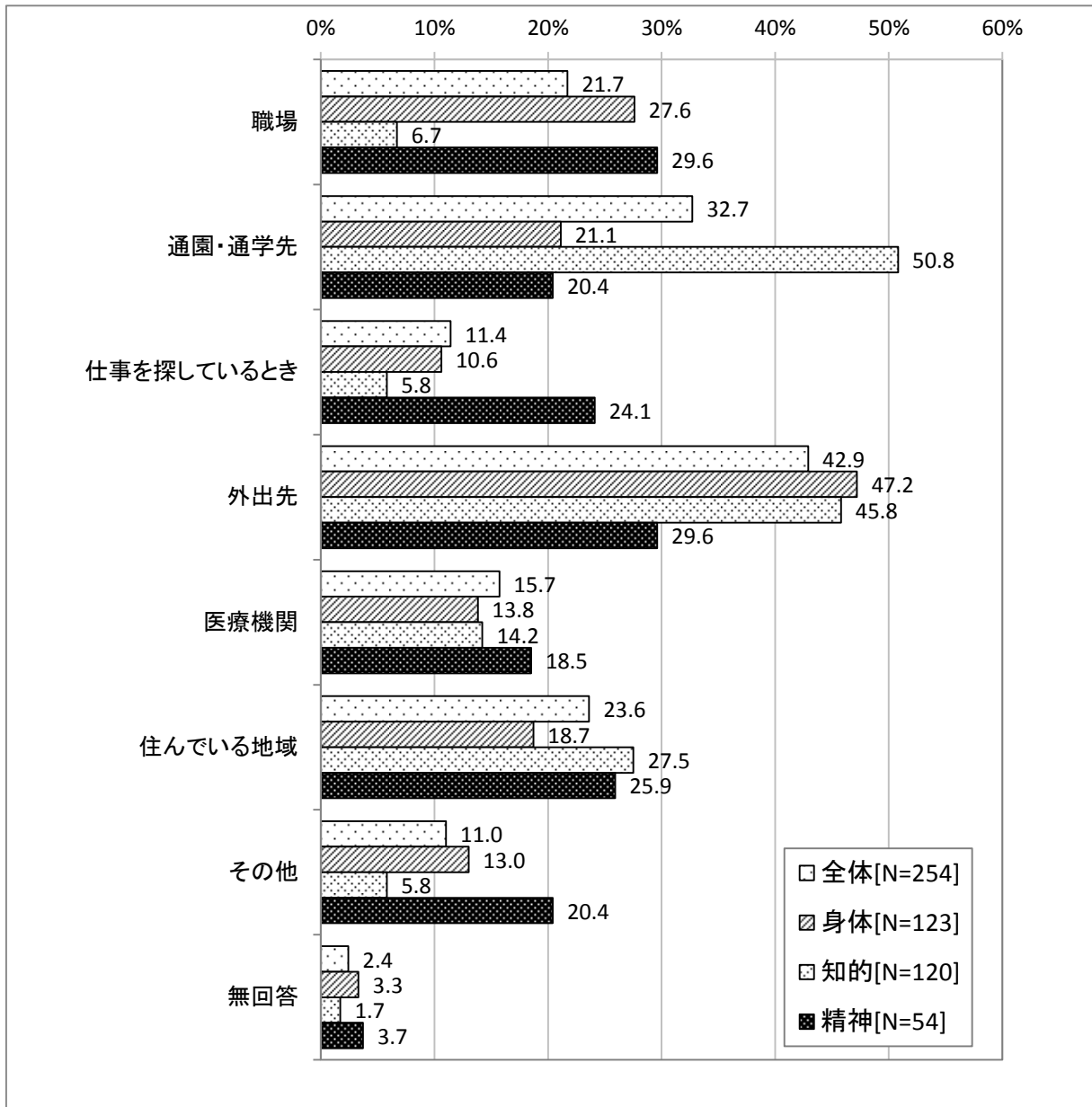
図表 67 障がいがあることで差別・偏見を受けた経験[N=761]



③ 差別を受けた場所や場面

差別・偏見を受けた経験が「よくある」「ときどきある」と回答した人に、差別を受けた場所や場面を聞いたところ、「外出先」が42.9%、「通園・通学先」が32.7%、「住んでいる地域」が23.6%となっています。知的障がいのある人では、「通園・通学先」が50.8%となっており、他の障がい種別に比べて高くなっています。

図表 68 差別を受けた場所や場面[N=254]（複数回答）



前回調査との比較では、身体障がいのある人では「医療機関」、精神障がいのある人では「職場」の割合が増えています。

図表 69 差別を受けた場所や場面（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	136	123	105	120	57	54
職場	30.9	27.6	14.3	6.7	24.6	29.6
通園・通学先	27.9	21.1	51.4	50.8	21.1	20.4
仕事を探しているとき	27.9	10.6	7.6	5.8	28.1	24.1
外出先	45.6	47.2	50.5	45.8	28.1	29.6
医療機関	8.8	13.8	20.0	14.2	17.5	18.5
住んでいる地域	18.4	18.7	29.5	27.5	24.6	25.9
その他	9.6	13.0	6.7	5.8	21.1	20.4
無回答	1.5	3.3	1.0	1.7	0.0	3.7

④ 差別の内容

208 件の意見があり、内容としては障がいに対する理解不足が最も多く、次いでいじめ、暴力や言葉の暴力が多くなっています。

特に、じろじろ見られる、仲間外れ・無視される・避けられる、障がいに対する無神経な言葉などへの意見が多くなります。

(下線の箇所は意見が3名以上からあがったもの)

	意見内容	件数
話し方	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもに話すように話す • 病院で自分には説明してくれず、また説明してくれても簡単な内容のみ。付き添いへの説明の方が詳しいのに同じように説明してほしい • 市役所や福祉施設の方に、言葉は理解できるのに、何もわからない人のような話し方をされた 	3
いじめ	<ul style="list-style-type: none"> • <u>仲間外れ、無視される、避けられる</u> • <u>からかわれる、笑われる、物をとられる</u> • 陰口を言われる • 通学していた時に、行事の参加などは勝手に不参加にさせられた • 独り言を言ったりすると、「あっちいって」「気持ち悪い」など言われた • 髪の毛を焼かれた • 靴に画鋲に入れられた など 	46
拒否	<ul style="list-style-type: none"> • 店の予約は電話のみと言われた(直接店に行ってもダメ、メール・FAXはなしとのこと) • 飲食店で車椅子の入店を断られた • 一時保育を拒否された など 	9
理解不足	<ul style="list-style-type: none"> • <u>障がいがあると分かったことを理由に雇用継続を断られたり、面接時に無理と言われた</u> • <u>奇異な目、白い目、変な目、嫌な目で見られる</u> • <u>一見普通に見えるので、障がい者だと認識してもらえない</u> • 障がいに対する安易な理解から「このぐらい」と判断される • 障がいに対して配慮がない業務をさせられる • 保育所や学校では同学年の方は理解があり親切な人が多いが、他学年の人には偏見をもたれた • 言葉が聞き取りにくい為、話をきいてもらえない • 職場でミスをした時、上司からきつく怒られ「障がい者に言っても理解できない」と言われた など 	111
暴力・言葉の暴力	<ul style="list-style-type: none"> • <u>障がいに対する無神経な言葉</u> • 理解のない友達から手をあげられ目を怪我した など 	20
その他	<ul style="list-style-type: none"> • <u>医療機関での対応</u> • 障がいを理由に信用してもらえない • 障がい者手帳を見せると態度が変わる など 	19

⑤ 障がいのある人に対してあれば良い配慮や心遣い

259 件の意見があり、個々の障がいに対する正しい理解を求める意見が最も多く、次いで普通に接して欲しいという意見が多くなっています。

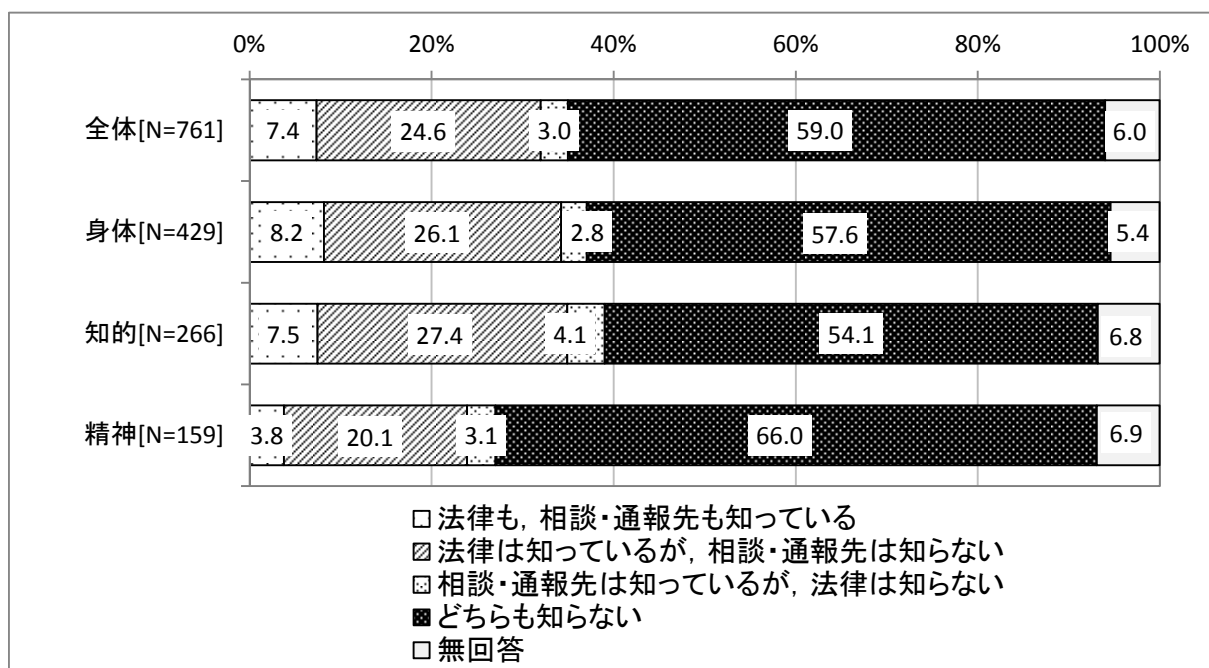
意見内容	件数
・個々の障がいに対する正しい理解	29
・普通に接して欲しい	19
・無理、あきらめている、期待していない	12
・優しく声掛けをされるとうれしい	9
・温かい目で見守る	8
・電車、バスなどの座席を譲ってほしい	8
<ul style="list-style-type: none"> ・他の人と同じように生活したい ・24 時間対応してくれる窓口があれば心強い ・緊急事態に臨機応変にサポートしてもらえる体制 ・障がい者のワッペンを作成してほしい ・相談員が一般企業にいてほしい ・支援員をもっと増やしてほしい ・幼稚園や小学校での講演会を開いて欲しい ・身体が動けない時、気軽に外出できるようにしてほしい ・困った時の相談窓口が近い ・いつまでも電話相談のみでなく、メールや LINE など使える手段は何でも使ってほしい ・夕方以降の道路等の照明を、せめて主要道路に増やして欲しい。そうすれば私共は行動範囲が広くなり、1~2 時間多く仕事にける（希望する）時間を増やせる ・いつでも誰でも困っているときに、少しの手助けをしてあげれば良い ・心遣いはさりげなく、可能な限り自立できる様に（当然の存在として）手助けして頂ければうれしい ・「もっと堂々と生き生きと」を常に考えてあげたいと思う。障がいがある・ないという有無だけで見ず、ひとりの人間としてのつきあい ・まずは一言「手伝いはいますか？」と聞いてほしい ・学校でたった一人の先生がいつも「〇〇君、今日は来れたの？頑張ったね！」と言葉をかけてくれた。そういう先生がたくさんいると良い など 	174

⑥ 「障害者虐待防止法」※4の認知

「障害者虐待防止法」の認知については、「（法律も、相談・通報先）どちらも知らない」が59.0%、「法律は知っているが、相談・通報先は知らない」が24.6%、「法律も、相談・通報先も知っている」が7.4%となっています。障がい種別では、精神障がいのある人に「どちらも知らない」という回答割合が66.0%と高くなっています。

※4 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律

図表 70 「障害者虐待防止法」の認知[N=761]

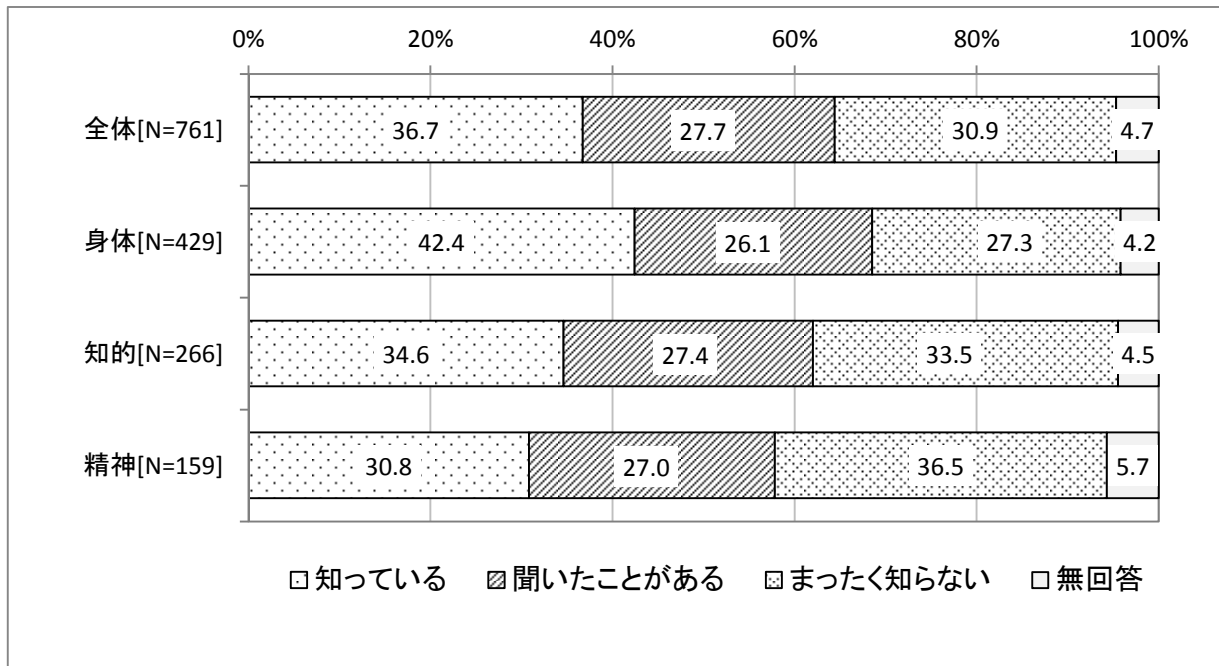


⑦ 「成年後見制度」※⁵の認知

「成年後見制度」の認知については、「知っている」が36.7%、「まったく知らない」が30.9%、「聞いたことがある」が27.7%となっています。

※⁵ 病気や障がいによって判断能力が不十分な人が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立ててその人を援助してくれる人を選任してもらう制度

図表 71 「成年後見制度」の認知[N=761]



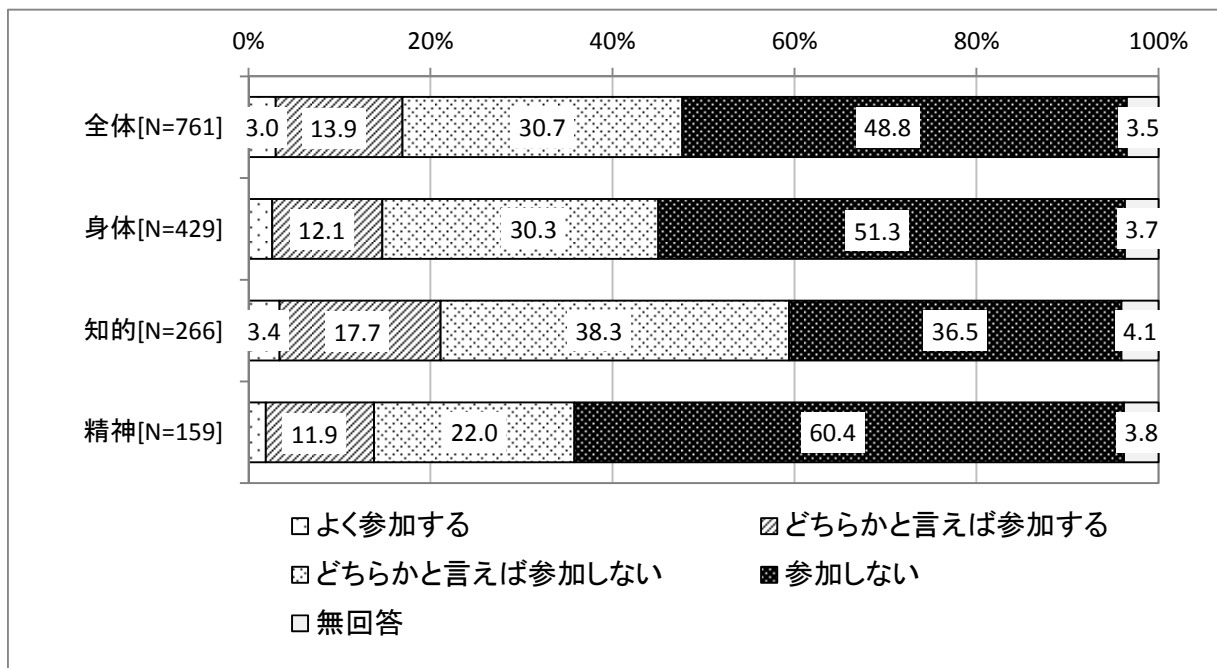
(9) 地域社会とのかかわりについて

① 地域の行事・活動への参加状況

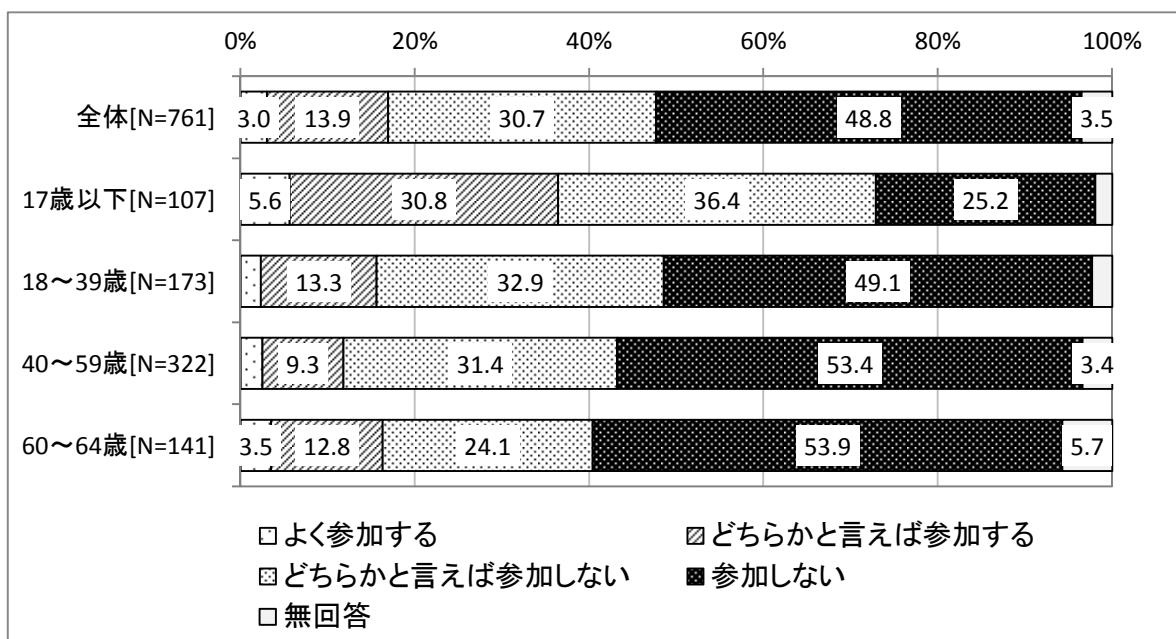
地域の行事・活動への参加状況は、「参加しない」が48.8%、「どちらかと言えば参加しない」が30.7%、「どちらかと言えば参加する」が13.9%となっています。精神障がいのある人では、「参加しない」が60.4%で他の障がいに比べて高くなっています。

年齢別では、年代が上がるほど「参加しない」という回答割合が高くなっていく傾向にあります。

図表 72 地域の行事・活動への参加状況[N=761]



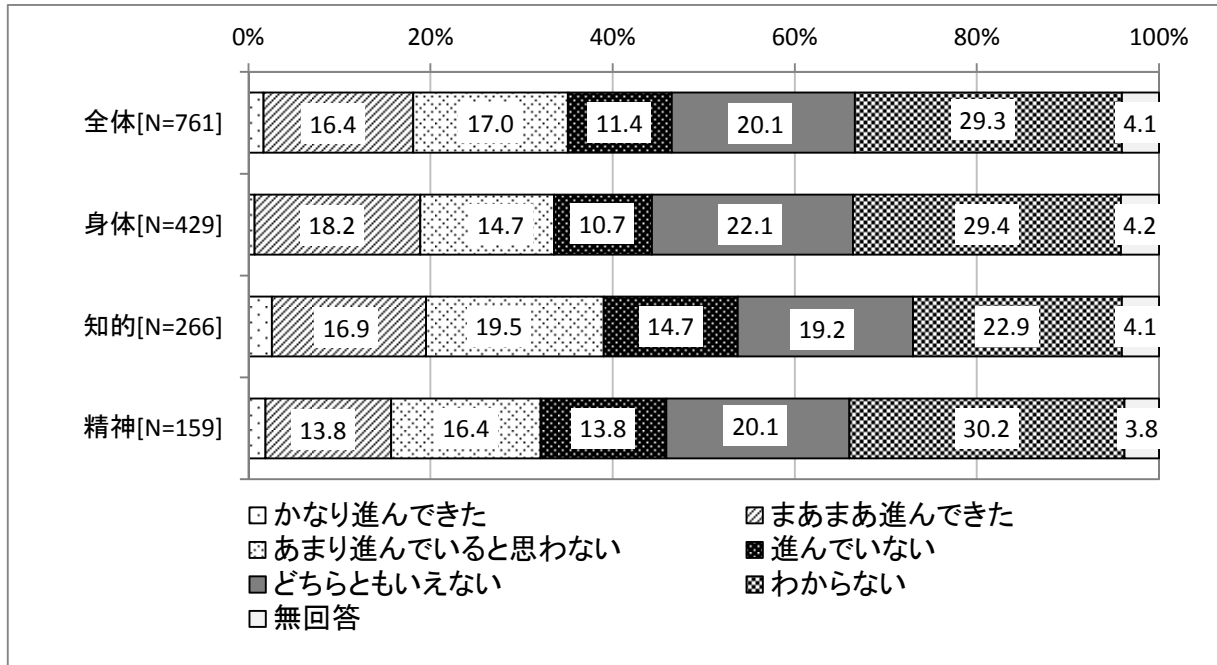
図表 73 地域の行事・活動への参加状況[N=761]



② 障がいのある人に対する地域の理解

障がいのある人に対する地域の理解については、「わからない」が29.3%、「どちらともいえない」が20.1%、「あまり進んでいると思わない」が17.0%、「まあまあ進んできた」が16.4%となっており、比較的認識が分散しています。

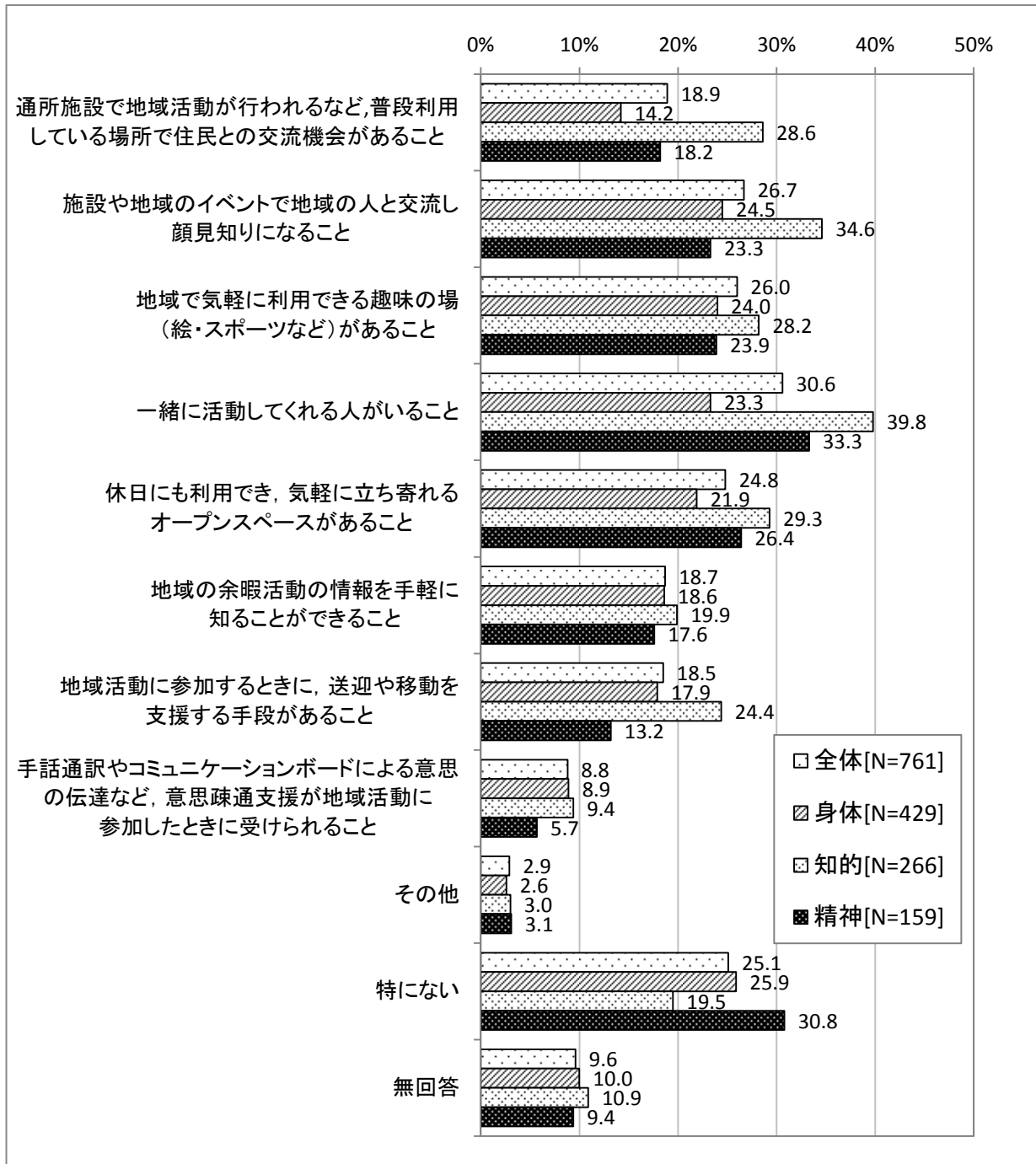
図表 74 障がいのある人に対する地域の理解[N=761]



③ 地域活動に参加するために必要なこと

地域活動に参加するために必要なことは、「一緒に活動してくれる人がいること」が30.6%、「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」が26.7%、「地域で気軽に利用できる趣味の場（絵・スポーツなど）があること」が26.0%となっています。

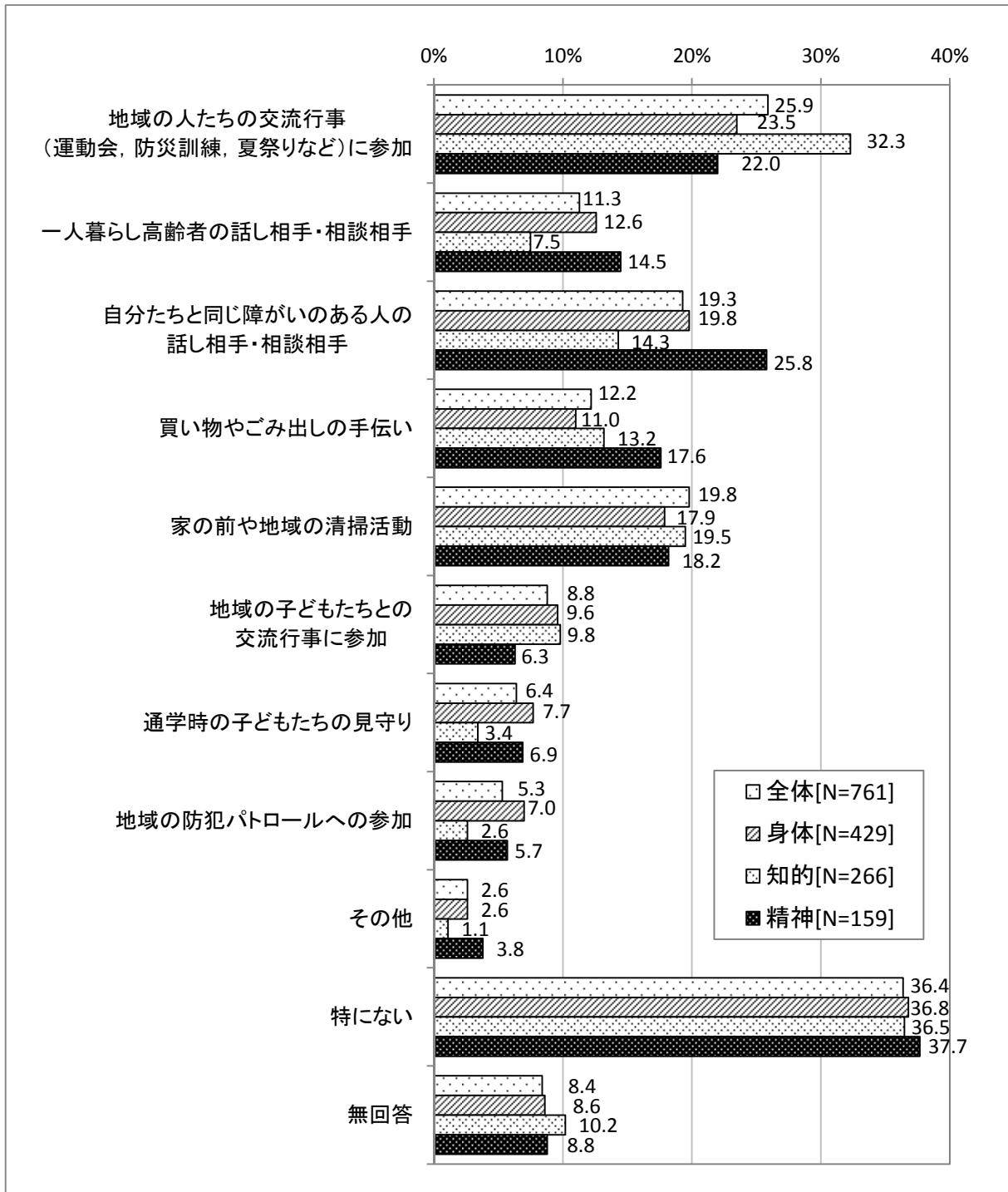
図表 75 地域活動に参加するために必要なこと[N=761]（複数回答）



④ 協力できそうな地域活動

協力できそうな地域活動は、「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」が25.9%、「家の前や地域の清掃活動」が19.8%、「特にない」が36.4%となっています。身体障がいのある人、知的障がいのある人は「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」，精神障がいのある人は「自分たちと同じ障がいのある人の話し相手・相談相手」「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」などが高くなっています。

図表 76 協力できそうな地域活動[N=761]（複数回答）

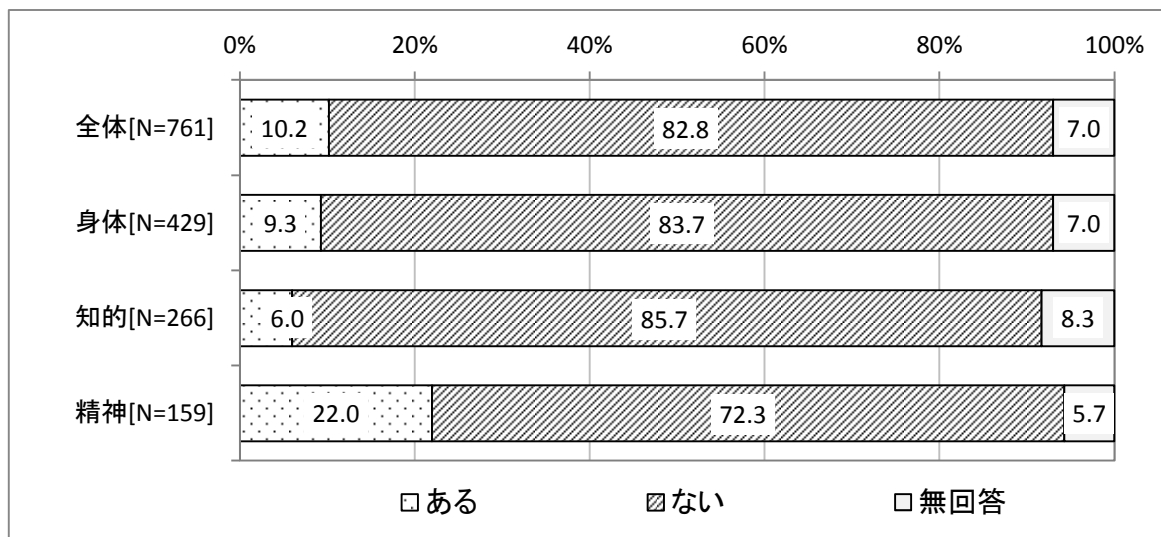


(10) 消費生活について

① 買い物やサービス時にトラブルにあったこと

買い物やサービス時にトラブルにあったことは、「ない」の割合が82.8%となっています。精神障がいのある人では「ある」の割合が22.0%で、他の障がい種別に比べて高くなっています。

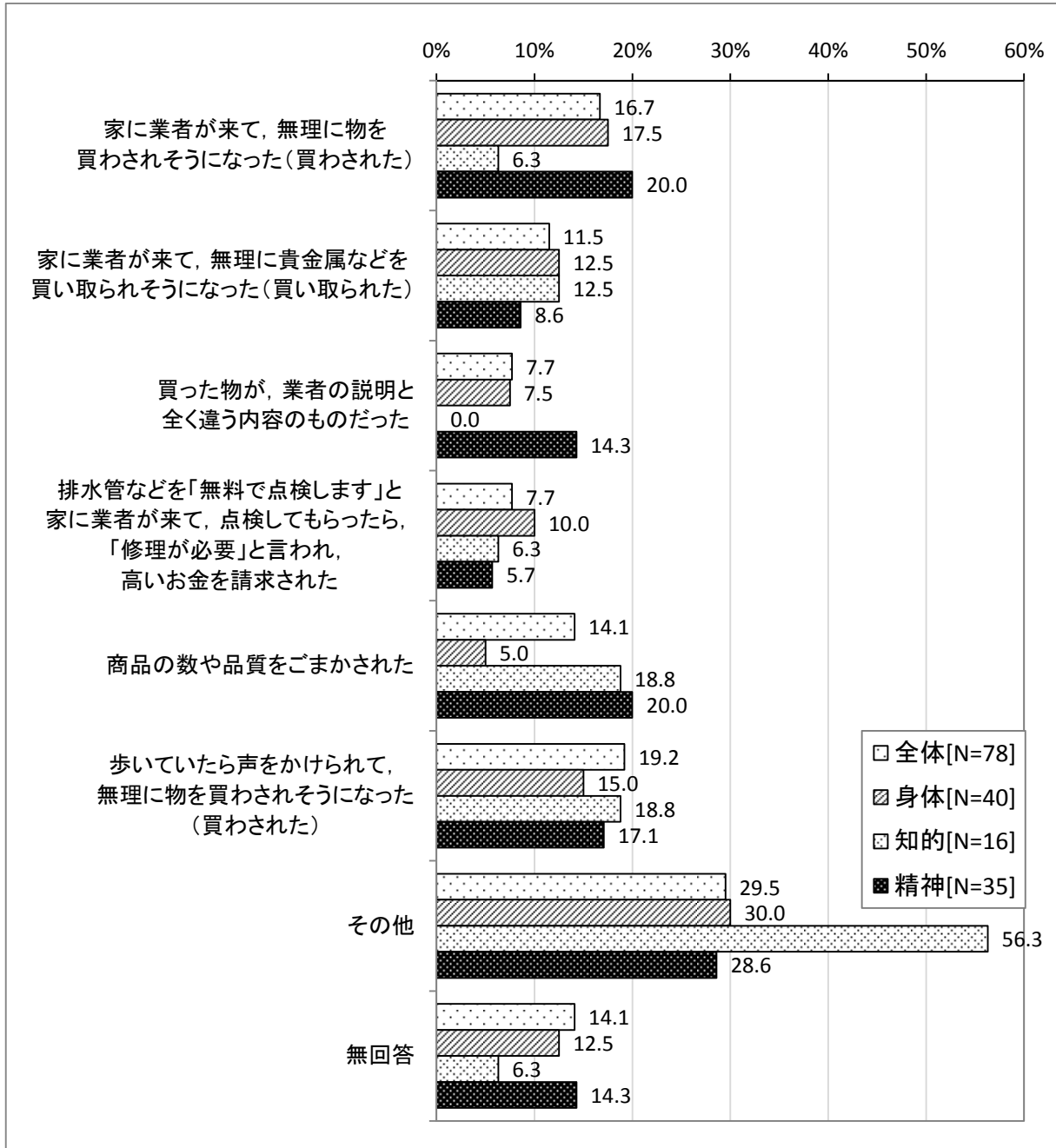
図表 77 買い物やサービス時にトラブルにあったこと[N=761]



② トラブルの内容

トラブルの内容については、「歩いていたら声をかけられて、無理に物を買わされそうになった（買わされた）」が19.2%、「家に業者が来て、無理に物を買わされそうになった（買わされた）」が16.7%、「その他」が29.5%となっています。

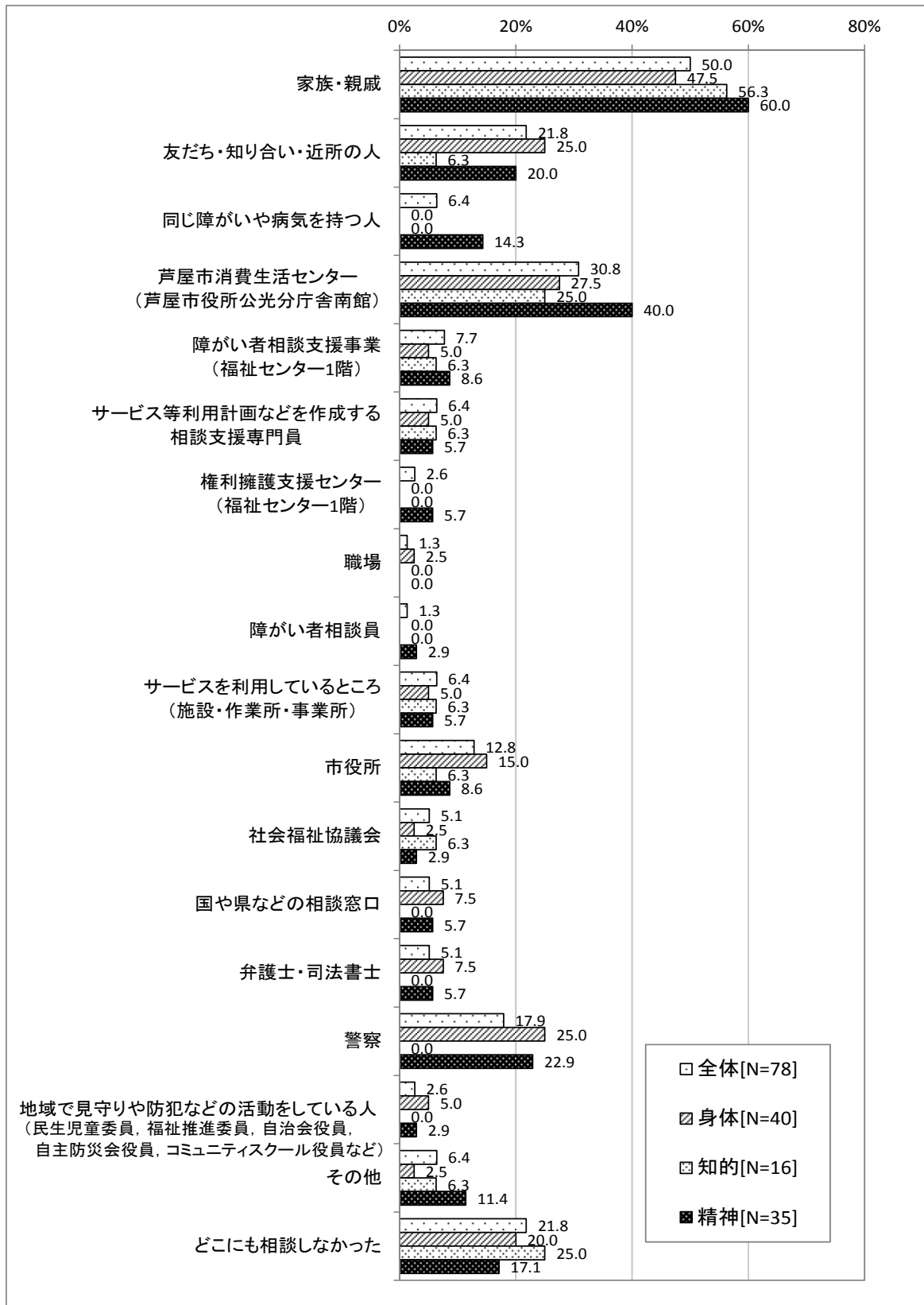
図表 78 トラブルの内容[N=78]（複数回答）



③ トラブルにあったときの相談先

トラブルにあったときの相談先については、「家族・親戚」が50.0%、「芦屋市消費生活センター（芦屋市役所公光分庁舎南館）」が30.8%、「友だち・知り合い・近所の人」「どこにも相談しなかった」がそれぞれ21.8%となっています。

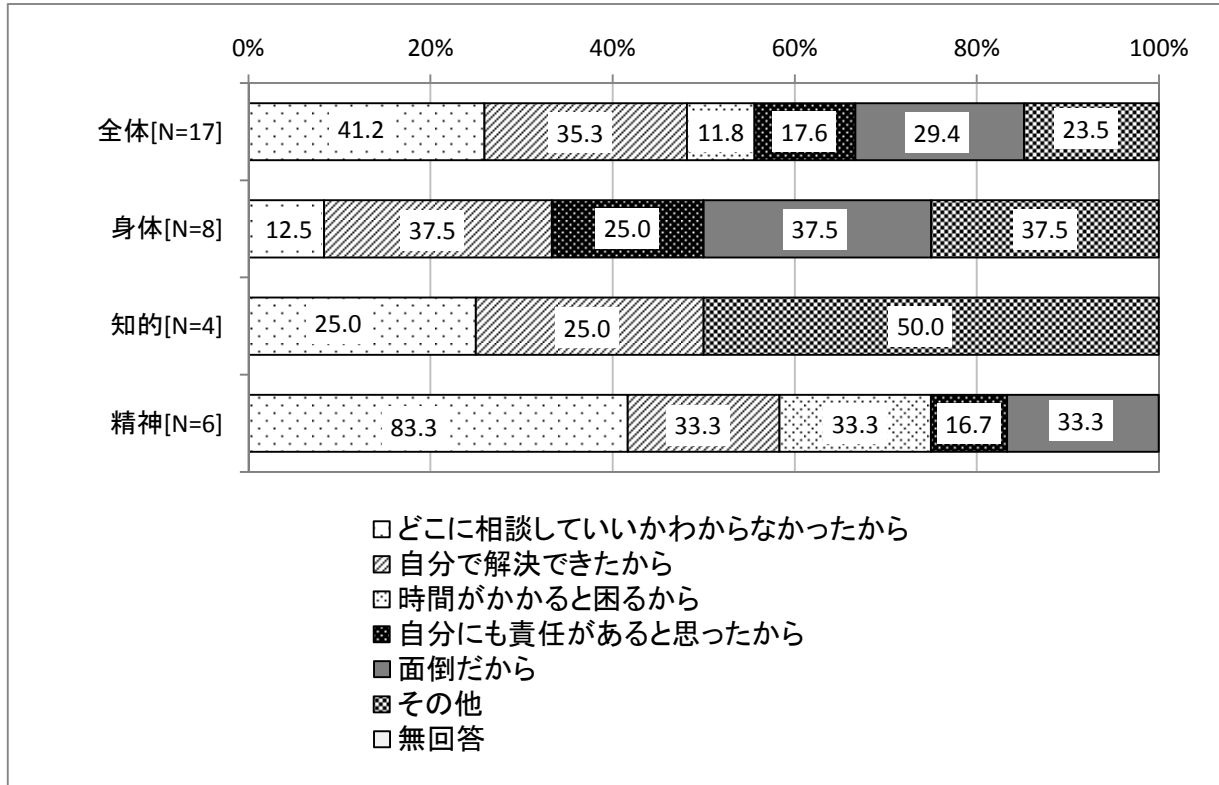
図表 79 トラブルにあったときの相談先[N=78]（複数回答）



④ 相談しなかった理由

相談しなかった理由については、「どこに相談していいかわからなかったから」が41.2%、「自分で解決できたから」が35.3%、「面倒だから」が29.4%となっています。

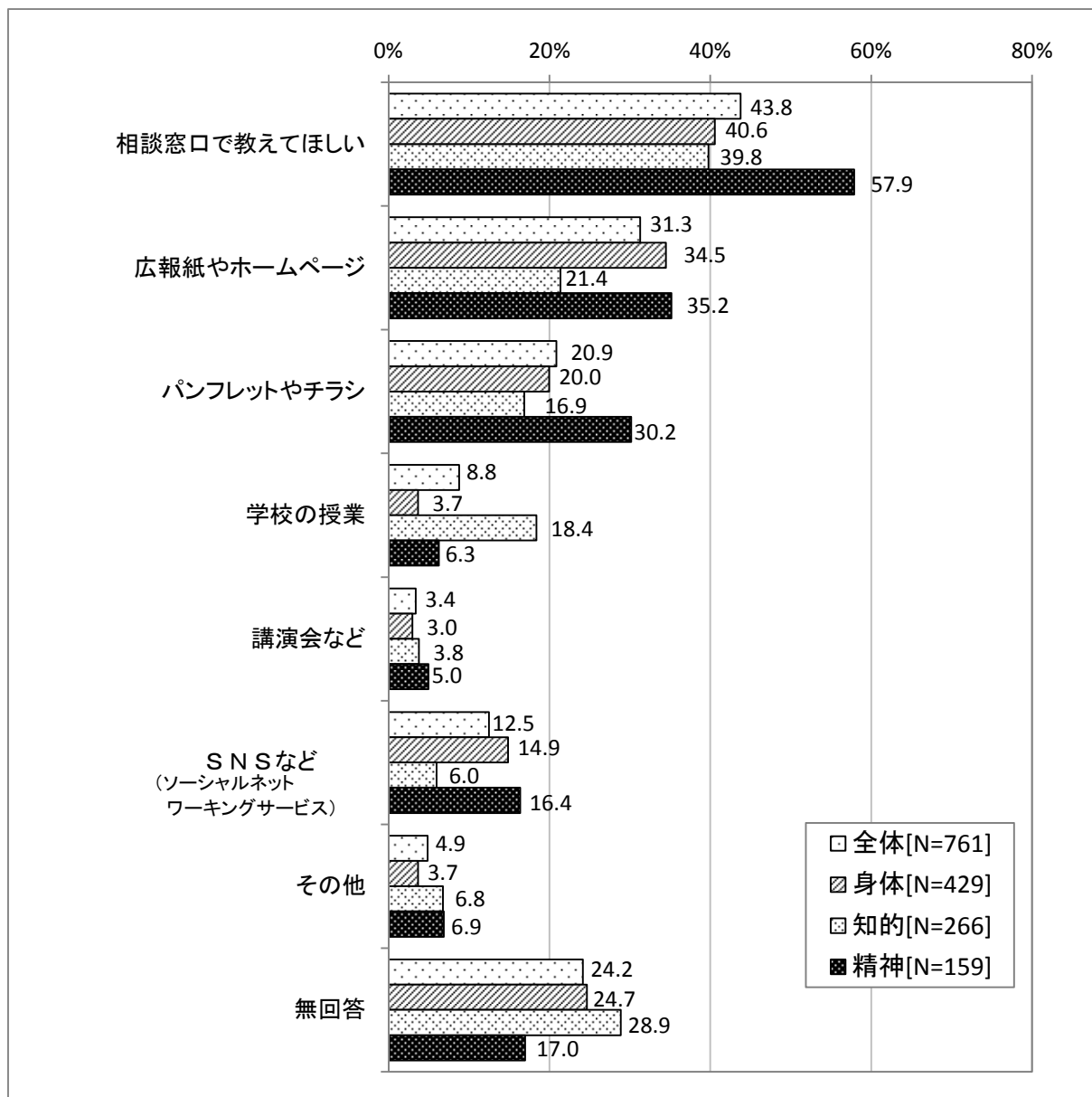
図表 80 相談しなかった理由[N=17] (複数回答)



⑤ トラブル時の解決方法の入手手段

トラブル時の解決方法の入手手段について、「相談窓口で教えてほしい」が43.8%、「広報紙やホームページ」が31.3%、「パンフレットやチラシ」が20.9%となっています。精神障がいのある人では「相談窓口で教えてほしい」という回答割合が57.9%と他の障がいに比べて割合が高くなっています。

図表 81 トラブル時の解決方法の入手手段[N=761]（複数回答）

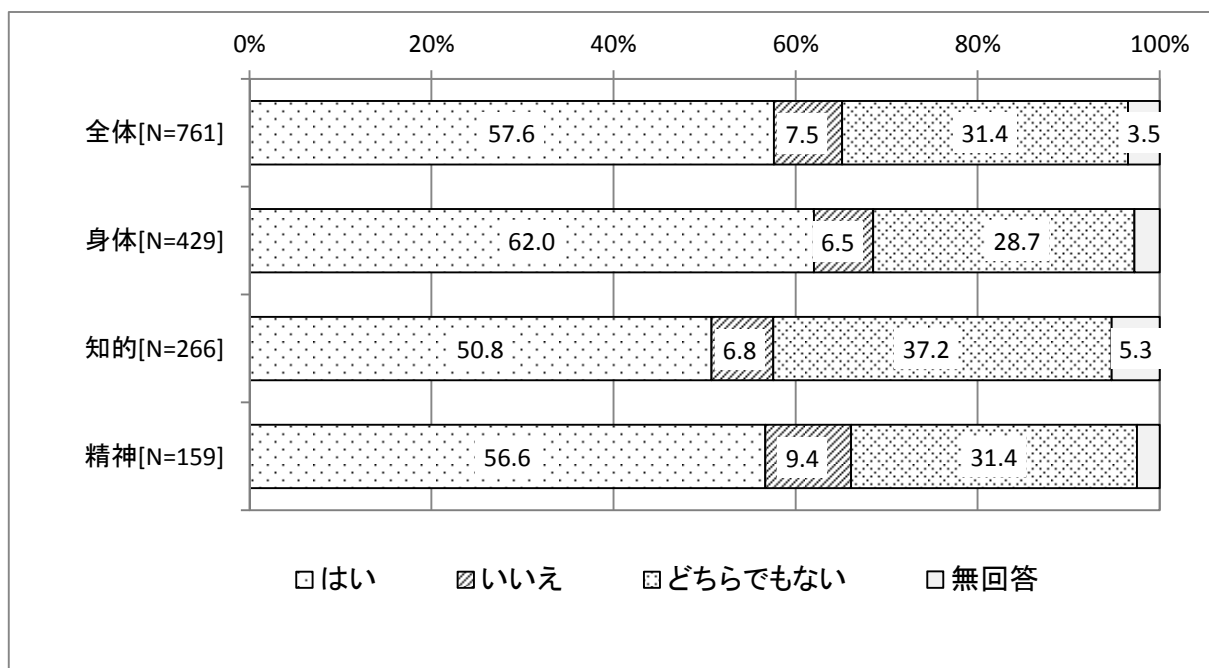


(11) 芦屋市の取り組みについて

① 暮らしやすさ

暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと思う人（「はい」）」が57.6%、「どちらでもない」が31.4%、「暮らしにくいと思う人（「いいえ」）」が7.5%となっています。

図表 82 暮らしやすさ[N=761]



前回調査との比較では、すべての障がい種別において、「暮らしやすいと思う人（「はい」）」の割合が下がり、「どちらでもない」の回答割合が増えています。

図表 83 暮らしやすさ（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
はい	63.2	62.0	53.4	50.8	66.4	56.6
いいえ	6.3	6.5	6.3	6.8	8.2	9.4
どちらでもない	23.2	28.7	35.4	37.2	19.4	31.4
無回答	7.3	2.8	4.8	5.3	6.0	2.5

② 障がい施策で期待・重要視するもの

障がい者施策で期待・重要視するものについては、「サービス利用の手続きを簡単にする」が38.5%、「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」が31.5%、「市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする」が28.9%、「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」が28.1%となっています。この他、知的障がいのある人で「グループホームなどの住む場所を増やす」などの割合が高くなっています。

図表 84 障がい施策で期待・重要視するもの[N=761] (複数回答)

	全体	身体	知的	精神
N=	761	429	266	159
障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実する	17.2	15.2	17.3	21.4
何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする	31.5	32.9	22.9	39.0
サービス利用の手続きを簡単にする	38.5	38.7	35.0	39.6
市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする	28.9	29.1	27.4	26.4
保健や福祉の専門的な人を増やす	18.0	14.9	18.0	25.2
参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動を増やす	16.6	14.2	21.1	13.8
いろいろなボランティア活動を増やす	5.3	5.6	6.0	6.3
在宅での生活や介助がしやすいサービスを増やす	13.4	15.2	10.5	15.1
障がいのある人が身近な地域で医療・リハビリが受けられる医療を充実する	22.6	25.9	24.4	13.8
障がいを早期に発見し次につなげる健診・相談・指導体制を充実する	11.0	9.1	12.8	13.2
障がいのある人の地域生活を支えるため、財産管理などを支援する権利擁護を推進する	9.5	7.5	12.0	13.2
障がいがあってもなくても、ともに学べるような保育・教育内容をさらに推進する	15.9	13.1	21.4	10.1
保育所・幼稚園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制をつくる	19.2	11.7	33.8	10.7
子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みをつくる	21.2	15.4	35.7	13.8
障がいのある人の地域生活を住民同士が助け合い支援していく活動を増やす	12.6	10.0	15.4	11.9
生活訓練のできる、通える施設を増やす	15.2	9.8	25.2	14.5
仕事に就くための訓練や働く場を増やす	28.1	19.3	36.8	34.6
障がいがあってもなくても、住民同士がふれあえる機会や場を増やす	10.8	9.3	12.0	12.6
利用しやすいよう道路・建物などをバリアフリー化する	17.9	26.8	7.1	9.4
グループホームなどの住む場所を増やす	20.0	12.4	38.3	15.1
災害時の避難体制を整える	18.7	21.9	14.3	14.5
防犯対策を充実する	10.5	11.4	9.0	10.7
差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす	19.6	15.2	20.7	25.2
その他	3.9	4.2	5.3	5.0
無回答	10.2	9.6	11.7	11.9

年齢別でみると、17歳以下では、「保育所・幼稚園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制をつくる」「子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みをつくる」など、教育に関することをあげる人が多くなっています。また、18～39歳で「グループホームなどの住む場所を増やす」、40～59歳、60～64歳で「利用しやすいよう道路・建物などをバリアフリー化する」などの割合が高くなっています。

図表 85 障がい施策で期待・重要視するもの[N=761]（複数回答）

	全体	17歳以下	18～39歳	40～59歳	60～64歳
N=	761	107	173	322	141
障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実する	17.2	15.0	21.4	16.8	16.3
何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすいとする	31.5	15.9	32.4	36.6	31.2
サービス利用の手続きを簡単にする	38.5	39.3	35.3	41.6	34.8
市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする	28.9	30.8	25.4	29.2	31.9
保健や福祉の専門的な人を増やす	18.0	27.1	19.1	16.8	11.3
参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動を増やす	16.6	23.4	23.1	14.0	10.6
いろいろなボランティア活動を増やす	5.3	5.6	7.5	5.0	2.8
在宅での生活や介助がしやすいサービスを増やす	13.4	5.6	12.7	15.2	15.6
障がいのある人が身近な地域で医療・リハビリが受けられる医療を充実する	22.6	34.6	17.9	21.7	21.3
障がいを早期に発見し次につなげる健診・相談・指導体制を充実する	11.0	15.9	13.9	9.6	7.1
障がいのある人の地域生活を支えるため、財産管理などを支援する権利擁護を推進する	9.5	11.2	13.9	7.5	7.1
障がいがあってもなくても、ともに学べるような保育・教育内容をさらに推進する	15.9	39.3	16.2	10.9	10.6
保育所・幼稚園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制をつくる	19.2	64.5	17.9	11.5	6.4
子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みをつくる	21.2	59.8	24.3	12.4	9.9
障がいのある人の地域生活を住民同士が助け合い支援していく活動を増やす	12.6	15.0	12.7	13.7	8.5
生活訓練のできる、通える施設を増やす	15.2	30.8	20.8	10.6	7.8
仕事に就くための訓練や働く場を増やす	28.1	53.3	32.4	25.2	12.1
障がいがあってもなくても、住民同士がふれあえる機会や場を増やす	10.8	11.2	10.4	11.8	9.2
利用しやすいよう道路・建物などをバリアフリー化する	17.9	12.1	7.5	21.1	27.7
グループホームなどの住む場所を増やす	20.0	25.2	38.7	13.7	8.5
災害時の避難体制を整える	18.7	18.7	11.0	21.4	22.7
防犯対策を充実する	10.5	9.3	6.9	13.0	9.9
差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす	19.6	28.0	22.0	18.6	13.5
その他	3.9	5.6	2.3	3.7	3.5
無回答	10.2	3.7	8.1	10.9	14.9

前回調査との比較で差が大きく出ている項目を見ると、「差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす」が3障がい種別とも高くなっています。その他では「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」「生活訓練のできる、通える施設を増やす」などが高くなっています。

図表 86 障がい施策で期待・重要視するもの（複数回答）（前回調査との比較）

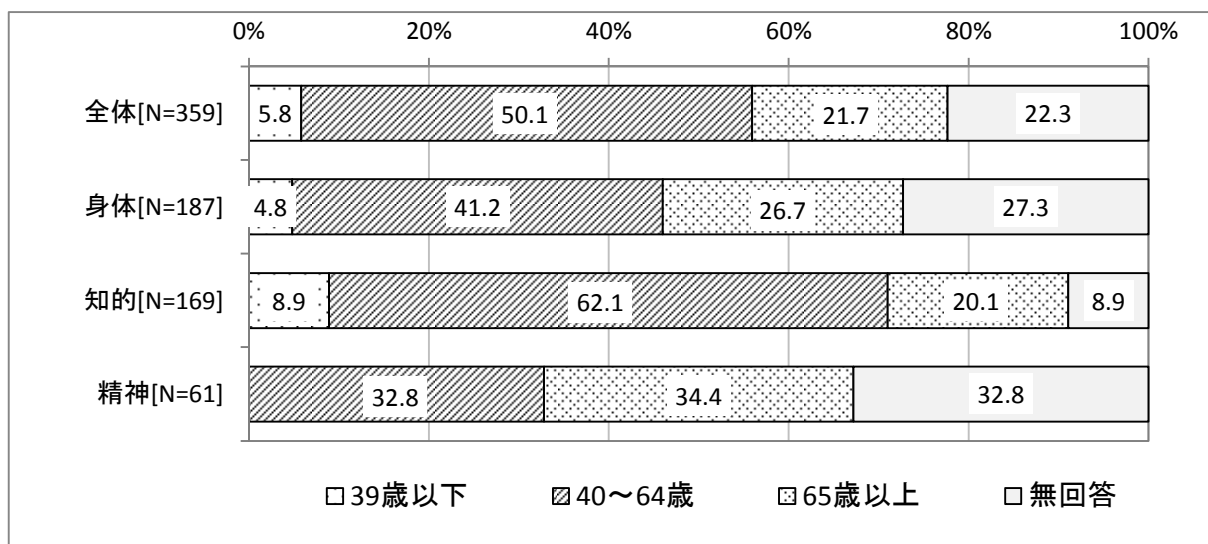
	身体		知的		精神	
	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度	平成 25年度	平成 28年度
N=	397	429	189	266	134	159
障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実する	14.9	15.2	17.5	17.3	15.7	21.4
何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする	32.7	32.9	36.5	22.9	38.1	39.0
サービス利用の手続きを簡単にする	39.8	38.7	36.0	35.0	37.3	39.6
市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする	33.5	29.1	27.5	27.4	29.9	26.4
保健や福祉の専門的な人を増やす	12.3	14.9	22.8	18.0	17.9	25.2
参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動を増やす	13.6	14.2	16.4	21.1	8.2	13.8
いろいろなボランティア活動を増やす	4.8	5.6	3.7	6.0	3.7	6.3
在宅での生活や介助がしやすいサービスを増やす	14.6	15.2	10.1	10.5	12.7	15.1
障がいのある人が身近な地域で医療・リハビリが受けられる医療を充実する	24.2	25.9	27.0	24.4	17.2	13.8
障がいを早期に発見し次につなげる健診・相談・指導体制を充実する	7.3	9.1	11.6	12.8	9.7	13.2
障がいのある人の地域生活を支えるため、財産管理などを支援する権利擁護を推進する	4.3	7.5	10.1	12.0	9.0	13.2
障がいがあってもなくても、ともに学べるような保育・教育内容をさらに推進する	14.6	13.1	21.7	21.4	8.2	10.1
保育所・幼稚園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制をつくる	13.4	11.7	24.9	33.8	8.2	10.7
子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みをつくる	11.3	15.4	25.9	35.7	4.5	13.8
障がいのある人の地域生活を住民同士が助け合い支援していく活動を増やす	7.1	10.0	7.4	15.4	13.4	11.9
生活訓練のできる、通える施設を増やす	7.1	9.8	14.3	25.2	6.0	14.5
仕事に就くための訓練や働く場を増やす	16.9	19.3	23.8	36.8	23.1	34.6
障がいがあってもなくても、住民同士がふれあえる機会や場を増やす	7.8	9.3	4.8	12.0	9.7	12.6
利用しやすいよう道路・建物などをバリアフリー化する	25.4	26.8	4.8	7.1	5.2	9.4
グループホームなどの住む場所を増やす	8.1	12.4	28.0	38.3	11.9	15.1
災害時の避難体制を整える	15.4	21.9	10.1	14.3	12.7	14.5
防犯対策を充実する	9.8	11.4	1.6	9.0	6.0	10.7
差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす	8.3	15.2	10.1	20.7	16.4	25.2
その他	3.8	4.2	1.6	5.3	4.5	5.0
無回答	9.3	9.6	6.9	11.7	13.4	11.9

(12) 介護者の状況について

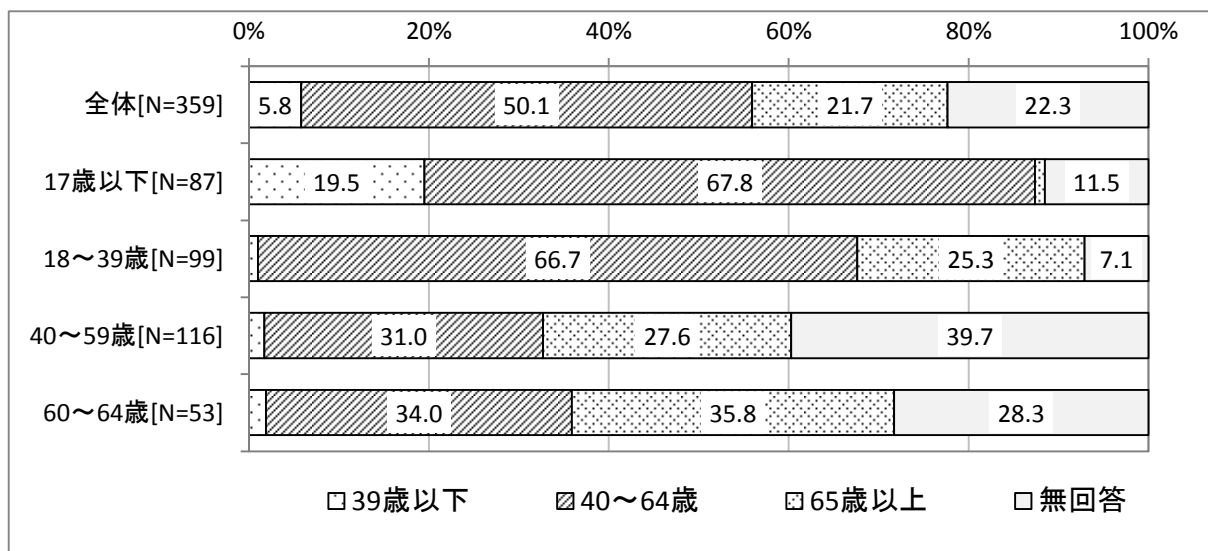
① 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「40～64歳」が50.1%、「65歳以上」が21.7%、「39歳以下」が5.8%となっています。対象者（障がいのある人）の年齢別では、対象者（障がいのある人）が60～64歳で、介護者が65歳以上という割合が35.8%となっています。

図表 87 主な介護者の年齢[N=359]



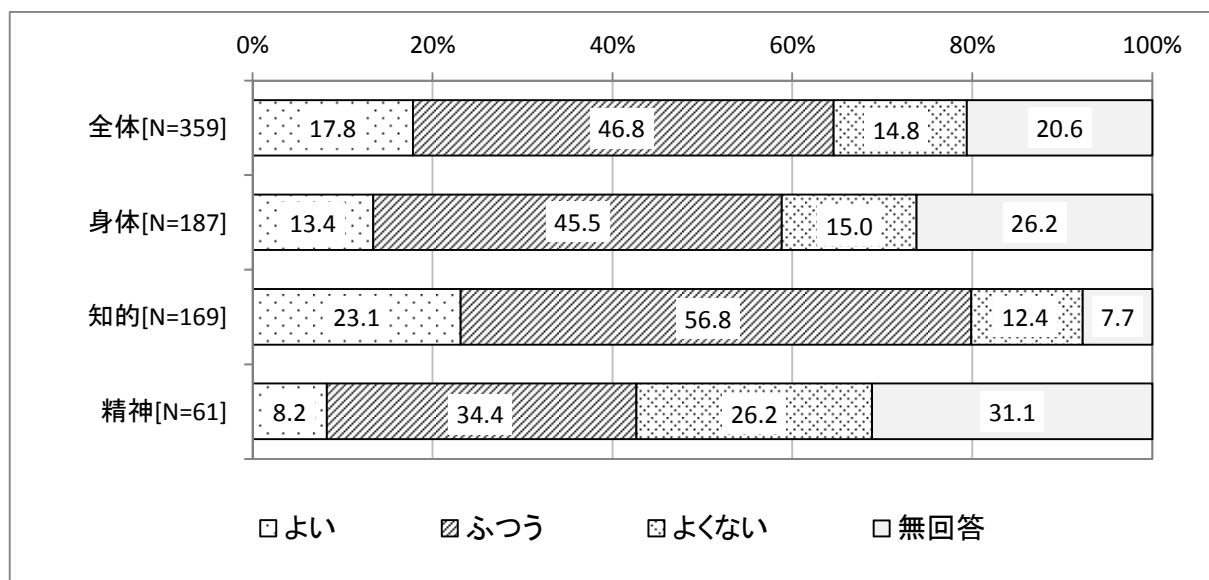
図表 88 主な介護者の年齢[N=359]



② 主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態は、「ふつう」が46.8%、「よい」が17.8%、「よくない」が14.8%となっています。精神障がいのある人の介護者で「よくない」が26.2%と他の障がいに比べて割合が高くなっています

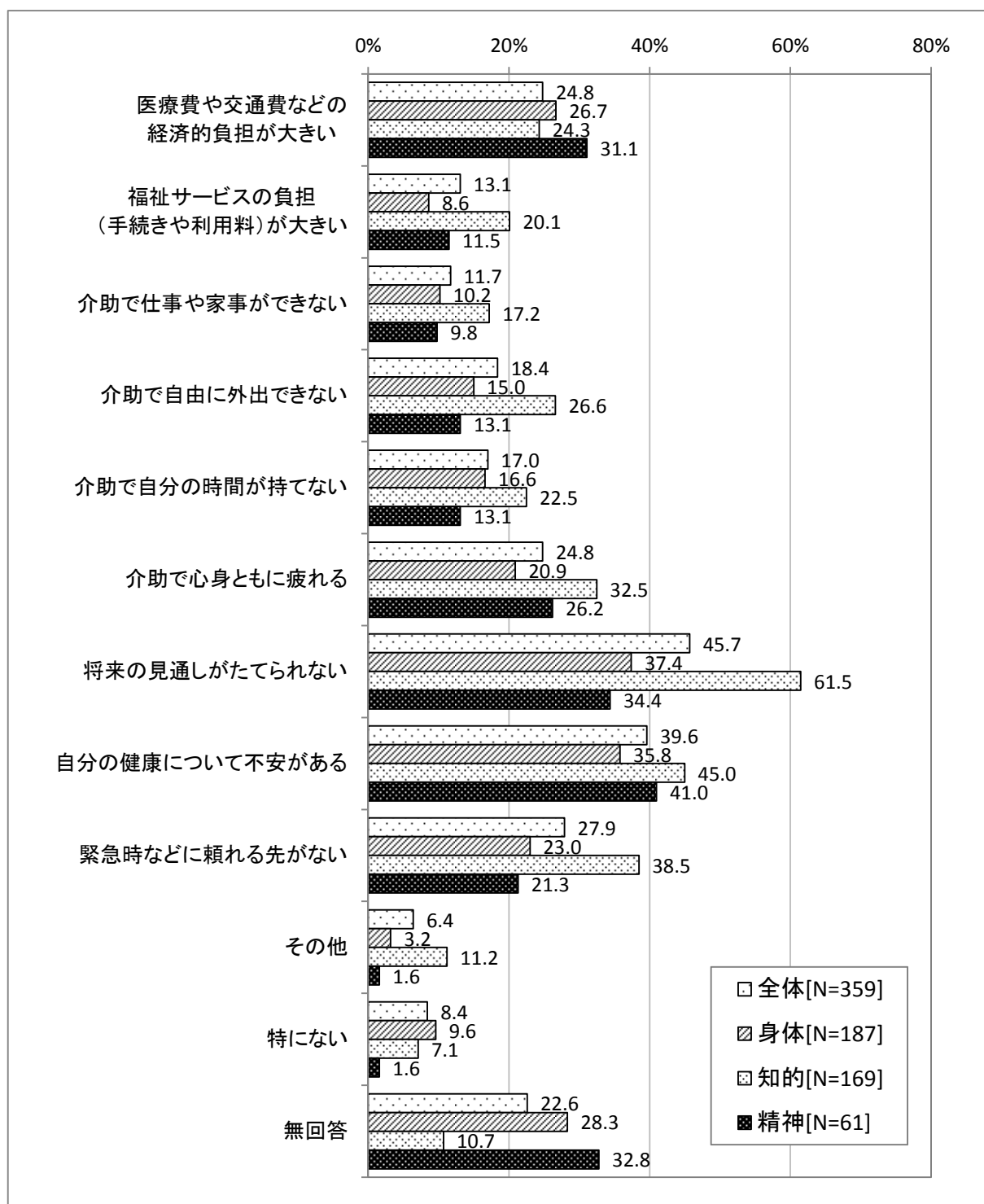
図表 89 主な介護者の健康状態[N=359]



③ 介護者が介護で困っていること・不安なこと

介護者が介護で困っていること・不安なことは、「将来の見通しがたてられない」が45.7%、「自分の健康について不安がある」が39.6%と高い割合になっています。知的障がいのある人の介護者では、「将来の見通しがたてられない」が61.5%と他の障がいに比べて割合が高くなっています。

図表 90 介護者が介護で困っていること・不安なこと[N=359]（複数回答）



(13) 自由意見

自由意見は231件の記入がありました。意見の種類としては、サービスに関すること、歩道を走る自転車に関すること、職場開拓や紹介などの就業に関すること、子どもの特性に応じた指導などの教育に関することなどが多くなっています。

特に、グループホームを作してほしい、障がいのある児童の特性や個性が活かされる教育が最も多くなり、そのほか就業先の紹介の充実、経済的支援、障がいのある人への理解（偏見のない社会）などに意見が集まっています。教育において、「芦屋市における統合教育により、生活の中で自然に助け合いと愛情が芽生えている」という評価する意見もありました。

（下線の箇所は意見が3名以上からあがったもの）

意見内容		件数
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>グループホームを作してほしい</u> ・親も高齢の為、入所している子どもが自宅へ帰ってきた時に、何か助けてくれるサポート体制がほしい ・短期入所が少なすぎる為、利用したいが利用できていない ・日中の一時預かりをしてくれる所をもっと増やしてほしい ・年齢が上がっても訓練を受けられる所を増やしてほしい ・年々療育機関など増えてきているが、利用者（保護者）の負担額がどこも高額なので低額で利用できるところを増やしてほしい ・生活訓練や仕事に就くための訓練が出来る施設を、幼いうちから意識し通えるような施設を作してほしい など 	34
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>歩道を走る自転車が危険</u> ・歩道の整備（傾斜がきつい、溝に蓋をする） ・障がい者用の駐車場が使えない ・芦屋市内の路線バスが利用できる福祉乗車制度を作してほしい など 	12
就業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>市内にもっと就労の場がほしい</u> ・精神障がいのある人の就労先を増やしてほしい ・B型就労支援からA型就労支援に行くためのひな形をしっかり作って欲しい など 	17
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>障がいのある児童の特性や個性が活かされる教育</u> ・公立の小中学校の特別支援の教員の人数をもっと増やす ・先生方には障がい者体験や講習会などで再発見・再確認をしてもらいたい ・幼児の時期から通える発達障がいのある児童の学習の場を増やしてほしい ・幼稚園・公立小学校での看護師等の全面協力 ・高校以降もインクルーシブ教育を強く希望 ・障がいの程度別による指導が出来る高校を作り、就労が出来るようにしてほしい ・芦屋市における統合教育により、生活の中で自然に助け合いと愛情が芽生えている など 	19
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・診断書の費用が高い（医療費負担の軽減） ・リハビリ施設によって診断書の内容が違うため、統一した診断書を作成してもらいたい ・障がい者医療の充実 など 	11

意見内容		件数
窓口対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上から目線で話され相談などにくい ・窓口の連携が悪く、同じことを何度も言わなければならない ・障がいの様々な手続きに関して、色々な課、係にたらいまわしにされ手続きが面倒であり、もっと簡潔にして欲しい など 	9
人権	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する理解よりも、障がいのある人に対する理解が必要 ・障がいのある人が障がいのある人をいじめる事案について研究してほしい ・身内や身近な人に障がいを隠して生活している など 	12
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの積極的な情報発信 ・自らが情報を得て行動しないと適正な福祉サービスが得られない 	2
経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得世帯への配慮、無年金障がい者への対応 ・交通機関の割引 など 	16
災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練年2回実施して頂きたい ・地震などの際、学校以外の場所にいた際の避難が出来るのか不安 ・マイナンバーカードで薬の情報も管理してくれればよい など 	4
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー教室など障がいのある児童の特性を理解したスポーツ指導員が増えてほしい ・本人が成人して職場以外に立ち寄れる所（日中一時など）を増やしてほしい ・スポーツも車椅子ではできない ・高校卒業後など休日にスポーツ、サークルなど参加出来る場所をたくさん作ってほしい 	4
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・公共機関等（保健福祉センター、市役所、市民センター、各幼稚園、学校、図書館、公園、駅など）へ「ユニバーサルシート」の設置 ・2階建ての集会所ではエレベーターもない・駅やバス停などバリアフリー化、エレベーター設置や明るさの確保 など 	3
親亡き後の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・障害年金だけで生活できない ・医療的ケアが（痰の吸引、胃ろう）必要なので、すぐに受け入れてもらえるところがあるか など 	4
家族	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者の高齢化 	1
相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談先がわからない ・相談する窓口が多いと良い面もあるが、あちこち足を運ばなければならないのは逆に不便。情報も共有されていないと困る ・相談支援の担当が代わり、受けたい時に受けられなかった など 	10
駅及び周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・公共機関の駅改札口に雨天用の置き傘があると助かる ・阪神電車の芦屋駅南側にはエレベーターができたが、北側にはないので不便 ・JR芦屋駅のトイレを洋式に替えてほしい ・駅のプラットホーム等にあるエレベーターを利用する際、端の方にあたりして歩く事が若干困難 など 	4
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの申し込みプロセスや内容がややこしい ・サービスの手続きを簡単にしてほしい ・認定への不服 ・障がい者手帳のカード化 など 	69

第二節 調査結果の総括

(1) 回答者の属性

- アンケート調査の回答者は、「本人が1人で回答」は50.7%となっています。知的障がいのある人や17歳以下では「本人が回答できないので家族が代わって回答」という人も多くなっています。
- 回答者のうち、身体障害者手帳所持者は56.4%、療育手帳所持者は35.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者は20.9%となっています。また、回答者のうち、自立支援医療（精神通院）受給者は23.5%で、精神障害者保健福祉手帳所持者に限れば88.7%の人が受給しています。発達障がいについては全体で17.7%、知的障がいのある人に限れば43.6%が診断の回答をしています。前回調査と比較して発達障がいの診断を受けている人が増えている傾向にあります。

(2) 生活について

- 現在生活している場所については、「家族と一緒に生活している」人が78.8%、「一人で生活している」人が12.2%です。精神障がいのある人では、「一人で生活している」人が25.2%となっており、前回調査と比べて一人暮らしの人が増えている傾向にあります。
- 「家族と一緒に生活している」人のうち35.8%が「特に介護・介助の必要はない」としています。介護・介助を受けている人では、主な介護者は母親、父親が多くなっています。前回調査では「配偶者」が「父親」より多かったのですが、今回の調査では「父親」という回答がやや上回る状況になります。また全体に、「ホームヘルパーなど家族以外の人」の割合が下がり、「母親」「父親」「兄弟姉妹」という回答割合が高くなっています。
- 主に介護・介助している人が「母親」「父親」と回答した人に、親亡き後、どのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい」が24.9%、「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活したい」が21.6%となっています。知的障がいのある人は、「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい」を選択する割合が、他の障がいに比べて高くなっています。
- 回答者全員を対象に、どのような場所で生活してみたいか聞いたところ、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」が55.8%、「家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい」が18.3%となっています。精神障がいのある人は、「家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい」を希望する割合が高くなっています。
- 生活の中での介護・介助の状況は、「緊急時に避難・連絡したいとき」「日常の暮らしに必要な事務手続き」「料理・掃除・洗濯をするとき」「外出するとき（通院や買物など）」「生活費などお金の管理」などで、支援を受けている人が比較的多くなっています。支援者としては、いずれも「家族や親戚」の割合が高くなっていますが、「施設の職員」も1割程度みられます。
- 外出状況は、「ほとんど毎日」が38.4%いる一方で、「ほとんど外出しない」が6.2%、「まったく外出しない」が1.6%みられます。外出したいと思うときは、「買い物をするとき」「散

歩するとき」「スポーツや趣味の活動をするとき」などでニーズが高くなっています。

- 外出時に困ることとしては、バスなどの利用しにくさ、困ったときに聞く相手が分からないなどとなっています。前回調査との比較では、設備・基盤に関わる内容は全体に減少している傾向が読みとれ、「特にない」の回答割合も高くなっています。一方、精神障がいのある人では「周りの人の目が気になる」や、知的障がいのある人では「困った時にどうすればいいのか、誰に聞いたらいいのかわからないので心配」といった回答が前回より高くなっています。

(3) 日中の過ごし方、仕事、教育などについて

- 平日、日中の主な過ごし方は、「会社や自宅で仕事をしている」が 30.9%、「家の家事などをしている」が 15.5%、「学校（小中学校、高校、大学、専門学校など）に通っている」が 12.5%となっています。身体障がいのある人では「会社や自宅で仕事をしている」、知的障がいのある人では「学校（小中学校、高校、大学、専門学校など）に通っている」、精神障がいのある人では「特に何もしていない」の割合が他の障がい種別に比べ高くなっています。

- 「会社や自宅で仕事をしている」人が現在の仕事で特に困っていることは、「収入」が 22.6%、「職場の障がいに対する理解・配慮」が 17.0%で、「特に困っていることはない」が 43.8%となっています。

身体障がいのある人では、「通勤や仕事場の移動」「職場の障がいに対する理解・配慮」を、精神障がいのある人では、「収入」や「職場の障がいに対する理解・配慮」「職場での意志疎通などのコミュニケーション」を、知的障がいのある人では、「職場での意志疎通などのコミュニケーション」「職場の人間関係」をあげる人が多くなっています。

- 「仲間と一緒に施設などで仕事をしている」人のうち、45.2%が一般就労の希望をあげています。精神障がいのある人では 65.5%ですが、知的障がいのある人で 32.2%となっています。就労希望がありながら一般就労をしていない理由としては、「就労したいが障がいの状況にあった仕事がない」「一般就労に不安がある（技能、職場の人間関係、コミュニケーションなど）」などがあげられています。

- 障がいのある人の就労を進めるために必要なこととしては、「職場に障がいのある人への理解があること」を 60.3%の人があげており、就労支援にあたって重要な観点と考えられます。また、「障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと」「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」なども求められています。

- 保育・教育について今後特に必要と思うものとしては、「周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解」「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」「障がいのある児童の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」などが高い割合であげられています。

(4) 通院の状況について

■通院頻度は、「通院していない」人が16.6%、「年数回程度」の人が24.4%である一方、「月4回以上」通院している人も11.3%みられ、精神障がいのある人と60歳～64歳で通院の頻度が高くなっています。医療について困っていることでは、「医療費の負担が大きい」「通院の負担が大きい（交通費など）」などの割合が高く、知的障がいのある人では、「障がい理由で治療を受けにくい診療科がある（例：歯科・整形外科など）」の割合が高くなっています。

(5) 生活の不安，相談などについて

■生活で困っていること・不安なことについては、「将来的に生活する住まい，または施設があるかどうか不安」が最も多くなっており，次いで、「自分の健康や体力に自信がない」「家族など介助者の健康状態が心配」となっています。

■相談相手については、「家族・親戚」が最も多く，その他では身体障がいのある人では「友だち・知り合い・近所の人」，知的障がいのある人では「サービスを利用しているところ」，精神障がいのある人では「病院・診療所（医療相談）」が高くなっています。前回調査と比較すると，身体障がいのある人では「職場」，知的障がいのある人では「サービスを利用しているところ（施設，作業所，事業所）」，精神障がいのある人では「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」を相談先としている人の割合が増加しています。

(6) 障がい福祉サービスについて

■現在利用している障がい福祉サービスは，障がい支援区分認定を受けている人で，「計画相談支援」「移動支援事業」「短期入所（ショートステイ）」「生活介護」などの割合が高くなっています。17歳以下では，「放課後等デイサービス」の割合が最も高くなっています。

■サービスを利用していない人の理由としては，「サービスを受けるほど障がいの状態が重くないから」「家族などの介助や支援で生活できるから」の割合が高くなっています。17歳以下では「そのようなサービスがあることを知らなかったから」，18～39歳の人では「サービスの利用の仕方がわからないから」という人の割合が比較的高くなっています。

■今後3年以内に利用したいサービスとしては，全体の回答数は少ないものの，「共同生活援助（グループホーム）」「就労継続支援 [A型：雇用型]」「自立生活援助」などが挙がっています。将来の住まいの不安を感じている人が多いことを背景に，グループホームのニーズが高いと考えられます。

■サービス等利用計画などの作成については，「サービスを利用していないので作成していない」が35.2%，「サービス等利用計画などを作成する相談支援専門員に作成してもらった」が32.2%，「作成していない」が18.4%となっています。

■市の窓口・機関・事業等の認知は，「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」が44.8%，「障がい者相談員の相談」が22.6%などで，「どれも知らない」が36.1%となっています。前回調査と比較すると，知的障がいのある人及び精神障がいのある人で「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」の認知割合が増えています。

(7) 災害への備えについて

- 災害発生時の避難場所を知っている人は 61.8%となっており、前回調査と比べると知っている人がやや増えています。災害時に不安なこととしては、「家族と離れた場所で災害にあったときの対応が不安」「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」などが多くなっています。
- 身体障がいのある人では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」など、知的障がいのある人では「家族と離れた場所で災害にあった時の対応が不安」「避難場所で一緒に過ごす人に障がいへの理解があるか」「災害の状況に応じた判断ができない」「周囲とのコミュニケーションがとれない」など、精神障がいのある人では「避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか」などが高くなっています。

(8) 障がいのある人に対する差別や虐待などについて

- 「障害者差別解消法」の認知については、「まったく知らない」が 55.5%、「聞いたことがある」が 24.0%、「知っている」が 16.3%となっています。障がい種別では、精神障がいのある人に「まったく知らない」という回答割合が他の障がい種別に比べて高くなっています。
- 差別・偏見の経験は、33.4%の人が「よくある」「ときどきある」と回答しており、特に知的障がいのある人では 45.1%と多くなっています。差別を受けた場所については「外出先」が多いですが、「通園・通学先」や「住んでいる地域」との回答も比較的多くなっています。
- 「障害者虐待防止法」については、「（法律も、相談・通報先）どちらも知らない」という人が 59.0%となっています。
- 「成年後見制度」の認知状況は、「知っている」が 36.7%、「まったく知らない」が 30.9%となっています。

(9) 地域社会とのかかわりについて

- 地域の行事・活動への参加状況は、「参加しない」「どちらかと言えば参加しない」が約 8 割で、精神障がいのある人で「参加しない」割合が高くなっています。
- 障がいのある人に対する地域の理解については、「わからない」「どちらともいえない」「あまり進んでいると思わない」「まあまあ進んできた」など、比較的認識が分散しています。
- 地域活動に参加するために必要なことは、「一緒に活動してくれる人がいること」「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」「地域で気軽に利用できる趣味の場（絵・スポーツなど）があること」などが高くなっています。また協力できそうな地域活動は、「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」、「家の前や地域の清掃活動」などとなっています。

(10) 消費生活について

- 買い物やサービス時でのトラブル経験では「ない」の割合が高くなりますが、精神障がいのある人に「ある」の割合が他の障がい種別に比べて高くなっています。
- トラブルの内容では、「歩いていたら声をかけられて、無理に物を買わされそうになった（買わされた）」「家に業者が来て、無理に物を買わされそうになった（買わされた）」などとなっています。
- トラブルにあったときの相談先は、「家族・親戚」「芦屋市消費生活センター」「友だち・知り合い・近所の人」などが高くなっていますが、一方、「どこにも相談しなかった」が2割強となっています。
- トラブル時の解決方法の入手手段としては「相談窓口で教えてほしい」「広報紙やホームページ」「パンフレットやチラシ」などが高くなっています。

(11) 芦屋市の取り組みについて

- 芦屋市の暮らしやすさについては、暮らしやすいと思う人が57.6%、どちらでもないという人が31.4%となっています。前回調査との比較では、すべての障がい種別において、暮らしやすいと思う人の割合が下がり、「どちらでもない」の回答割合が増えています。
- 障がい施策で期待・重要視するものとしては、「サービス利用の手続きを簡単にする」「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」「市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする」「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」などの割合が高くなっています。前回調査と比べると、「差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす」「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」「生活訓練のできる、通える施設を増やす」などが高くなっています。

(12) 介護者の状況について

- 介護者の年齢層は40～64歳の人半数を占めています。
- 介護者の健康状態は、「ふつう」が46.8%、「よい」が17.8%となっていますが、「よくない」という人も14.8%みられます。精神障がいのある人の介護者で「よくない」割合が他の障がいに比べて高くなっています。
- 介護者が介護で困っていること・不安なこととしては、「将来の見通しがたてられない」及び「自分の健康について不安がある」が多く挙げられます。知的障がいのある人の介護者では、「将来の見通しがたてられない」割合が他の障がいに比べて高くなっています。

(13) 自由意見について

- サービス内容に関する意見が多く見られ、グループホームのニーズが多くなっています。施設から自宅への移行を円滑に出来る支援や、自立に向けた訓練が受けやすくなる環境づくりなどが出ています。そのほか、障がいを持った児童の特性や個性が活かされる教育の充実、市内に就労の場の確保、低所得世帯への配慮や無年金障がい者への対応など経済的支援など、幅広く意見が出されています。

アンケート調査票

アンケートの回答者についておたずねします。

問1 アンケートに回答するのはどなたですか（1つに○印）。

1. 本人が1人で回答
2. 本人が他の人の協力を得て回答
3. 本人が回答できないので家族が代わって回答
4. 本人が回答できないので家族以外の方が代わって回答
5. その他（ ）

あなた（アンケートの宛名の方）のことについておたずねします。

問2 あなたの性別を教えてください（自身が思われる性別をお答えください、1つに○印）。

1. 男性
2. 女性

問3 現在のあなたの年齢は何歳ですか。

満（ ）歳（平成29年1月1日現在）

問4 あなたがお持ちの障がい者手帳についてお答えください。

①あなたは身体障害者手帳をお持ちですか（1つに○印）。

1. 1級
2. 2級
3. 3級
4. 4級
5. 5級
6. 6級
7. 持っていない

②身体障害者手帳をお持ちの場合、障がいの内容をお答えください（あてはまるものすべてに○印）。

1. 視覚障がい
2. 聴覚障がい、平衡機能障がい
3. 音声・言語機能障がい、そしゃく機能障がい
4. 肢体不自由
5. 内部障がい（1～4以外の障がい）

③あなたは療育手帳をお持ちですか（1つに○印）。

1. A（重度）
2. B1（中度）
3. B2（軽度）
4. 持っていない

④あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか（1つに○印）。

1. 1級
2. 2級
3. 3級
4. 持っていない

問5 あなたは、次のような障がいの診断などを受けていますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 自立支援医療（精神通院医療）を受給している
2. 発達障がい（自閉症スペクトラム、広汎性発達障がい、学習障がいなど）と診断されている
3. 高次脳機能障がいと診断されている
4. 特定疾患医療を受給している
5. 公費負担対象外の特定疾患（難病）と診断されている
6. 認知症と診断されている
7. いずれにもあてはまらない

あなたの現在の生活のことについておたずねします。

問6 あなたが現在生活している場所などはどこですか（1つに○印）。

1. 家族と一緒に生活している
2. 一人で生活している
3. 専門職員がいて共同生活できる施設（グループホームなど）
4. 入所施設
5. 病院に入院中（⇒問9へ）
6. その他（ ）

問7 問6で「1. 家族と一緒に生活している」に○をつけられた方におたずねします。あなたを現在、主に介護・介助している人はどなたですか（あてはまるものすべてに○印）。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 特に介護・介助の必要はない | 6. 祖父母 |
| 2. ホームヘルパーなど家族以外の人 | 7. 配偶者（夫または妻） |
| 3. 母親 | 8. 子ども |
| 4. 父親 | 9. 子どもの配偶者 |
| 5. 兄弟姉妹 | 10. その他（ ） |

問8 問7で「3. 母親」「4. 父親」に○をつけられた方におたずねします。あなたは親亡き後、どのような場所で生活してみたいですか。（1つに○印）。

1. 家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活したい
2. 家族（兄弟姉妹など）から離れて独立した生活がしたい
3. 専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい
4. 入所施設で生活したい
5. その他（ ）
6. わからない

-----> 問9 問6で「5. 病院に入院中」に○をつけられた方だけにおたずねします。入院期間はどのくらいですか（1つに○印）。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 3か月未満 | 3. 6か月以上1年未満 |
| 2. 3か月以上6か月未満 | 4. 1年以上 |

問10 全員にお聞きします。自分の希望がかなうとするなら、どのような場所で生活してみたいですか（1つに○印）。

- | |
|--|
| 1. 家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい |
| 2. 家族（親・兄弟姉妹）から離れて独立した生活がしたい |
| 3. 専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい |
| 4. 入所施設で生活したい |
| 5. その他（ ） |

問11 あなたが以下のことをするとき、どなたの支援を受けていますか（あてはまるものすべてに○印）。

	施設の職員	ホームヘルパー	ボランティア	・近所の人 友だち・知り合い	家族や親戚	自分でできる
(例) 食事をするとき	①	2	③	4	⑤	6
① 食事をするとき（料理、配膳、片づけなどは含みません）	1	2	3	4	5	6
② 薬を飲んだり保管するとき	1	2	3	4	5	6
③ 入浴する・トイレを利用するとき	1	2	3	4	5	6
④ 着替えをするとき	1	2	3	4	5	6
⑤ 料理・掃除・洗濯をするとき	1	2	3	4	5	6
⑥ 外出するとき（通院や買い物など）	1	2	3	4	5	6
⑦ 自分の考えを伝えたいとき	1	2	3	4	5	6
⑧ 生活費などお金の管理	1	2	3	4	5	6
⑨ 日常の暮らしに必要な事務手続き	1	2	3	4	5	6
⑩ 緊急時に避難・連絡したいとき	1	2	3	4	5	6

問12 あなたは通学, 通勤, 通所や通院以外でどのくらいの頻度で外出していますか (1つに○印)。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. ほとんど毎日 | 4. 月に1・2回くらい |
| 2. 週に3・4回くらい | 5. ほとんど外出しない |
| 3. 週に1回くらい | 6. まったく外出しない |

問13 あなたが通学, 通勤, 通所や通院以外で外出したいと思うのはどのようなときですか (あてはまるものすべてに○印)。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 散歩するとき | 5. 地域の行事に参加するとき |
| 2. 友だちの家を訪れるとき | 6. 障がい者団体の活動に参加するとき |
| 3. 買い物をするとき | 7. その他 () |
| 4. スポーツや趣味の活動をするとき | 8. 特になし |

問14 あなたが外出するときに、困ったり、心配になったりすることはありますか (あてはまるものすべてに○印)。

- | |
|---|
| 1. バスや鉄道などが利用しにくい (路線がない, バスの便が少ない, 乗降が難しいなど) |
| 2. バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい |
| 3. 障がい者用の駐車場がない, または少ない |
| 4. 歩道に問題が多い (せまい, 障がい物が多い, 誘導ブロックがないなど) |
| 5. 建物の設備が利用しにくい (階段, トイレなど) |
| 6. 休憩できる場所が少ない (身近な公園や歩道のベンチなど) |
| 7. 介助者がいないと外出できない (介助者を頼むと利用料を負担しなければならない) |
| 8. 周りの人の目が気になる |
| 9. 発作など突然の身体の変化が心配 |
| 10. 困った時にどうすればいいのか, 誰に聞いたらいいのかわからないので心配 |
| 11. その他 () |
| 12. 特になし |
| 13. 外出したいと思わない |

問15 あなた自身の収入の中で最も多いものは何ですか (1つに○印)。

家族の方の収入は含みません

- | |
|-------------------|
| 1. 給料など働いて得たお金 |
| 2. 障害年金や特別障害者手当など |
| 3. 家族などからの援助 |
| 4. 生活保護 |
| 5. その他 () |
| 6. 収入なし |

にっちゅう す かた しごと きょういく
日中の過ごし方，仕事，教育などについておたずねします。

とひ へいじつ にっちゅう おも す じるし
問16 あなたは，平日の日中を主にどのように過ごしていますか（1つに○印）。

- 1. 会社や自宅で仕事をしている
- 2. 仲間と一緒に施設などで仕事をしている（就労訓練含む）
- 3. 介護や機能訓練，生活訓練などを受ける施設などで生活している，または通っている
- 4. 学校（小中学校，高校，大学，専門学校など）に通っている
- 5. 保育所，幼稚園，障がい児通園施設などに通っている
- 6. 病院に通っている（リハビリ，デイケアなど）
- 7. 同じ障がいのある人たち同士の活動・集まりに通っている
- 8. 家の家事などをしている
- 9. その他（)
- 10. 特に何もしていない

とひ とひ かいしゃ じたく しごと かた き
 → **問17 問16で「1. 会社や自宅で仕事をしている」に○をつけられた方にお聞きします。**
 げんざい しごと とく こま じるし
現在の仕事で特に困っていることはありますか（あてはまるものすべてに○印）。

- 1. 通勤や仕事場の移動
- 2. 職場の施設・設備
- 3. 職場の障がいに対する理解・配慮
- 4. 仕事内容
- 5. 職場の人間関係
- 6. 職場での意思疎通などのコミュニケーション
- 7. 収入
- 8. その他（)
- 9. 特に困っていることはない



問18 問16で「2. 仲間と一緒に施設などで仕事をしている」に○をつけられた方にお聞きします。

①あなたは、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか（1つに○印）。

1. 思う 2. 思わない

②問18①で「1. 思う」に○をつけられた方にお聞きします。現在、一般就労をしていない理由について教えてください（1つに○印）。

1. 現在、就職先を探している
2. 就労したいが障がいの特性に合った仕事がない
3. 就労したいが健康状態が悪い
4. 一般就労に不安がある（技能、職場の人間関係、コミュニケーションなど）
5. 以前働いたがうまくいかなかった
6. 年齢が高く、雇ってもらえない
7. 就労するための手助けをしてくれる人がいない
8. 就労したいが事業所（企業）がない
9. その他（ ）

問19 あなたは、障がいのある人の就労を進めるために、どんなことが必要だと思いますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 通勤や移動手段の支援があること
2. 障がいのある人に配慮した設備などが整っていること
3. 勤務日数や時間に配慮があること
4. 在宅で働くことができること
5. 障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと
6. 一般企業などの雇用枠をもっと増やすこと
7. 職場に障がいのある人への理解があること
8. 職場での通院、リハビリなどへの配慮があること
9. 職場でのコミュニケーション支援、相談支援、介助者や援助者の派遣などがあること
10. 仕事で困ったとき、職場以外で相談にのってくれるところがあること
11. 障がいのある人同士が仕事の悩みを語り合ったり、ピアサポートなどによる支援があること
12. 仕事探しの相談、情報提供などが充実していること
13. 職業訓練などの機会が充実していること
14. その他（ ）
15. わからない

問20 あなたは、保育や教育について今後、特にどのようなことが必要だと思えますか。現在通われていない方は、これまでの経験からお答えください（あてはまるものすべてに○印）。

1. 障がいのある児童と障がいのない児童・生徒との交流
2. 周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解
3. 教員などの指導力の向上や障がいへの理解
4. 障がいのある児童の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム
5. 障がいのある児童に配慮した学校設備などの充実
6. 通園、通学への配慮（送迎など）
7. 進路指導や職業教育の充実（自立して働ける力の育成）
8. 休日などに活動できる仲間や施設
9. 放課後や長期休暇中に利用できるサービスの充実
10. その他（
11. わからない

通院の状況などについておたずねします。

問21 あなたは現在、どのくらい通院していますか（1つに○印）。

1. 1か月に（ ）回くらい
2. 1年に（ ）回くらい
3. 通院していない

問22 医療に関係することで、あなたが困っていることはありますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 通院・入退院するときに手助けしてくれる人がいない
2. 専門的な治療を行う病院が身近にない
3. 専門的なリハビリをできる施設が身近にない
4. ちょっとした病気やけがのときに診てくれる病院が身近にない
5. 障がいが理由で治療を受けにくい診療科がある（例：歯科・整形外科など）
6. 往診を頼める医師がいない
7. 通院の負担が大きい（交通費など）
8. 医療費の負担が大きい
9. 医師、看護師とのコミュニケーションがとりにくい
10. 障がいの特性などを医師、看護師に理解してもらうことが難しい
11. その他（
12. 特に困っていない

せいかつ ふあん そうだん
生活の不安、相談などについておたずねします。

と
問23 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 緊急時に相談できる窓口がない
2. 身の回りの支援をしてくれる人がいない
3. 一緒に暮らす人がいない
4. 働くところがない
5. 生活に必要なお金が足りない
6. 趣味や生きがいが見つけれない
7. 生活をするうえで必要な情報が得られない
8. 自分の健康や体力に自信がない
9. 家族など介助者の健康状態が心配
10. 一緒に暮らしている家族との関係
11. 必要な時に診てくれる病院がない
12. 将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安
13. 生活に必要な福祉サービスなどが利用しにくい
14. その他（)
15. 特に困っていることはない



とい 問24 あなたが^{なや}悩みや^{こま}困ったことを^{そうだん}相談するのはどなたですか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 家族・親戚
2. 友だち・知り合い・近所の人
3. 同じ障がいや病気を持つ人
4. 保育所・幼稚園・学校
5. 職場
6. 病院・診療所（医療相談）
7. サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）
8. ホームヘルパー
9. 障がい者相談支援事業（福祉センター1階）
10. サービス等利用計画・障害児支援利用計画を作成する相談支援専門員
11. 市役所
12. 社会福祉協議会
13. 保健所や保健センター
14. 民生児童委員・福祉推進委員
15. 障がい者相談員（※）
16. 障がい者（児）団体
17. その他（)
18. 相談する人はいない

（※）障がい者相談員…障がいのある人やその家庭における問題について、地域での相談・助言・指導などを行っている相談員のこと

とい 問25 あなたは、連絡や相談、情報を得るときなどに、どのような方法をよく使いますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 電話（自宅などの固定電話）
2. 携帯電話・スマートフォン
3. パソコン（メールやインターネット）
4. ファックス
5. 直接人に会って話をする
6. コミュニケーション支援者（代弁者）に頼む
7. その他（)

しょう ふくし どう りよう
障がい福祉サービス等の利用についておたずねします。

と
問26 あなたは、しょう ふくし りよう しょう しえんくぶん にんてい う
障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けていますか
(1つに○印)。

- | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|
| 1. 区分1 | 3. 区分3 | 5. 区分5 | 7. 非該当 |
| 2. 区分2 | 4. 区分4 | 6. 区分6 | 8. 受けていない |

と
問27 次にあげるしょう ふくし どう りよう げんざいりよう こと
障がい福祉サービス等で、あなたが現在利用しているものをお答えください(あて
はまるものすべてに○印)。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 居宅介護(ホームヘルプ)★ | 14. 共同生活援助(グループホーム) |
| 2. 重度訪問介護 | 15. 児童発達支援★ |
| 3. 同行援護★ | 16. 放課後等デイサービス★ |
| 4. 行動援護★ | 17. 保育所等訪問支援★ |
| 5. 重度障害者等包括支援★ | 18. 計画相談支援 |
| 6. 短期入所(ショートステイ)★ | 19. 地域移行・地域定着支援 |
| 7. 療養介護 | 20. 障害児相談支援★ |
| 8. 生活介護 | 21. 意思疎通支援 |
| 9. 施設入所支援 | 22. 移動支援事業★ |
| 10. 自立訓練(機能訓練・生活訓練) | 23. 地域活動支援センター |
| 11. 就労移行支援 | 24. 日中一時支援事業★ |
| 12. 就労継続支援 [A型:雇用型] | |
| 13. 就労継続支援 [B型:非雇用型] | |

※18歳未満の方は、★のついたサービスのみお答えください。

※サービスの内容がよくわからない時は、別紙にサービスの説明を書いていますのでそちらも見てくだ
さい。

と
問28 現在しょう ふくし どう りよう こと しょう ふくし
障がい福祉サービス等を利用されていない方におたずねします。あなたが、障がい福祉サ
ービス等を利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

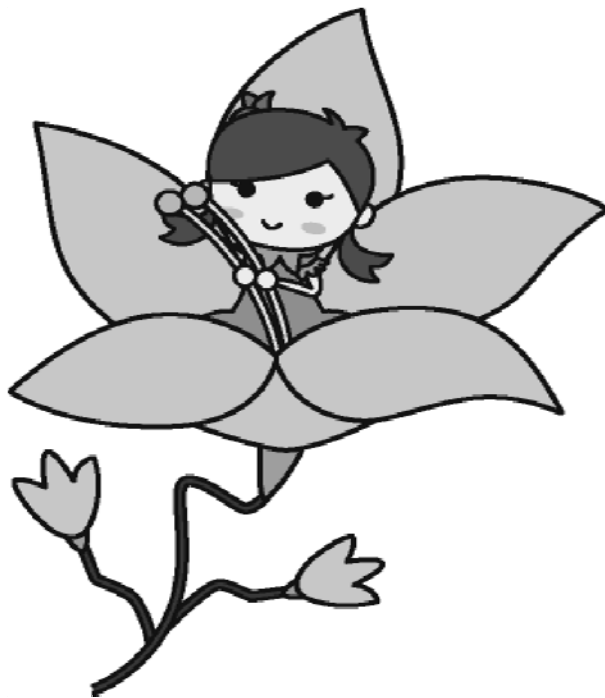
- | |
|---------------------------------|
| 1. サービスを受けるほど障がいの状態が重くないから |
| 2. 家族などの介助や支援で生活できるから |
| 3. サービスを利用したくても利用料が負担になるから |
| 4. サービスを利用したくても世間の自が気になるから |
| 5. サービスを利用したいときに受けてくれるところが身近にない |
| 6. サービスの利用の仕方がわからないから |
| 7. そのようなサービスがあることを知らなかったから |
| 8. 特に理由はない |
| 9. その他() |

問29 障がい福祉サービスの今後の利用の意向についてお聞かせください。次にあげる障がい福祉サービス等で、現在は利用していないが、今後3年以内に利用したいと思うものをお答えください(あてはまるものすべてに○印)。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 居宅介護(ホームヘルプ)★ | 15. 児童発達支援★ |
| 2. 重度訪問介護 | 16. 放課後等デイサービス★ |
| 3. 同行援護★ | 17. 保育所等訪問支援★ |
| 4. 行動援護★ | 18. 計画相談支援 |
| 5. 重度障害者等包括支援★ | 19. 地域移行・地域定着支援 |
| 6. 短期入所(ショートステイ)★ | 20. 障害児相談支援★ |
| 7. 療養介護 | 21. 意思疎通支援 |
| 8. 生活介護 | 22. 移動支援事業★ |
| 9. 施設入所支援 | 23. 地域活動支援センター |
| 10. 自立訓練(機能訓練・生活訓練) | 24. 日中一時支援事業★ |
| 11. 就労移行支援 | 25. 自立生活援助 |
| 12. 就労継続支援 [A型:雇用型] | 26. 就労定着支援 |
| 13. 就労継続支援 [B型:非雇用型] | 27. 居宅訪問型児童発達支援★ |
| 14. 共同生活援助(グループホーム) | |

※3年後も18歳未満の方は、★のついたサービスのみお答えください。

※サービスの内容がよくわからない時は、別紙にサービスの説明を書いていますのでそちらも見てください。



問30 障がい福祉サービス等を利用する際には「サービス等利用計画^(※)」または「障害児支援利用計画^(※)」(以下、「サービス等利用計画など」と表します)が必要ですが、サービス等利用計画などの相談支援についておたずねします。

①あなたは、サービス等利用計画などを作成していますか(あてはまるものひとつに○印)。

1. サービス等利用計画などを作成する相談支援専門員に作成してもらった
2. 自分で作成した(セルフプラン)
3. 作成していない
4. サービスを利用していないので作成していない

(※) サービス等利用計画・障害児支援利用計画…障がいのある人や児童が希望する生活を実現するために、相談支援専門員が障がい福祉サービス等の提案・調整を行い作成する計画のこと。

▶②問30①で「1. サービス等利用計画などを作成する相談支援専門員に作成してもらった」に○をつけられた方にお聞きします。サービス等利用計画などを作成することでサービス利用や生活状況などあなたはどの程度満足していますか(あてはまるものひとつに○印)。

1. 満足している
2. やや満足している
3. どちらともいえない
4. やや不満である
5. たいへん不満である
6. その他()

▶③問30②で「4. やや不満である」「5. たいへん不満である」に○をつけられた方にお聞きします。不満に思われている理由は何ですか(あてはまるものすべてに○印)。

1. 自分では必要と感じているのに支給量を増やしてもらえない
2. 自分の生活や家族関係などを十分に理解していないと感じた
3. 使いたいサービスを相談員が十分に理解していないと感じた
4. 相談員の説明では計画の内容を理解しにくかった
5. 相談時間が短いと感じた
6. 計画相談を始めるまでにかかなり待たなければいけなかった
7. 計画内容が決まるまでにかかなり時間がかかった
8. その他()

問31 あなたは、芦屋市にある以下の窓口や機関、事業などについてご存知ですか（知っているものすべてに○印）。

1. 障がい者相談支援事業（福祉センター1階）
2. 障がい者相談員^(※)の相談
3. 権利擁護支援センター・障害者虐待防止センター（福祉センター1階）
4. 障がい者就業・生活支援センター（福祉センター1階）
5. 障がい児機能訓練事業（福祉センター1階）
6. 障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）
7. 障がい者歯科診療（福祉センター1階 歯科センター）
8. サポートファイル
9. どれも知らない

(※) 障がい者相談員…障がいのある人やその家庭における問題について、地域での相談・助言・指導などを行っている相談員のこと

問32 現在サービスを利用されている方におたずねします。サービスの内容や事業者の対応などに関して、あなたはどの程度満足していますか（それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○印）。

	たいへん 満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	たいへん 不満
サービスの情報は十分に得られたか	1	2	3	4	5
利用したいサービスが利用できるか	1	2	3	4	5
利用サービスの回数や日数は十分か	1	2	3	4	5
質の高いサービスが提供されているか	1	2	3	4	5
要望などに対し事業者の対応は適切か	1	2	3	4	5

さいがい そな
災害への備えについておたずねします。

と
問33 あなたは、さいがいはっせいじ つなみはっせいじ ぶん ひなんじよ ばしよ し
災害発生時（津波発生時含む）の避難所の場所を知っていますか（1つに○印）。

1. はい 2. いいえ

と
問34 あなたは、さいがい そな
災害などへの備えとしてどのようなことをしていますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. きんきゆう さいがい じ ようえんごしゃだいちょう とうろく
緊急・災害時要援護者台帳に登録している。
2. さいがい じ ひなん じよ ばしよ い ち いどうほうほう かいじよ かくほうとう
災害時の避難について備えをしている（避難所の位置、移動方法、介助の確保等）
3. かく こてい ひじょうもちだしぶくろ ようい したく そな
家具の固定、非常持出袋の用意など、自宅ですることができる備えをしている
4. ちいき ぼうさいくねん さんか
地域の防災訓練などに参加している
5. しせつ つうしよさき ぼうさいくねん さんか
施設や通所先などの防災訓練に参加している
6. その他（)

と
問35 あなたは、さいがいはっせいじ ぶん あん かん
災害時にどのようなことを不安に感じますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. ひがいじょうきょう ひなんばしよ じょうほう にゆうしゆ
被害状況、避難場所などの情報が入り手できない
2. さいがい じょうきょう おう はんたん
災害の状況に応じた判断ができない
3. きゅうじよ ちと
救助を求めることができない
4. あんぜん すみ ひなん
安全なところまで、速やかに避難することができない
5. かぞく はな ばしよ さいがい たいおう ぶん
家族と離れた場所で災害にあったときの対応が不安
6. しゅうい
周囲とコミュニケーションがとれない
7. ひなんばしよ いっしよ す ひと しょう りかい
避難場所で一緒に過ごす人に障がいへの理解があるか
8. ひなんばしよ せつび せいかつかんきょう ぶん
避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安
9. ひなんばしよ いりよう とうやく ちりよう う
避難場所で医療ケア（投薬や治療）が受けられるか
10. ひなんばしよ てきせつ かいじよ う
避難場所で適切な介助が受けられるか
11. その他（)
12. とく
特にな

しょう ひと たい さべつ ぎゃくたい
障がいのある人に対する差別や虐待などについておたずねします。

と
 問36 あなたは、「障害者差別解消法」(*)を知っていますか(1つに○印)。

- | | | |
|----------|-------------|-------------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことがある | 3. まったく知らない |
|----------|-------------|-------------|

(*)障害者差別解消法は、役所や事業者が、障がいのある人に対して、正当な理由なく障がいを理由として差別することを禁止し、必要な配慮を求められた場合、できる限り配慮することを定めた法律です。

と
 問37 あなたは、これまで障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがありますか(1つに○印)。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. よくある | 3. ない |
| 2. ときどきある | 4. わからない |

→ 問38 問37で「1. よくある」「2. ときどきある」に○をつけられた方にお聞きします。どのような場所や場面で差別などを受けましたか(あてはまるものすべてに○印)。

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 職場 | 5. 医療機関 |
| 2. 通園・通学先 | 6. 住んでいる地域 |
| 3. 仕事を探しているとき | 7. その他() |
| 4. 外出先 | |

と
 問39 それは、どのような内容でしたか。

と
 問40 障がいのある人に対して、こんな配慮や心遣いがあればいいと思っていますことはありますか。

問41 あなたは「障害者虐待防止法」(※)を知っていますか。また虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先を知っていますか(1つに○印)。

1. 法律も、相談・通報先も知っている
2. 法律は知っているが、相談・通報先は知らない
3. 相談・通報先は知っているが、法律は知らない
4. どちらも知らない

(※)障害者虐待防止法は、障がいのある人に対する虐待の禁止、障害者虐待を受けた障がいのある人に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等々を定めることにより、障がいのある人の権利利益を守ることを目的とした法律です。

問42 あなたは、「成年後見制度」(※)を知っていますか(1つに○印)。

1. 知っている
2. 聞いたことがある
3. まったく知らない

(※)成年後見制度は、病気や障がいによって判断能力が不十分な方が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立ててその方を援助してくれる人を選任してもらう制度です。

地域社会とのかかわりについておたずねします。

問43 あなたは、地域の行事や活動に参加していますか(1つに○印)。

1. よく参加する
2. どちらかと言えば参加する
3. どちらかと言えば参加しない
4. 参加しない

問44 あなたは、障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思いますか(1つに○印)。

1. かなり進んできた
2. まあまあ進んできた
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない
5. どちらともいえない
6. わからない

問45 地域の中では、住民同士の交流を深める活動をはじめ、様々な地域活動が行われています。
地域活動に参加するために何が必要だと思いますか(あてはまるものすべてに○印)。

1. 通所施設で地域活動が行われるなど、普段利用している場所で住民との交流機会があること
2. 施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること
3. 地域で気軽に利用できる趣味の場(絵・スポーツなど)があること
4. 一緒に活動してくれる人がいること
5. 休日にも利用でき、気軽に立ち寄れるオープンスペースがあること
6. 地域の余暇活動の情報を手軽に知ることができること
7. 地域活動に参加するときに、送迎や移動を支援する手段があること
8. 手話通訳やコミュニケーションボードによる意思の伝達など、意思疎通支援が地域活動に参加したときに受けられること
9. その他()
10. 特にない

問46 地域の中では、住民同士の交流を深める活動をはじめ、様々な地域活動が行われています。
次のうちあなたができそうなこと、協力できそうなことはありますか(あてはまるものすべてに○印)。

1. 地域の人たちの交流行事(運動会、防災訓練、夏祭りなど)に参加
2. 一人暮らし高齢者の話し相手・相談相手
3. 自分たちと同じ障がいのある人の話し相手・相談相手
4. 買い物やごみ出しの手伝い
5. 家の前や地域の清掃活動
6. 地域の子どもたちとの交流行事に参加
7. 通学時の子どもたちの見守り
8. 地域の防犯パトロールへの参加
9. その他()
10. 特にない

→問50 問49で「18. どこにも相談しなかった」に○をつけられた方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか（あてはまるものすべてに○印）。

1. どこに相談していいかわからなかったから
2. 自分で解決できたから
3. 時間がかかると困るから
4. 自分にも責任があると思ったから
5. 面倒だから
6. その他（ ）

問51 あなたは、トラブルにあったときにどうすればいいか、どのような方法で知りたいですか（あてはまるものすべてに○印）

1. 相談窓口で教えてほしい
2. 広報紙やホームページ
3. パンフレットやチラシ
4. 学校の授業
5. 講演会など
6. SNS（ソーシャルネットワーキングサービス^(※)）など
7. その他（ ）

^(※) SNS…人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス

芦屋市の取り組みについておたずねします。

問52 芦屋市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか（1つに○印）。

1. はい
2. いいえ
3. どちらでもない



問53 芦屋市が行っている各種障がい者（児）施策に期待すること、重要だと思ふことは何ですか（もっとも思ふもの5つまでに○印）。

1. 障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実する
2. 何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする
3. サービス利用の手続きを簡単にする
4. 市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする
5. 保健や福祉の専門的な人を増やす
6. 参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動を増やす
7. いろいろなボランティア活動を増やす
8. 在宅での生活や介助がしやすいサービスを増やす
9. 障がいのある人が身近な地域で医療・リハビリが受けられる医療を充実する
10. 障がいを早期に発見し次につなげる健診・相談・指導体制を充実する
11. 障がいのある人の地域生活を支えるため、財産管理などを支援する権利擁護を推進する
12. 障がいがあってもなくても、ともに学べるような保育・教育内容をさらに推進する
13. 保育所・幼稚園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制をつくる
14. 子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みをつくる
15. 障がいのある人の地域生活を住民同士が助け合い支援していく活動を増やす
16. 生活訓練のできる、通える施設を増やす
17. 仕事に就くための訓練や働く場を増やす
18. 障がいがあってもなくても、住民同士がふれあえる機会や場を増やす
19. 利用しやすいよう道路・建物などをバリアフリー化する
20. グループホームなどの住む場所を増やす
21. 災害時の避難体制を整える
22. 防犯対策を充実する
23. 差別や偏見をなくすため、学びの場やお知らせを増やす
24. その他（

かいごしゃ じょうきょう
介護者の状況についておたずねします。

いこう かぞく かいごしゃ かん しつもん かぞく かいごしゃ ばあい とい かいどう
※以降は、ご家族の介護者に関する質問です。ご家族の介護者がいない場合（問7で1，2を回答）は
かいどうふよう
回答不要です。

とい おも かいごしゃ ねんれい なんさい
問54 主な介護者の年齢は何歳ですか。

まん () さい (平成29年1月1日現在)

とい おも かいごしゃ けんこうじょうたい じるし
問55 主な介護者の健康状態はいかがですか（1つに○印）。

1. よい 2. ふつう 3. よくない

とい かいご こま ぶんあん じるし
問56 介護をするうえで、困っていることや不安などがありますか（あてはまるものすべてに○印）。

1. 医療費や交通費などの経済的負担が大きい
2. 福祉サービスの負担（手続きや利用料）が大きい
3. 介助で仕事や家事ができない
4. 介助で自由に外出できない
5. 介助で自分の時間が持てない
6. 介助で心身ともに疲れる
7. 将来の見通しがたてられない
8. 自分の健康について不安がある
9. 緊急時などに頼れる先がない
10. その他 ()
11. 特にない



さいごに、ご意見・ご提案などがありましたらご自由にお書きください。

A large rectangular area with a solid border and horizontal dashed lines, intended for writing responses.

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。



あしやっち



モダンちゃん



コバノちゃん



ポロンくん

あしやしじりつしえんきょうぎかい さくせい ふくし おしえて! 芦屋っぴ とうじょう
芦屋市自立支援協議会で作成された「福祉マップ おしえて! 芦屋っぴ」に登場するキャラクターです。

※問27, 29 のサービス・事業の説明※

別紙

サービス・事業名	内容
1. 居宅介護(ホームヘルプ)	自宅でヘルパーが、入浴、トイレ、食事の介護などを行います。
2. 重度訪問介護	重度の障がい者に自宅でヘルパーが、入浴、トイレ、食事の介護、外出時の移動支援などを行います。
3. 同行援護	視覚障がいによって移動が困難な人にヘルパーが同行し、支援を行います。
4. 行動援護	障がいのある人が行動するときに危険をさける等の必要な支援を行います。
5. 重度障害者等包括支援	重度の障がいのある人に対して、すべての障がい福祉サービスを含んだ支援を行います。
6. 短期入所(ショートステイ)	短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
7. 療養介護	病院において医療的な管理のもと、介護や日常生活の支援を行います。
8. 生活介護	昼間に介護や創作的活動または生産活動の機会を提供します。
9. 施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排せつ、食事の介護などを行います。
10. 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立した日常生活や社会生活ができるよう、必要な訓練を行います。
11. 就労移行支援	職場実習等を通して、自分に合った職場への就労に必要な訓練を行います。
12. 就労継続支援 [A型:雇用型]	就労が困難な人に、働く場を提供します。(雇用契約、社会保険あり)
13. 就労継続支援 [B型:非雇用型]	就労が困難な人に、働く場を提供します。
14. 共同生活援助(グループホーム)	平日の夜間等に仲間と一緒に生活できる場。

(裏面に続く)

サービス・事業名 <small>じぎょうめい</small>	内 容 <small>ない よう</small>
16. 放課後等デイサービス <small>ほうかごとう</small>	学校通学中の障がいのある児童に対し、生活能力向上のための訓練や放課後等の居場所づくりを行います。
17. 保育所等訪問支援 <small>ほいくしょとうほうもんしえん</small>	保育所等を訪問し、障がいのある児童に対して集団生活への適応のための専門的な支援を行います。
18. 計画相談支援 <small>けいかくそうだんしえん</small>	障がいのある人の自立を支え、課題の解決や適切なサービス利用をするためのケアマネジメントによりサービス等利用計画を作成し、きめ細かく支援を行います。
19. 地域移行・地域定着支援 <small>ちいきいこう ちいきていちやくしえん</small>	入所施設等から地域での生活に移るとき、または移ってからしばらくの間支援を行います。
20. 障害児相談支援 <small>しょうがいじそうだんしえん</small>	障がい児通所支援の利用に関して、障がい児相談支援事業所が子どもの様子や状態をお聞きし、障がい児支援利用計画を作成します。
21. 意思疎通支援 <small>いしそつうしえん</small>	障がいのある人とない人との多様な意思疎通手段を支援します。
22. 移動支援事業 <small>いどうしえんじぎょう</small>	社会参加を促進するため、ヘルパーが外出のための支援を行います。
23. 地域活動支援センター <small>ちいきかっどうしえん</small>	創作的活動や生産活動の機会を提供します。
24. 日中一時支援事業 <small>にちちゅういちじしえんじぎょう</small>	日中における活動の場の確保を支援します。
25. 自立生活援助 <small>じりつせいかつえんじょ</small> (平成30年度より実施予定) <small>へいせい ねんど じっしよてい</small>	障がい者施設等を利用していた人で1人暮らしを希望する人に必要な支援を行います。
26. 就労定着支援 <small>しゅうろうていやくしえん</small> (平成30年度より実施予定) <small>へいせい ねんど じっしよてい</small>	就労移行支援等の利用を経て一般就労へ移行した人で就労に伴う環境変化により生活面に課題が生じている人へ課題解決に向けた支援を行います。
27. 居宅訪問型児童発達支援 <small>きょたくほうもんがたじどうはつたつしえん</small> (平成30年度より実施予定) <small>へいせい ねんど じっしよてい</small>	児童発達支援等の通所支援を希望する外出が著しく困難な障がいのある児童に、児童の居宅に訪問し日常生活における基本的な動作の指導などの支援を行います。